

CATO『医学生共用試験 CBT 出題基準-問題作成のための指針-』作成について

はじめに

今般、公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）では、共用試験 CBT の問題作成依頼のための独自の『医学生共用試験 CBT 出題基準－良質な問題作成のための指針－（以下 CBT 出題基準）』を作成することにした。

これまで会員大学への CBT の問題作成の依頼は『医学教育モデル・コア・カリキュラム（以下モデル・コア）』に基づいて行ってきた。『モデル・コア』は、平成 13（2001）年 3 月に「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」として策定され、これ以降、平成 19（2007）年 12 月、平成 23（2011）年 3 月、平成 29（2017）年 3 月、そして令和 5（2023）年 3 月に改訂版が発表されて、我が国の医学教育の指針として利用されてきた。しかし、最新の令和 4 年度版では『モデル・コア』の表現がアウトカム基盤型の考え方に則った資質・能力ごとの記載に変更され、学修目標がアウトカム（「理解することができる」の文言となり、知識の深さを連想することが不可能）として記載された。そのため、全国の医学部・医科大学に CBT 問題の作問を依頼する際に、問題作成者に問題の内容・学修目標が適切に伝わらないかとの疑問が生じた。そこで、CATO では令和 4 年度版『モデル・コア』の内容を踏まえて、CATO としての『CBT 出題基準』を策定することにした。

『モデル・コア』と CBT 問題作成の関連

『モデル・コア』と CBT 問題作成の関係については、平成 19 年度版の「医学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドラインの改訂に当たって」に以下の記載がある。

「モデル・コア・カリキュラム作成の背景となったのは、膨大となった医学の知識と技術の量を整理するとともに、医学・医療に対する社会のニーズの変化に対応して全ての医学生が履修すべき必要不可欠な教育内容を提示することが求められてきたからである。

（中略）

モデル・コア・カリキュラムには、大学卒業時までに修得すべき総合的知識・技能・態度についての一般目標と到達目標が具体的に記載されており、特に臨床実習開始前までに習得すべき知識・技能のレベルも提示された。

これらを受けて、平成 14 年から各医学部・医科大学においてカリキュラム改革が進められてきた。さらにモデル・コア・カリキュラムの到達目標に準拠した臨床実習開始前の全国的に共通な標準評価試験（共用試験：CBT 及び OSCE）も平成 14 年から試行（トライア

ル)が始まり、平成17年度から正式実施されている。」

これからも分かるように、『モデル・コア』策定の目的の1つに、「到達目標に準拠した標準評価試験（共用試験 CBT と OSCE）を導入・実施するための基準を示すことがある。今般、設定した『CBT 出題基準－良質な試験問題作成のための指針－（CBT 出題基準）』は、全国の医学部・医科大学の教員に共用試験 CBT 問題作成を依頼する時に、その評価目標を明確に示して、良質な問題を作成していただくことにある。したがって、『モデル・コア』での学修目標とは異なり、あくまでも「良質な CBT 問題を作成するための指針」と捉えていただきたい。

CATO の役割と任務として、「医学・歯学等の医療系会員大学において、態度・技能・知識について評価試験を実施し、医療人としての適性と能力を全国的に一定水準に確保することにある」があげられている。そして、知識を評価する CBT は「蓄積されたプール問題を用いて、ランダム出題方式により試験を実施する。プール問題の蓄積と入れ替えのために会員大学に新規問題作成を依頼する。そして、作成・提出された新規問題を CATO から委嘱された委員でブラッシュアップ作業を行う。試験終了後に各試験問題を評価し、優れた問題の継続的蓄積を行っている」のである。この最初のステップである会員大学への問題作成依頼時には適切で明確な表現の問題作成依頼文が必要である。このために、今般『CBT 出題基準』を作成した。

『CBT 出題基準』策定の要点

『CBT 出題基準』の策定に際しては『モデル・コア・カリキュラム改訂版』を参考にした。特に、平成28年度版と令和4年度版については策定されている目標の1つひとつを吟味した。

1. プロフェッショナリズム

平成28年度版、令和4年度版にプロフェッショナリズムについては詳細に記載されており、到達目標も多岐にわたっている。しかし、これらの到達目標には、プロフェッショナリズムであるがゆえに態度・習慣に関する目標が少なからず含まれている。これらの目標には文書ベースの筆記試験の CBT では適切な評価を行える問題の作成が困難なものもある。このため、CBT での評価が適さない到達目標、筆記問題（CBT）として作成し難い目標は今回の『CBT 出題基準』から外した。これら目標は CBT ではなく、OSCE 等で評価することを提言する。

また、『モデル・コア』でプロフェッショナリズムと公衆衛生の両領域で記載されていた目標については、適宜選択してどちらかの領域に振り分けた。

2. 基礎医学領域

『共用試験 CBT』と『医師国家試験』の整合性（到達目標の受け持ちともいうべきこと）については過去から頻繁に討議されてきた。その集大成として結実した1つが、2018年に大幅に改定された『医師国家試験の問題数と試験日程』の変更である。この年から医師国家試験は500題から400題となり、試験日も3日間から2日間に短縮された。そして、この際に議論されたのが、問題数を削減することにより医学生の質・知識の低下が起こらないかであった。この点について共用試験 CBT と医師国家試験の内容の比較検討が膨大な数の試験問題で実施され、重複する問題が少なからずあることが確認された。そして、共用試験 CBT では主に基礎医学領域、社会医学領域の到達目標を評価し、医師国家試験では社会医学領域と臨床医学領域の到達目標を評価することで十分に補い合えとの結論になった。国家試験では基礎医学領域の到達目標の評価を削減する代わりに共用試験 CBT で評価することが提案され、CBT では基礎医学的要素が強い病態生理・解剖領域での到達目標（CBT 問題）を充実する方向性が示された。

今般の『CBT 出題基準』策定においては従来の『モデル・コア』の各目標に対して基礎医学教員を中心として審議を繰り返し、一部の『モデル・コア』の学修目標はその内容・領域を変更して『CBT 出題基準』を策定した。また、『モデル・コア・カリキュラム改訂版』では臨床系に記載されていた「構造と機能」についても、基礎系委員がこれらの個々の目標について検討を行い、臨床系の担当委員と協働して適切な到達目標とした。

3. 社会医学領域

社会医学領域については『モデル・コア・カリキュラム改訂版』の学修目標を基本的には利用した。国家試験と共用試験 CBT の差別化をするために、『CBT 出題基準』には臨床実習で必要とされる項目は詳細に記載し、臨床実習を通じて、医師となったときに必要な知識については大枠を記すに止めた。

また、『モデル・コア』で社会医学とプロフェッショナリズムの両領域で設定された目標については取捨選択して、どちらかに振り分けた。

4. 臨床医学領域

臨床医学領域の『CBT 出題基準』については、「機能と構造」は『モデル・コア』を参考にしつつ、基礎系委員と協働して目標を設定した。また、各疾患については知識・到達目標の深度を明確にした。すなわち、臨床実習前までに病因、疫学、病態生理、検査、症候、診断のどの分野まで記憶すべきかを『CBT 出題基準』として記載した。また、疾患・症候群に特異的な治療法が開発され、その治療法が臨床実習前に必要な知識である場合には、治療についても『CBT 出題基準』に記載した。

これら到達目標の知識の深度を記載する疾患は令和4年度版『モデル・コア』と『厚生労働省科学研究班の報告』*および『令和6年版医師国家試験出題基準（以下国家試験出題基

準)』を基にして選抜した。

*『厚生労働省科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）（以下厚労科研）』での『ICTを活用した卒前・卒後のシームレスな医学教育の支援方策の策定のための研究 分担研究：医師国家試験出題基準の改定に向けた提言のための研究 研究代表者 門田守人、研究分担者 伴信太郎（臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業）』

令和4年度版『モデル・コア』では【基本疾患】として必修的な疾患が記録されている。

『厚生労働省科学研究班』の報告書では、「医師国家試験出題基準で提示されている病態・疾患」を、クラスA：プライマリ・ケア領域で頻度が高い病態・疾患、緊急対応が必要な病態・疾患、クラスB：臨床研修で経験すべき病態・疾患、クラスC：臨床研修で研修すべき病態・疾患の範囲を超えるもの、削除：極めて稀、専門診療の範囲、の4群に分類している。各疾患のこれら分類への評価は医学教育・診療に精通している6人のメンバーで行われ、産婦人科、精神科、救急科の3領域については3名の専門コンサルタントが加わって行われた。

同様に『国家試験出題基準（令和6年度版）』では従来は【必修の基本的事項】のなかの12.主要疾患・症候群として必修の疾患群が記載されている。しかし、この主要疾患・症候群は臨床実習を修了して、医師となるとときに必修の疾患・症候群である。このため、『国家試験出題基準』では【医学各論】の疾患を『厚生労働省科学研究』と同様に「a、b、c群」に分類している。今般はこれら3つの資料をもとに、『CBT出題基準』の必須疾患群を選抜して、学修目標の項目を詳細に記載することにした。今般は、『厚生労働省科学研究』の「クラスA、B、C」、『国家試験出題基準』の「クラス分類：a、b、c」と区別するために「Ⅰ、Ⅱ群」とした（表1：『CBT出題基準』でのⅠ群とⅡ群疾患の分野別一覧表）。

これらⅠ群の疾患・症候群はタイプQ（順次解答四連問形式）とタイプM（診断、病態・基盤）で出題する疾患・症候群として適切であり、今後はこれら疾患・症候群のタイプQ、タイプMの問題作成を依頼することになると考える。

タイプQは我が国独自の試験形式で、臨床推論能力を訓練・修得するために必要な試験である。医療面接、身体診察、検査と診療ステップを進むたびに患者情報を取捨選択して疾患・症候群を絞り込む形式の試験問題である。そして、最終的に絞り込まれた疾患の病態生理を問うことで基礎医学的要素も出題している。このような実診療で明日から医学生が診療をしなければならぬ疾患はそれほど多くは無く、今回の『CBT出題基準』でのⅠ群疾患（病因～診断までのすべての事項について知っておく必要がある）がこれに相当する疾患・症候群として選抜した。

なお、疾患・症候群のクラス分類（Ⅰ群、Ⅱ群）は『モデル・コア』にしたがった分野別で行ったが、複数の分野に共通する疾患・症候群も存在する。この際には、できるだけCBT問題を出題する分野にしたがって分類したが、臨床分野で修得が必要な疾患もある。すなわち、発疹（例えば麻疹、水痘、急性耳下腺炎など）は、感染症ばかりでなく皮膚科や小児科

でも学修することが必要な疾患である。このため、両分野でのクラス別とした。少なからぬ疾患・症候群がこの範疇に入っている。ただし、CBT ではどちらかの分野で出題されることが多いが、どちらの分野で出題されるかについては諸般の事情により行わなかった。

また、症候をきたす疾患・症候群は多岐であり、多くの疾患・症候群が列挙されている。これらは病因、疫学から診断までを学修する必要はなく、鑑別診断をする際に考えなくてはならない疾患・症候群も少なからずある。このため、極めて稀な疾患・症候群も含まれている。ただし、今般の『出題基準』ではタイプ M（多選択肢択一問題）では選択肢に用いる疾患・症候群は予め機構で選定しているので、この一覧表を作成した。

腫瘍に関しては、平成 28 年度版では C-4-6) (C-4 病因と病態) と E-3 腫瘍 (全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療) に記載されていたが、今般はこれらをまとめた。これは内容の重複をさけて適正な問題とすることを意図している。また、臨床の各分野に散らばって存在していた臓器別腫瘍もここにまとめた。ただし、乳癌は乳腺領域の疾患が極めて少なく、しかも疾患が関連しているため、「D-11 乳房」に残した。また、白血病はほかの領域の腫瘍とは異なるので、「D-1 血液・造血器・リンパ系」とした。

5. 全般的な事項

CATO では良質な問題約 28,000 題をプール問題としてプールしている。これら問題は採点問題として出題され、IRT 標準スコアの算出に利用されている。これら採点対象問題としてプール化されている問題を活用するためには、『モデル・コア』での「モデル・コア・カリキュラムコード (コア・カリコード)」を活用する必要がある。このため、従来の「コア・カリコード」に準じて今回設定した『CBT 出題基準』を記載することにした。記載法は、①削除項目の「コア・カリコード」は削除して、次項目を詰めて「コア・カリコード」にした。②追加項目は、追加が必要な項目の後に番号 (①、②、③・・・となる) を加えて、順次項目を記載した。これは従来の「コア・カリコード」の項目を有効利用するために『学修目標』に『CBT 出題基準』を紐付けする操作を最小限に抑え、学生が解く問題集でのプール問題の検索を容易にするためである。③各項目の文末は「～示すことができる」「～概説できる」「説明できる」として修得する深度を表した。

終わりに

今般『CBT 出題基準』を設定したが、これは良質な問題を会員大学に依頼する時の具体的な内容を記載するためである。これにより出題者は参加型臨床実習前 CBT 試験を適切な内容で作成することを期待するものである。

CBT出題基準

A プロフェッショナリズム	
A-1 医の倫理と患者の権利、医師としての責務	
A-1-1) 医の倫理と生命倫理	
A-1-1)-①	生と死に関わる倫理的問題（医学の歴史の中で指摘されてきた問題を含む）を列挙し、その問題点と矛盾点を指摘できる。
A-1-1)-②	診療現場における倫理的問題に関する規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章、等）を列挙し、それらの要点や未解決の問題点を説明できる。
A-1-2) 患者中心の視点	
A-1-2)-①	他者を理解するために、患者とその家族等のもつ価値観と社会的背景の多様性（世代、文化、宗教、経済状況、教育環境、等）について、具体例を示すことができる。
A-1-2)-②	他者を適切に理解するための妨げとなる自分と自集団の偏見（身分や社会的地位に対する偏見、マイノリティーに対する偏見、等）について、具体例を示すことができる。
A-1-2)-③	患者を含めた他者に思いやりを示す行動（配慮、共感、尊重、等）とそうでない行動（無関心、差別、等）について、具体例を示すことができる。
A-1-2)-④	リスボン宣言等に示された患者の基本的権利（自己決定権を含む）を説明し、それらを逸脱したケースを指摘できる。
A-1-3) 医師としての責務と裁量権	
A-1-3)-①	患者や一般市民と接する機会（医療体験実習、診療参加型臨床実習、等）において、専門職集団の一員としての信頼関係を築くために取るべき行動と避けるべき行動について、具体例を示すことができる。
A-1-3)-②	患者や社会に対して誠実である行動（利益相反を含む正確な情報提供、患者による選択の尊重、個人情報の保護、等）とそうではない行動（必要な情報の秘匿や隠蔽、不適切な広告や宣伝、等）について、具体例を示すことができる。
A-1-3)-③	医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を具体的に説明できる。
A-1-3)-④	医療従事者の能力（専門性等）と環境（医療資源等）により、診断と治療および対人サービスの限界があるケースについて（医療従事者のバーンアウト、そのリスク、等を含む）、具体例を示すことができる。
A-1-3)-⑤	医師法が定める医師の職権と義務を列挙し、実際の診療現場の事例に即して説明できる。
<A-2 医学知識と問題対応能力 ⇒ 『CBT出題基準』からは削除、6年間のカリキュラム全体で扱うものとする。>	
<A-3 診療技能と患者ケア ⇒ 『CBT出題基準』からは削除、preOSCE・pccOSCEで評価すべきものとする。>	
<A-4 コミュニケーション能力 ⇒ 『CBT出題基準』からは削除、preOSCE・pccOSCEで評価すべきものとする。>	

A-5 チーム医療とその実践	
A-5-1) 患者中心のチーム医療	
A-5-1)-①	チーム医療の意義を説明できる。
A-5-1)-②	医療チームの構成と各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師およびその他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明できる。
A-5-1)-③	保健、医療、福祉および介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

A-6 医療の質と医療安全	
A-6-1) 安全性の確保	
A-6-1)-①	病院、診療所、施設、等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた多職種の役割を説明できる。
A-6-1)-②	医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。
A-6-1)-③	診療録（カルテ）記載法と改竄の違法性を説明できる。
A-6-1)-④	医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、転倒・転落、医療過誤、やっではないいけないこと、優れた取組事例、等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
A-6-1)-⑤	医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。
A-6-1)-⑥	患者安全のための管理体制と各々の役割（リスクマネージャー、医療安全管理委員会、等）の概要を理解している。
A-6-1)-⑦	医療関連感染症の原因と回避する方法〔院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム（infection control team <ICT>）、感染対策マニュアル、等〕を概説できる。
A-6-2) 医療上の事故への対応と予防	
A-6-2)-①	医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。
A-6-2)-②	医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録および報告を説明し、実践できる。
A-6-2)-③	医療過誤に関連した刑事・民事責任と医師法に基づく行政処分を説明できる。

A-6-2)-④	基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方、等）を概説できる。
A-6-3) 医療従事者の健康と安全	
A-6-3)-①	医療従事者に求められる健康管理（生活習慣改善、予防接種、被ばく低減策、等）と職業感染対策（結核スクリーニング、ワクチン接種、等）を説明できる。
A-6-3)-②	患者隔離の必要な場合を説明できる。
A-6-3)-③	針刺し事故（針刺し切創）等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
A-6-3)-④	医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

A-7 社会における医療の実践	
A-7-1) 地域医療への貢献	
A-7-1)-①	地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科および臨床・非臨床）の現状を概説できる。
A-7-1)-②	医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携、等）と地域医療構想を説明できる。
A-7-1)-③	地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健および精神保健）、医療、福祉および介護の分野間と多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
A-7-1)-④	地域における救急医療、在宅医療および離島・へき地医療の体制を説明できる。
A-7-1)-⑤	災害医療〔災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team <DMAT>）、災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team <DPAT>）、日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Association Team <JMAT>）、災害拠点病院、トリアージ、等〕を説明できる。
A-7-2) 国際医療への貢献	
A-7-2)-①	国際的に取り組む必要のある医療・健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて概要を説明できる。
A-7-2)-②	保健関連の国連開発目標と国際機関・国際協力に関わる組織・団体について概要を説明できる。
A-7-2)-③	医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。

A-8 科学的探究	
A-8-1) 医学研究への志向と研究倫理	
A-8-1)-①	人を対象とした研究（治験と特定臨床研究を含む）に関するルールの概要を説明できる。
<A-9 生涯にわたって学ぶ姿勢 ⇒ 『CBT出題基準』からは削除し、6年間のカリキュラム全体で扱うものとする。>	

B 社会と医学・医療	
B-1 集団に対する医療	
B-1-1) 統計の基礎	
B-1-1)-①	データを記述し、分布（山型とL型）と代表値（平均値、中央値および最頻値）を説明できる。
B-1-1)-②	生物統計の基本となる正規分布、二項分布、t分布およびカイニ乗分布を説明できる。
B-1-1)-③	正規分布を示すデータの母平均と信頼区間の意味を説明し、計算できる。
B-1-1)-④	基本的な仮説検定の構造（帰無仮説と対立仮説）を説明できる。
B-1-2) 統計手法の適用	
B-1-2)-①	2群間の平均値の有意差検定の方法を説明できる。
B-1-2)-②	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いを説明できる。
B-1-2)-③	2群間と多群間の割合の有意差検定の方法（カイニ乗検定など）を説明できる。
B-1-2)-④	分散分析の目的、対象および利用法を説明できる。
B-1-2)-⑤	2変量の散布図を描き、回帰と相関を説明できる。
B-1-2)-⑥	線形重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析および交絡調整の利用法を説明できる。
B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>	
B-1-3)-①	根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙し、説明できる。
B-1-3)-②	PICO（PECO）を用いた問題の定式化を説明できる。
B-1-3)-③	疫学研究のデザイン〔観察研究（記述疫学研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、等）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験、等）、システムティックレビューおよびメタ分析（メタアナリシス）〕を説明でき、研究内容に応じた研究計画を考えることができる。
B-1-3)-④	データベースの適切な検索法（文献検索と検索式）を考えることができる。
B-1-3)-⑤	他の研究者の発表・論文について、批判的吟味の意味と方法を説明できる。
B-1-3)-⑥	診療ガイドラインの種類、作成過程、使用上の注意および推奨の強さの違いを説明できる。

B-1-4) 疫学と予防医学	
B-1-4)-①	人口静態（人口ピラミッド、年齢三区分人口、等）、人口動態（人口動態五事象、出生率、死亡率、死因別死亡率、等）、疾病・障害の分類（ICDの内容、目的および活用）を説明できる。（最新の人口静態・動態データを問うようなものは避ける）。
B-1-4)-②	生命表（完全生命表と簡易生命表）の内容（生命関数など）、平均余命および平均寿命を説明できる。
B-1-4)-③	代表的な健康寿命について説明でき、健康寿命の延長を目指す保健施策を列举できる。
B-1-4)-④	割合、比および率の違い、有病率、罹患率、死亡率、致命率、受療率、等を説明できる。
B-1-4)-⑤	疫学の意義、代表的な疫学指標（相対危険、寄与危険、オッズ比、等）および疫学研究の結果に影響を及ぼすものの（バイアスと交絡因子）を説明できる。
B-1-4)-⑥	標準化の意味と手法（直接法と間接法）を説明できる。年齢調整死亡率と標準化死亡比の意味を説明し、計算できる。
B-1-4)-⑦	予防医学の考え方（一次予防、二次予防および三次予防）を説明でき、各予防段階の実例を列举できる。
B-1-4)-⑧	健康増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指摘）を概説できる。
B-1-4)-⑨	ヘルスフォーオール、プライマリヘルスケア（アルマ・アタ宣言）、ヘルスプロモーション（オタワ憲章）、等の健康の保持と増進に関する基本的な考え方を説明できる。
B-1-5) 生活習慣とリスク	
B-1-5)-①	これまでの健康増進施策（国民健康づくり運動と健康日本21）の目的、具体的活動および方法を説明できる。
B-1-5)-②	栄養摂取状況の現状（「国民健康・栄養調査」など）を説明でき、「日本人の食事摂取基準」に基づく食生活の改善方法について説明できる（最新の「国民健康・栄養調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-5)-③	食育の意義と具体的な活動（法制、施策、地域、法人および個人レベル）について説明できる。
B-1-5)-④	身体活動と運動の評価法（METsの計算）と日本人の身体活動についての現状（「国民健康・栄養調査」の結果など）について説明でき、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド」を概説できる（最新の「国民健康・栄養調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-5)-⑤	睡眠の量と質の現状について説明でき（「国民健康・栄養調査」など）、ライフスタイルに合わせた改善方法を概説できる（最新の「国民健康・栄養調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-5)-⑥	自殺対策を含むメンタルヘルス対策について、健康増進の観点から説明できる。
B-1-5)-⑦	喫煙の現状、健康影響（有害性）、受動喫煙防止および禁煙支援について説明できる（最新の「国民健康・栄養調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-5)-⑧	飲酒の現状、健康影響（有害性）およびアルコール依存症からの回復支援を説明できる（最新の「国民健康・栄養調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-5)-⑨	ライフステージ（幼年期、少年期、思春期、青年期、壮年期、更年期、老年期、等）の各段階での健康の保持・増進について列举し、説明できる。
B-1-6) 社会・環境と健康	
B-1-6)-①	WHOの「健康の定義」を説明でき、健康と生活の質<QOL>についての考え方を説明できる。
B-1-6)-②	機能障害、活動制限および参加制約の考え方（国際生活機能分類<ICF>など）と具体的内容を説明できる。さらに、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、等の考え方を説明でき、具体例を列举できる。
B-1-6)-③	「国民生活基礎調査」などの結果をもとに、健康の社会的決定要因（SDH<Social Determinant of Health>）を説明でき、改善のための具体的働きかけを列举できる（最新の「国民生活基礎調査」の結果を問うようなものは避ける）。
B-1-6)-④	ヒトの健康に影響を与える物理的、化学的、生物学的および社会的環境要因〔大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭、公害事件（水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく及び慢性ヒ素中毒）および地球温暖化を含む〕を列举し、その健康影響の内容（量-反応関係と量-影響関係）と健康影響からヒトを守るための社会的仕組み（上水道、下水道、廃棄物処理、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、環境基本法、等）を説明できる。
B-1-6)-⑤	産業保健の考え方、意義、労働衛生3管理（健康管理、作業管理および作業環境管理）、産業医の職務、作業関連疾患と職業病、産業化学物質暴露による健康影響、産業中毒、メンタルヘルス対策およびTHP活動の具体的内容を列举し、説明できる。
B-1-6)-⑥	成人期における生活習慣病またはNCDs <Non-Communicable Diseases>（がん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病およびCOPD）対策の現状と課題を説明できる。
B-1-6)-⑦	高齢者における健康問題を概説し、高齢者の保健（高齢者の暮らし、要介護の状態、フレイルおよびサルコペニア）について説明できる。
B-1-6)-⑧	地域保健法に基づく保健所と市町村保健センターの業務の具体的内容を列举し、説明できる。

B-1-6)-⑨	母子保健について、各種法制度（母子保健法、母体保護法、成育基本法、児童福祉法、児童虐待防止法、労働基準法、等）、具体的母子保健施策（「健やか親子21」、養育医療、児童虐待対策、等）、子育て支援に関する法制度（育児・介護休業法、男女雇用機会均等法、等）および具体的支援策を説明できる。
B-1-6)-⑩	少子化の背景と少子化対策の取り組みを説明できる。
B-1-6)-⑪	学校保健について、学校保健安全法に基づく学校保健の意義を列挙し、学校医の職務と学校感染症の取り扱いについて説明できる。
B-1-6)-⑫	競技スポーツにおける身体の働き（運動機能と代謝機能）を説明し、個人の種目やライフスタイルに合わせた活動を提案できる。
B-1-7) 地域医療	
B-1-7)-①	地域の医療体制（医療機能、かかりつけ医、等）の現状と問題点について説明できる。
B-1-7)-②	医師の偏在（地域、診療科および臨床・非臨床）の現状と、その対策（地域医療支援センター等）について概説できる。
B-1-7)-③	無医地区の定義と現状を説明できる。へき地・離島の医療の現状について概説し、へき地医療に携わる組織（へき地医療支援機構、へき地医療拠点病院およびへき地診療所）を説明できる。
B-1-7)-④	医療法に基づく医療計画の内容（医療圏、基準病床数、5疾病6事業、地域医療構想、等）を説明できる。
B-1-7)-⑤	地域医療支援病院、特定機能病院、臨床研究中核病院、紹介受診重点医療機関、等、医療法に定められている医療施設（病院と診療所）の機能について説明できる。
B-1-7)-⑥	地域包括ケアシステムの考え方を概説し、地域における保健、医療、介護および福祉の協働〔地域包括支援センターの機能（高齢者の虐待防止を含む）〕について説明できる。
B-1-7)-⑦	プライマリケア医の役割とかかりつけ医の定義を列挙し、地域の医療に必要な能力を説明できる。
B-1-7)-⑧	在宅医療と救急医療（へき地・離島における救急医療を含む）の体制について説明できる。
B-1-7)-⑨	健康危機管理について概説でき、災害医療の体制、災害医療に携わるさまざまな組織（保健所、医療救護班、災害派遣医療チーム<DMAT>、災害派遣精神医療チーム<DPAT>、日本医師会災害医療チーム<JMAT>および災害拠点病院）を説明できる。
B-1-7)-⑩	トリアージ（START法）の意義と方法を説明できる。
B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度	
B-1-8)-①	社会保障制度の種類（公的年金制度、公的医療保険制度、雇用保険制度、労災保険制度、介護保険制度および生活保護）を列挙し、説明できる。
B-1-8)-②	公的年金制度（国民年金、厚生年金および共済年金）の動向と課題を説明できる。
B-1-8)-③	公的医療保険制度の概要、保険の種類（被用者保険、組合健康保険、協会けんぽ、共済組合、国民健康保険、後期高齢者医療保険、等）および保険医療のしくみを概説し、現状と問題点を説明できる。
B-1-8)-④	介護保険の制度（第一号被保険者、第二号被保険者、特定疾病、等）と要介護認定のしくみ（要介護認定審査と主治医意見書）を概説し、現状と問題点を説明できる。
B-1-8)-⑤	公費医療の種類（医療扶助、難病対策、等）と制度を列挙し、説明できる。
B-1-8)-⑥	国民医療費の対象、内容、内訳、財源、動向および将来の予測を説明できる。
B-1-8)-⑦	高齢者福祉と高齢者医療の制度と現状を説明できる。
B-1-8)-⑧	労働基準法、労働安全衛生法、等の産業保健関連法・規則を説明できる。
B-1-8)-⑨	医療の質の確保に関する取り組み（病院機能評価、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス、等）を説明できる。
B-1-8)-⑩	患者安全のための管理体制（リスクマネージャー、医療安全管理委員会、等）、各々の役割およびインシデントの取り扱いを説明できる。
B-1-8)-⑪	医療法の目的と患者中心の医療についての考え方を概説し、制度（インフォームド・コンセント等）を説明できる。
B-1-8)-⑫	医師法と医療法に定められた診療録と診療諸記録の取り扱いを説明できる。
B-1-8)-⑬	医師法に定められている医師の義務（異状死体の届出、死亡診断、死亡診断書・死体検案書の作成、等）と職権を説明できる。
B-1-8)-⑭	医療における費用対効果の考え方を概説し、分析の手法について説明できる。
B-1-8)-⑮	医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。診療報酬制度を説明でき、同制度に基づいた診療計画を立てることができる。
B-1-8)-⑯	各種医療職の業務範囲と各種医療職・医師の連携（タスクシフトとタスクシェア）と医師の働き方改革との関係を説明できる。
B-1-8)-⑰	医療職に関する法制度（保健師助産師看護師法、薬剤師法、歯科医師法、臨床検査技師等に関する法律、臨床放射線技師法、理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、臨床工学技師法、救急救命士法、等）を説明できる。

B-1-8)-⑮	感染症法（目的、感染症の類型、一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症、感染症患者の医療、病原体の取扱い、等）に基づく各種健康危機管理について概説し、医師の届出義務を説明できる。
B-1-8)-⑯	食品安全基本法および食品表示法（保健機能食品制度、アレルギー物質表示、等）を概説でき、食品衛生法（食中毒）に基づく各種健康危機管理について概説し、医師の届出義務を説明できる。
B-1-8)-⑰	予防接種法に基づく各種予防接種の意義と現状（定期接種、A類疾病、B類疾病、臨時接種、予防接種健康被害救済制度、等）について説明できる。
B-1-8)-⑱	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に基づく、障害者福祉の概要と現状を説明できる。
B-1-8)-㉔	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）（精神保健指定医、任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院、緊急措置入院、等）に基づく、精神障害者福祉の概要と現状（入院期間、入院患者の疾病別内訳、等）を説明できる。
B-1-9) 国際保健	
B-1-9)-①	世界の保健・医療問題を列挙し、UHC <Universal Health Coverage>、SDGs <Sustainable Development Goals>の中の保健関係目標、母子保健、感染症およびNCDs <Non-Communicable Diseases>について説明できる。
B-1-9)-②	世界の保健や医療の問題に関する多国間協力と関係機関〔国際連合（United Nations <UN>）、世界保健機関（World Health Organization <WHO>）、国際労働機関（International Labour Organization <ILO>）、国連合同エイズ計画（The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS <UNAIDS>）、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria <GF>）、GAVI アライアンス（The Global Alliance for Vaccines and Immunization <GAVI>）、非政府組織（Non-Governmental Organization <NGO>）〕、二国間協力と関係機関〔国際協力機構（Japan International Cooperation Agency <JICA>）および政府開発援助（Official Development Assistance <ODA>）〕について概説できる。

B-2 法医学と関連法規	
B-2-1) 死と法	
B-2-1)-①	植物状態、脳死、心臓死および脳死判定（臓器移植法と脳死判定基準）について説明できる。
B-2-1)-②	異状死・異状死体の定義と取り扱い（届け出など）、死体検案との関連性を説明できる。死体検案に関して死体現象（死斑、死後硬直、直腸温、等）について説明できる。
B-2-1)-③	死亡診断書と死体検案書の内容、違いと使い分けを説明できる。
B-2-1)-④	個人識別の手法（歯牙、骨格、DNA型、等）を列挙し、それぞれの特性と、どのような場合に行われているか説明できる。
B-2-1)-⑤	病理解剖と法医学解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖および承諾解剖）の違いを説明できる。法医学解剖のそれぞれの解剖の役割を説明できる。
B-2-2) 診療情報と諸説明書	
<臨床実習で実際の診療録、診療諸記録等を見ての学修が望ましく、『CBT出題基準』からは削除した>	

B-3 医学研究と倫理	
B-3-1) 倫理規範と実践倫理	
B-3-1)-①	捏造、改ざん、盗用、等を含め研究不正の類型を説明できる。
B-3-1)-②	利益相反<COI>とは何か、利益相反の研究に与える影響とその排除の方法（COIの開示など）について説明できる。
B-3-1)-③	動物実験と遺伝子組み換え実験に関するルールを説明できる。
B-3-1)-④	人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針と倫理審査委員会（Institutional Review Board <IRB>）を概説できる。
B-3-1)-⑤	薬物に関する法令（薬機法、麻薬及び向精神薬取締法、大麻取締法、等）を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。
B-3-1)-⑥	副作用と有害事象の違いと報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。

B-4 医療に関連のある社会科学領域	
B-4-1) 医師に求められる社会性	
B-4-1)-①	性別やLGBTQに対する差別等、ジェンダー不平等をなくす重要性を概説し、医療者のとるべき行動を説明できる。

C 医学一般	
C-1 生命現象の科学	
C-1-1) 生命の最小単位-細胞	
C-1-1)-(1) 細胞の構造と機能	
C-1-1)-(1)-①	細胞と組織の観察法を概説できる。
C-1-1)-(1)-②	細胞の全体像を図示して説明できる。
C-1-1)-(1)-③	核とリボソームの構造と機能を説明できる。
C-1-1)-(1)-④	滑面小胞体、粗面小胞体、ゴルジ体およびリソソーム、等の細胞内膜系の構造と機能を説明できる。
C-1-1)-(1)-⑤	ミトコンドリアの構造と機能を説明できる。
C-1-1)-(1)-⑥	細胞骨格の種類、その構成タンパク質およびその機能を説明できる。
C-1-1)-(1)-⑦	細胞膜の構造と機能を説明できる。
C-1-1)-(1)-⑧	細胞同士の接着と結合様式について説明できる。
C-1-1)-(1)-⑨	原核細胞と真核細胞のそれぞれの特徴と相違を説明できる。
C-1-1)-(2) ゲノム・染色体・遺伝子	
C-1-1)-(2)-①	Mendelの法則、ミトコンドリア遺伝、エピゲノム修飾（結果としてのインプリンティングを含む）および多因子遺伝について説明できる。
C-1-1)-(2)-②	遺伝型と表現型の関係について説明できる。
C-1-1)-(2)-③	染色体の構造を概説し、ゲノム、染色体および遺伝子の構造とそれらの関係性ならびに体細胞分裂と減数分裂における染色体の挙動について説明できる。
C-1-1)-(2)-④	デオキシリボ核酸（deoxyribonucleic acid <DNA>）の複製と修復を概説できる。
C-1-1)-(2)-⑤	DNAからRNAへの転写とタンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現と調節を説明できる。
C-1-1)-(2)-⑥	染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について概要を説明できる。
C-1-1)-(2)-⑦	ゲノム編集技術とその応用について説明できる。
C-1-2) 生物の進化	
C-1-2)-(1) 生物の進化	
C-1-2)-(1)-①	進化の基本的な考え方について説明できる。
C-1-2)-(1)-②	生物種とその系統関係を概説できる。
C-1-2)-(1)-③	アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹を概説できる。
C-2 個体の構成と機能	
C-2-1) 細胞の構成と機能	
C-2-1)-(1) 細胞膜	
C-2-1)-(1)-①	細胞内液と細胞外液のイオン組成、浸透圧および（静止）膜電位の形成機構について説明できる。
C-2-1)-(1)-②	単純拡散、イオンチャネル、トランスポーターおよびポンプによる物質の膜輸送過程について説明できる。
C-2-1)-(1)-③	細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。
C-2-1)-(2) 細胞骨格と細胞運動	
C-2-1)-(2)-①	アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。
C-2-1)-(2)-②	微小管の役割と機能を説明できる。
C-2-1)-(2)-③	細胞内輸送システムを説明できる。
C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	
C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能	
C-2-2)-(1)-①	上皮組織の構造と機能について説明できる。
C-2-2)-(1)-②	腺組織（外分泌腺・内分泌腺）の構造と機能について説明できる。
C-2-2)-(1)-③	支持組織の分類ならびにそれぞれの組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。
C-2-2)-(1)-④	神経組織を構成する細胞、その機能およびそれらの相互作用を概説できる。
C-2-2)-(1)-⑤	筋組織について、骨格筋、心筋および平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
C-2-2)-(2) 器官の位置関係	
C-2-2)-(2)-①	体部位や器官の相互位置関係を方向用語（上・下、前・後、内側・外側、浅・深、頭側・尾側、背側・腹側および近位・遠位）で説明できる。
C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス	
C-2-3)-(1) 情報伝達の基本	
C-2-3)-(1)-①	情報伝達の種類と機能について説明できる。
C-2-3)-(1)-②	液性因子による細胞間情報伝達（自己分泌、傍分泌および内分泌）について説明できる。
C-2-3)-(1)-③	受容体の種類、細胞内局在および機能ならびに受容体による細胞内シグナル伝達過程について説明できる。
C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎	
C-2-3)-(2)-①	活動電位の発生機構と伝導を説明できる。

C-2-3)-(2)-②	シナプス（神経筋接合部を含む）の形態、シナプス伝達の機能（興奮性と抑制性）および可塑性を説明できる。
C-2-3)-(2)-③	軸索輸送ならびに軸索の変性と再生について説明できる。
C-2-3)-(2)-④	刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。
C-2-3)-(2)-⑤	反射[反射中枢による分類（脳幹反射と脊髄反射）と反射経路による分類（体性体性反射、体性内臓反射、内臓体性反射および内臓内臓反射）を含む]について説明できる。
C-2-3)-(3) ホメオスタシス	
C-2-3)-(3)-①	生体の恒常性維持と適応ならびに恒常性維持のための調節機構（フィードバック調節）について説明できる。
C-2-3)-(3)-②	生体機能と体内環境のリズム性変化について説明できる。
C-2-3)-(3)-③	生体の恒常性維持における常在菌・腸内細菌と宿主との相互作用の重要性について説明できる。
C-2-3)-(3)-④	空腹時、飢餓時、食後および過食時における代謝について説明できる。
C-2-3)-(3)-⑤	運動時の神経・骨格筋、循環器および代謝系の変化を概説できる。
C-2-4) 個体の発生	
C-2-4)-①	配偶子（卵子と精子）の形成過程とその雌雄における違いを説明できる。
C-2-4)-②	受精から出生までの発生過程を胚内体腔の形成過程を含めて説明できる。
C-2-4)-③	体節の形成と分化について説明できる。
C-2-4)-④	体幹と四肢の骨格と筋の形成過程を概説できる。
C-2-4)-⑤	心血管系の形成過程を説明できる。
C-2-4)-⑥	消化器系各器官（消化管と付属腺）の形成過程（間膜を含む）を説明できる。
C-2-4)-⑦	呼吸器系各器官の形成過程について説明できる。
C-2-4)-⑧	泌尿生殖器系各器官の形成過程を概説できる。
C-2-4)-⑨	咽頭弓（鰓弓）と咽頭嚢（鰓嚢）の分化ならびに頭頸部、顔面および口腔の形成過程を説明できる。
C-2-4)-⑩	神経管と神経堤の分化ならびに脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器、自律神経系および皮膚の形成過程を説明できる。
C-2-4)-⑪	受精から出生に至る胚外構造（胚外体腔、羊膜腔、卵膜、羊水、胎盤および臍帯）の発生過程とその機能を説明できる。
C-2-5) 生体物質の代謝	
C-2-5)-①	酵素の機能と調節について説明できる。
C-2-5)-②	解糖の経路と調節機構を説明できる。
C-2-5)-③	クエン酸回路を説明できる。
C-2-5)-④	電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。
C-2-5)-⑤	糖新生の経路と調節機構を説明できる。
C-2-5)-⑥	グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。
C-2-5)-⑦	五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。
C-2-5)-⑧	各種脂質の構造、合成および分解を説明できる。
C-2-5)-⑨	リポタンパク質の構造、代謝および機能を説明できる。
C-2-5)-⑩	タンパク質の合成と分解を説明できる。
C-2-5)-⑪	アミノ酸の異化と尿素合成の経路を概説できる。
C-2-5)-⑫	ヘム・ポルフィリンの代謝の概要を説明できる。
C-2-5)-⑬	ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。
C-2-5)-⑭	フリーラジカルと活性酸素による酸化ストレスの概要を説明できる。
C-2-5)-⑮	ビタミンと微量元素の種類と作用について説明できる。
C-2-5)-⑯	栄養素の相互変換とエネルギー代謝（エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量および推定エネルギー必要量）について説明できる。

C-3 個体の反応	
C-3-1) 生体と微生物	
C-3-1)-(1) ウイルスの基本的性状と病原性	
C-3-1)-(1)-①	各種ウイルスの基本構造を図示でき、ヌクレオカプシド（カプシド）、テグメント、マトリクス、エンベロープおよびスパイクの局在と機能を説明できる。
C-3-1)-(1)-②	ゲノム核酸（DNA/RNA、一本鎖/二本鎖、+鎖/−鎖および分節の有無）、カプシド対称性およびビリオン形態に基づくウイルスの分類を説明できる。
C-3-1)-(1)-③	DNAウイルスとRNAウイルスの複製・転写過程を図示して説明できる。
C-3-1)-(1)-④	ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟および放出の過程をエンベロープウイルスとノンエンベロープウイルスに分けて説明できる。
C-3-1)-(1)-⑤	ウイルス感染による細胞変性効果（細胞融解と細胞融合）とトランスフォーメーションを説明できる。

C-3-1)-(1)-⑥	ウイルスの吸着・侵入過程におけるウイルス受容体の役割を説明でき、ウイルスに対する宿主細胞の感受性と許容性を説明できる。
C-3-1)-(1)-⑦	ウイルスの侵入門戸、伝播経路および伝播様式の関係を説明できる。
C-3-1)-(2) 各種のウイルスの特徴と病原性	
C-3-1)-(2)-①	主なDNA ウイルス [HSV-1/2、varicella-zoster<VZ>ウイルス、サイトメガロウイルス (cytomegalovirus<CMV>)、Epstein-Barr<EB>ウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルスおよびヒトパピローマウイルス] とそれらが引き起こす疾患を列挙し概説できる。
C-3-1)-(2)-②	RNAウイルス [インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、風疹ウイルス、ポリオウイルス、エンテロウイルス (ポリオウイルス、コクサッキーウイルスおよびエコーウイルス)、コロナウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、日本脳炎ウイルス、ウェストナイルウイルスおよびSFTSウイルス] とそれらが引き起こす疾患を列挙し概説できる。
C-3-1)-(2)-③	レトロウイルス [ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus<HIV>) 等] の特性と一般ゲノム構造を説明し、分類できる。
C-3-1)-(2)-④	発がんに関わるウイルスを説明できる。
C-3-1)-(3) 細菌・真菌	
C-3-1)-(3)-①	細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。
C-3-1)-(3)-②	細菌の感染経路を分類し、説明できる。
C-3-1)-(3)-③	細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。
C-3-1)-(3)-④	主なグラム陽性球菌を概説でき、ブドウ球菌属とレンサ球菌属の細菌学的特徴、それが引き起こす疾患および感染経路を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑤	主なグラム陰性球菌を概説でき、淋菌と髄膜炎菌の感染経路とそれが引き起こす疾患を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑥	主なグラム陽性桿菌を概説でき、破傷風菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、ウェルシュ菌、ガス壊疽菌群および <i>Clostridioides difficile</i> の細菌学的特徴、それが引き起こす疾患および感染経路を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑦	主なグラム陰性桿菌を概説でき、腸内細菌目細菌 (大腸菌、赤痢菌、肺炎桿菌、サルモネラ属細菌、チフス菌およびペスト菌)、グルコース非発酵グラム陰性桿菌 [<i>Pseudomonas</i> 属類縁細菌 (緑膿菌含む)、アシネトバクター属細菌]、コレラ菌、腸炎ビブリオ菌、百日咳菌、ブルセラ属細菌、レジオネラ属細菌、Q熱コクシエラ、インフルエンザ菌および <i>Moraxella catarrhalis</i> の細菌学的特徴、それが引き起こす疾患および感染経路を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑧	らせん菌群 (カンピロバクター属細菌、ヘリコバクター属細菌およびスピリルム属細菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑨	結核菌、非結核性抗酸菌およびらい菌の細菌学的特徴、感染経路およびそれが引き起こす疾患を説明できる。
C-3-1)-(3)-⑩	真菌 [アスペルギルス属真菌、クリプトコックス属真菌、カンジダ属真菌およびムコール (Mucorales 目真菌)] の微生物学的特徴、感染経路およびそれが引き起こす疾患を概説できる。
C-3-1)-(3)-⑪	梅毒トレポネーマ、ライム病ボレリア、回帰熱ボレリア、レプトスピラ属細菌、発疹熱群リケッチア、紅斑熱群リケッチア、 <i>Orientia tsutsugamushi</i> 、 <i>Mycoplasma pneumoniae</i> 、 <i>Mycoplasma genitalium</i> 、トラコーマクラミジア、オウム病クラミジアおよび肺炎クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を概説できる。
C-3-1)-(3)-⑫	生体各部の細菌叢 (マイクロバイオーーム) の構成菌と細菌叢の機能について概説できる。
C-3-1)-(4) 寄生虫	
C-3-1)-(4)-①	原虫類 (根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類および繊毛虫類) と蠕虫類 (線虫類、吸虫類および条虫類) の形態学的特徴ならびにそれらの代表例を説明できる。
C-3-1)-(4)-②	主な寄生虫の生活環と保有動物を説明できる。各寄生虫の感染経路 (経口感染、経皮感染、接触感染および経胎盤感染、等) を説明できる。
C-3-1)-(4)-③	寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。
C-3-1)-(4)-④	主な寄生虫の感染臓器を説明できる。
C-3-1)-(4)-⑤	寄生虫症の診断、治療法および予防を概説できる。
C-3-1)-(5) 他の生物が媒介する微生物感染症	
C-3-1)-(5)-①	人獣共通感染症の原因となる微生物について、その生活史、リスク因子、感染経路、病態および感染疫学的意義について説明できる。
C-3-1)-(5)-②	媒介性感染症の原因となる微生物について、その生活史、リスク因子、感染経路、病態および感染疫学的意義を説明できる。
C-3-1)-(6) 微生物感染に対する生体反応・予防	
C-3-1)-(6)-①	抗微生物作用における細胞性免疫と液性免疫 (抗体) を説明できる。
C-3-1)-(6)-②	ワクチンによる細胞性免疫誘導と液性免疫誘導を説明できる。感染予防効果、発症予防効果および重症化予防効果の違いについて説明できる。

C-3-1)-(6)-③	ワクチンの種類[生ワクチン、不活化ワクチン、コンポーネントワクチン、ウイルス様粒子 (Virus-Like Particle<VLP>) ワクチン、mRNAワクチンおよびトキシイドワクチン]について説明できる。多糖体ワクチンと結合ワクチンの適用を説明できる。ワクチンの主な副反応とその発生機序を説明できる。
C-3-2) 免疫と生体防御	
C-3-2)-(1) 生体防御と免疫系の一般特性	
C-3-2)-(1)-①	生体の非特異的防御機構を説明できる。
C-3-2)-(1)-②	自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
C-3-2)-(1)-③	補体と自然免疫細胞が病原体により活性化し、炎症を引き起こす仕組みを説明できる。
C-3-2)-(1)-④	自然免疫系を構成する主な細胞とそれらの活性化機構 (TLR等) を説明できる。
C-3-2)-(1)-⑤	免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。
C-3-2)-(1)-⑥	生体防御機構における免疫系の特徴 (特異性、多様性、寛容および記憶) を説明できる。
C-3-2)-(1)-⑦	抗原提示細胞の種類、役割および抗原提示機構について説明できる。
C-3-2)-(1)-⑧	液性免疫応答と細胞性免疫応答を説明できる。
C-3-2)-(1)-⑨	B細胞活性化による抗体産生機構を概説し、免疫における抗体の役割を説明できる。
C-3-2)-(1)-⑩	免疫学的自己の確立、免疫寛容の維持機構およびその破綻による自己免疫疾患の発症について説明できる。
C-3-2)-(2) 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割	
C-3-2)-(2)-①	主要組織適合遺伝子複合体クラスIとクラスIIの基本構造と機能ならびに抗原提示によるT細胞活性化の仕組みについて説明できる。
C-3-2)-(2)-②	免疫グロブリンとT細胞抗原レセプターの構造と反応様式 (抗原認識とシグナル伝達) について概説できる。
C-3-2)-(2)-③	免疫グロブリンとT細胞抗原レセプターの遺伝子再構成に基づく多様性獲得機構について説明できる。
C-3-2)-(3) 免疫反応の調節機構	
C-3-2)-(3)-①	抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する機構 (コレセプターと抑制性レセプター) について概説できる。
C-3-2)-(3)-②	代表的なサイトカインとケモカインを挙げ、その特徴を説明できる。
C-3-2)-(3)-③	ヘルパーT細胞 (Th1 cell、Th2 cell、Th17 cellおよびTfh cell) 、細胞傷害性T細胞および制御性T細胞のそれぞれが担当する生体防御反応について説明できる。
C-3-2)-(4) 疾患と免疫	
C-3-2)-(4)-①	ウイルス、細菌、真菌および寄生虫に対する免疫応答の特徴について説明できる。
C-3-2)-(4)-②	原発性免疫不全症候群と後天性免疫不全症候群<AIDS>を概説できる。
C-3-2)-(4)-③	アレルギーの基本的分類を挙げ、それぞれの反応について説明できる。
C-3-2)-(4)-④	がん免疫に関わる細胞性機序について説明できる。
C-3-3) 生体と薬物	
C-3-3)-(1) 薬理作用の基本	
C-3-3)-(1)-①	生体あるいは生体群の薬物・毒物反応性を示すデータとしての用量反応曲線とその解釈を説明できる。
C-3-3)-(1)-②	薬物の受容体結合と薬理作用の関連性ならびに作動薬と拮抗薬について説明できる。
C-3-3)-(2) 薬物の動態	
C-3-3)-(2)-①	薬物と毒物の吸収、分布、代謝および排泄を説明できる。
C-3-3)-(2)-②	薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。
C-3-3)-(2)-③	薬物投与方法 (経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼および点鼻、等) を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。
C-4 病因と病態	
C-4-1) 遺伝的多様性と疾患	
C-4-1)-①	ゲノムの多様性に基づく個体の多様性を説明できる。
C-4-1)-②	単一遺伝子疾患とミトコンドリア遺伝子の変異による代表的な疾患を列挙し、その特徴を、遺伝性と遺伝様式を含めて説明できる。
C-4-1)-③	染色体異常による疾患の中で主なものを挙げ、概説できる。
C-4-1)-④	エピジェネティクス制御の機序ならびにそれに関連する遺伝現象と疾患を概説できる。
C-4-1)-⑤	多因子疾患における遺伝要因と環境要因の関係を説明できる。
C-4-1)-⑥	薬剤の有効性と安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。
C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死	
C-4-2)-①	ネクロシスとアポトーシスの違いを説明でき、細胞傷害・変性と細胞死の多様性ならびにその病因と意義について説明できる。
C-4-2)-②	細胞傷害・変性と細胞死における細胞と組織の形態的变化の特徴について説明できる。
C-4-3) 代謝障害	
C-4-3)-①	糖代謝異常の病態について説明できる。

C-4-3)-②	タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態について説明できる。
C-4-3)-③	脂質代謝異常の病態について説明できる。
C-4-3)-④	核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態について説明できる。
C-4-3)-⑤	ビタミンと微量元素の代謝異常の病態について説明できる。
C-4-3)-⑥	メタボリックシンドロームの病態を説明できる。
C-4-4) 循環障害、臓器不全	
C-4-4)-①	血行障害（阻血、低酸素血、充血、うっ血および出血）と梗塞（血栓と塞栓）の病因と病態について説明できる。
C-4-4)-②	ショックの原因分類としての①血流分布異常性ショック（アナフィラキシー、敗血症性および神経原性）、②循環血液量減少性ショック（出血性と体液喪失）、③心原性ショック（心筋収縮力低下、弁疾患および不整脈）、④心外閉塞・拘束性ショック（心タンポナーデ、肺塞栓症および緊張性気胸）、それぞれの病態と診断の要点について説明できる。
C-4-4)-③	血圧異常（高血圧と低血圧）について説明できる。
C-4-4)-④	臓器不全（多臓器障害と多臓器不全）、その病因としてのサイトカインストームおよび播種性血管内凝固症候群について説明できる。
C-4-5) 炎症、創傷治癒と組織再生	
C-4-5)-①	炎症の定義について説明できる。
C-4-5)-②	炎症の分類ならびにそれぞれの組織形態学的変化と経時的変化（局所的変化と全身的变化）について説明できる。
C-4-5)-③	創傷の治癒過程を概説できる。
C-4-5)-④	組織の再生の機序を説明できる。
C-4-6) 腫瘍	
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	

C-5 人の行動と心理	
C-5-1) 人の行動	
C-5-1)-①	行動と知覚、学習、記憶、言語、思考および性格との関係ならびに行動の脳内基礎課程を説明できる。
C-5-1)-②	行動と、人との内的要因ならびに社会・文化的環境との関係を説明できる。
C-5-2) 行動の成り立ちと動機付け	
C-5-2)-①	本能行動と学習行動、レスポナント条件付けとオペラント条件付け、社会的学習、生理的動機、内発的動機と社会的動機、動機付け、欲求とフラストレーション・葛藤との関連および適応（防衛）を説明できる。
C-5-3) ストレス	
C-5-3)-①	主なストレス学説、ストレッサー、ストレスコーピング過程に関連する心理社会的要因およびストレス対処法について説明できる。
C-5-4) 生涯発達	
C-5-4)-①	こころの発達の原理を説明できる。
C-5-4)-②	小児期の正常な精神運動発達について説明できる。
C-5-4)-③	ライフサイクルに応じた、患者の発達課題を説明できる。
C-5-4)-④	家族ライフサイクルの視点を理解し、家族間における患者の問題を説明できる。
C-5-5) 個人差	
C-5-5)-①	パーソナリティの類型、特性および形成を説明できる。
C-5-5)-②	加齢に伴う身体的変化と生理的变化を理解し、説明できる。
C-5-5)-③	患者の判断と行動に関わる役割理論、ジェンダーの形成、性的指向および性自認への配慮方法を説明できる。
C-5-6) 対人関係と対人コミュニケーション	
C-5-6)-①	対人関係と対人行動に関わる心理的要因を説明できる。
C-5-6)-②	対人関係に関わる心理的要因を踏まえたコミュニケーションを説明できる。
C-5-6)-③	対人関係と対人行動を理解し、概説できる。
C-5-6)-④	効果的な言語的コミュニケーションを説明できる。
C-5-6)-⑤	効果的な言葉遣いと態度について説明できる。
C-5-6)-⑥	効果的な傾聴の仕方とわかりやすい話し方について説明できる。
C-5-6)-⑦	対人関係に関わる心理的要因について説明できる。
C-5-6)-⑧	対人関係における非言語的コミュニケーションを説明できる。
C-5-6)-⑨	話し手と聞き手の役割を説明でき、状況に応じたコミュニケーションスキルを概説できる。
C-5-6)-⑩	個と集団に及ぼす文化的影響を例示できる。

C-5-6)-⑪	文化・慣習によってコミュニケーションの在り方が異なることを例示できる。
C-5-7) 行動変容における理論と技法	
C-5-7)-①	健康寿命を延ばすための対応と取り組みについて説明できる。
C-5-7)-②	患者と家族からの情報を統合した上で、患者と意思決定を行う方法について説明できる。
C-5-7)-③	予防医療、診断、治療およびケアの各段階において、行動科学に関する知識、理論および面談法を説明できる。
C-5-7)-④	適切な環境調整、認知行動療法および心理教育について説明できる。
C-5-7)-⑤	生活習慣病における患者支援（自律性支援）と保健指導を説明できる。

D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	
D-1 血液・造血器・リンパ系	
D-1-1) 構造と機能	
D-1-1)-①	骨髄の構造と機能を説明できる。
D-1-1)-②	造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。
D-1-1)-③	主な造血因子〔エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子（granulocyte-colony stimulating factor <G-CSF>）およびトロンボポエチン〕を説明できる。
D-1-1)-④	脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃やPeyer板、等の粘膜関連リンパ組織の構造と機能を説明できる。
D-1-1)-⑤	血漿タンパク質の種類と機能を説明できる。
D-1-1)-⑥	赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
D-1-1)-⑦	白血球の種類と機能を説明できる。
D-1-1)-⑧	血小板の機能と止血、凝固および線溶の機序を説明できる。
D-1-2) 診断と検査の基本	
D-1-2)-①	末梢血の血球数の基準値とその変化の意義を説明できる。
D-1-2)-②	骨髄検査（骨髄穿刺と骨髄生検）を説明できる。
D-1-2)-③	血漿タンパク質の基準値とその変化の意義を説明できる。
D-1-3) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-1-4) 疾患	
D-1-4)-(1) 貧血	
D-1-4)-(1)-①	腎性貧血を概説できる。
D-1-4)-(1)-②	鉄欠乏性貧血の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(1)-③	二次性貧血の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(1)-④	再生不良性貧血の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(1)-⑤	発作性夜間ヘモグロビン尿症を概説できる。
D-1-4)-(1)-⑥	自己免疫性溶血性貧血を概説できる。
D-1-4)-(1)-⑦	ビタミンB ₁₂ 欠乏性貧血の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(1)-⑧	葉酸欠乏性貧血を概説できる。
D-1-4)-(1)-⑨	赤芽球癆を概説できる。
D-1-4)-(1)-⑩	赤血球破碎症候群を概説できる。
D-1-4)-(2) 出血傾向・紫斑病その他	
D-1-4)-(2)-①	出血傾向の病態と診断を概説できる。
D-1-4)-(2)-②	免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(2)-③	血友病の病態、症候、診断、治療法および遺伝形式を説明できる。
D-1-4)-(2)-④	播種性血管内凝固（DIC）の基礎疾患、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(2)-⑤	溶血性尿毒症症候群（HUS）を概説できる。
D-1-4)-(2)-⑥	血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(2)-⑦	von Willebrand病を概説できる。
D-1-4)-(2)-⑧	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症（後天性血友病と後天性von Willebrand病）を概説できる。
D-1-4)-(2)-⑨	IgA血管炎を概説できる。
D-1-4)-(2)-⑩	遺伝性出血性末梢血管拡張症（Osler病）を概説できる。
D-1-4)-(2)-⑪	ビタミンK欠乏症の病態、症候、診断、治療を説明できる。
D-1-4)-(3) 脾臓疾患	
D-1-4)-(3)-①	脾機能亢進症を概説できる。
D-1-4)-(4) 腫瘍性疾患	
D-1-4)-(4)-①	急性白血病の病態、分類、症候、診断、治療法および予後を説明できる。
D-1-4)-(4)-②	慢性骨髄性白血病の病態、症候、診断および治療法を説明できる。

D-1-4)-(4)-③	骨髓異形成症候群の病態、症候、診断、治療法および予後を説明できる。
D-1-4)-(4)-④	成人T細胞白血病を概説できる。
D-1-4)-(4)-⑤	真性赤血球増加症を概説できる。
D-1-4)-(4)-⑥	本態性血小板血症を概説できる。
D-1-4)-(4)-⑦	原発性骨髄線維症を概説できる。
D-1-4)-(4)-⑧	悪性リンパ腫の病態、分類、症候、診断、治療法および予後を説明できる。
D-1-4)-(4)-⑨	多発性骨髄腫の病態、症候、診断、治療法および予後を説明できる。
D-1-4)-(4)-⑩	慢性好酸球性白血病を概説できる。
D-1-4)-(4)-⑪	意義不明の単クローン性免疫グロブリン血症（MGUS）を概説できる。
D-1-4)-(5) 血栓性疾患	
D-1-4)-(5)-①	プロテインC・プロテインS・アンチトロンビン欠乏症を概説できる。
D-1-4)-(5)-②	抗リン脂質抗体症候群を概説できる。
D-1-4)-(5)-③	ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）を概説できる。
D-1-4)-(6) その他血液疾患	
D-1-4)-(6)-①	無顆粒球症の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-1-4)-(6)-②	伝染性単核球症の病態、症候、診断、治療法および予後を説明できる。
D-1-4)-(6)-③	血球貪食症候群を概説できる。
D-1-4)-(6)-④	移植片対宿主病（GVHD）を概説できる。
D-1-4)-(6)-⑤	鉄過剰症を概説できる。

D-2 神経系	
D-2-1) 構造と機能	
D-2-1)-(1) 神経系の一般特性	
D-2-1)-(1)-①	中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。
D-2-1)-(1)-②	脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。
D-2-1)-(1)-③	脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。
D-2-1)-(1)-④	主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン、セロトニン、グリシン、グルタミン酸およびGABA）の作用を説明できる。
D-2-1)-(1)-⑤	髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。
D-2-1)-(2) 脊髄と脊髄神経	
D-2-1)-(2)-①	脊髄の構造、機能局在および伝導路を説明できる。
D-2-1)-(2)-②	脊髄反射（伸張反射と屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。
D-2-1)-(2)-③	脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢および仙骨神経叢）の構成、主な骨格筋支配および皮膚分布（デルマトーム）の概要を説明できる。
D-2-1)-(3) 脳幹と脳神経	
D-2-1)-(3)-①	脳幹の構造、機能および伝導路を説明できる。
D-2-1)-(3)-②	脳神経の名称、核の局在、走行・分布および機能を概説できる。
D-2-1)-(4) 大脳と高次機能	
D-2-1)-(4)-①	大脳の構造（皮質、髄質、等皮質および不等皮質）を説明できる。
D-2-1)-(4)-②	大脳皮質の機能局在（運動野、感覚野および連合野）を説明できる。
D-2-1)-(4)-③	辺縁系の構造と記憶・学習の機序を関連させて概説できる。
D-2-1)-(5) 運動系	
D-2-1)-(5)-①	錐体路を中心とした随意運動の発現機構を概説できる。
D-2-1)-(5)-②	小脳の構造と機能を概説できる。
D-2-1)-(5)-③	大脳基底核（線条体、淡蒼球および黒質）の線維結合と機能を概説できる。
D-2-1)-(6) 感覚系	
D-2-1)-(6)-①	痛覚、温度覚、触覚および深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。
D-2-1)-(6)-②	視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚および味覚の受容機序と伝導路を概説できる。
D-2-1)-(7) 自律機能と本能行動	
D-2-1)-(7)-①	交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能および伝達物質を概説できる。
D-2-1)-(7)-②	視床下部における内分泌系と自律神経系との関連（構造と機能）を概説できる。
D-2-1)-(7)-③	ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。
D-2-2) 診断と検査の基本	
D-2-2)-①	脳・脊髄の画像検査（コンピュータ断層撮影<CT>と磁気共鳴画像法<MRI>）の適応、異常所見および結果を説明できる。

D-2-2)-②	神経系の電気生理学的検査（脳波検査、針筋電図検査および末梢神経伝導検査）の適応、異常所見および結果を説明できる。
D-2-3) 症候	
D-2-3)-①	けいれんをきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。
D-2-3)-②	起立性低血圧をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。
D-2-3)-③	反射性失神（神経調節性失神）をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。
D-2-3)-④	感覚障害をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。
<症候は、特異な症候以外は「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-2-3)-(1) 運動失調障害と不随意運動	
D-2-3)-(1)-①	小脳性、前庭性および感覚性運動失調障害を区別して説明できる。
D-2-3)-(1)-②	振戦を概説できる。
D-2-3)-(1)-③	不随意運動（ミオクローヌス、舞蹈運動、ジストニア、固定姿勢保持困難、アテトーシスおよびチック）を概説できる。
D-2-3)-(2) 歩行障害	
D-2-3)-(2)-①	歩行障害を病態に基づいて分類できる。
D-2-3)-(3) 言語障害	
D-2-3)-(3)-①	失語症と構音障害の違いを説明できる。
D-2-3)-(4) 頭蓋内圧亢進症	
D-2-3)-(4)-①	脳浮腫の病態を説明できる。
D-2-3)-(4)-②	急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。
D-2-3)-(4)-③	脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。
D-2-4) 疾患	
D-2-4)-(1) 脳血管障害	
D-2-4)-(1)-①	脳出血の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(1)-②	くも膜下出血の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(1)-③	脳梗塞の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(1)-④	一過性脳虚血発作の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(1)-⑤	脳動脈瘤を概説できる。
D-2-4)-(1)-⑥	脳動静脈奇形を概説できる。
D-2-4)-(1)-⑦	もやもや病を概説できる。
D-2-4)-(1)-⑧	脳血管障害の急性期治療とリハビリテーション医療を概説できる。
D-2-4)-(2) 認知症と変性疾患	
D-2-4)-(2)-①	認知機能障害の病因と病態を概説できる。
D-2-4)-(2)-②	Alzheimer型認知症の病態、疫学、症候、検査および診断を説明できる。
D-2-4)-(2)-③	Lewy小体型認知症の病態、疫学、症候、検査および診断を説明できる。
D-2-4)-(2)-④	脳血管性認知症の病因、疫学、症候、検査および診断を説明できる。
D-2-4)-(2)-⑤	Parkinson病の病態、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(2)-⑥	筋萎縮性側索硬化症の病態、疫学、症候、検査および診断を説明できる。
D-2-4)-(2)-⑦	多系統萎縮症を概説できる。
D-2-4)-(3) 感染症・炎症性・脱髄性疾患	
D-2-4)-(3)-①	脳炎の病因、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(3)-②	髄膜炎の病因、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(3)-③	脳症の病因、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(3)-④	脳膿瘍の病因、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(3)-⑤	多発性硬化症の病態、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(4) 頭部外傷	
D-2-4)-(4)-①	脳挫傷を概説できる。
D-2-4)-(4)-②	脳振盪を概説できる。
D-2-4)-(4)-③	頭蓋骨骨折の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(4)-④	急性硬膜外血腫の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(4)-⑤	硬膜下血腫（急性と慢性）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(4)-⑥	頭部外傷後の高次脳機能障害を説明できる。
D-2-4)-(5) 末梢神経疾患	
D-2-4)-(5)-①	ニューロパチーの病因（栄養障害、中毒および遺伝性）と病態を説明できる。
D-2-4)-(5)-②	Guillain-Barré症候群の症候と診断を説明できる。
D-2-4)-(5)-③	顔面神経麻痺（Bell麻痺とRamsay Hunt症候群を含む）の症候と診断を説明できる。

D-2-4)-(5)-(4)	反回神経麻痺の症候と診断を説明できる。
D-2-4)-(5)-(5)	主な神経痛（三叉神経痛と坐骨神経痛）を説明できる。
D-2-4)-(6) 筋疾患	
D-2-4)-(6)-(1)	重症筋無力症の病態、症候および診断を説明できる。
D-2-4)-(6)-(2)	進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候および診断を概説できる。
D-2-4)-(6)-(3)	周期性四肢麻痺を概説できる。
D-2-4)-(7) 発作性疾患	
D-2-4)-(7)-(1)	てんかんの分類（全般てんかんと局在関連てんかん）、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(8) 頭痛	
D-2-4)-(8)-(1)	頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、等）の分類、診断および治療法を説明できる。
D-2-4)-(9) 先天性と周産期脳障害	
D-2-4)-(9)-(1)	脳性麻痺の病因、病型、症候およびリハビリテーションを概説できる。
D-2-4)-(9)-(2)	水頭症の症候と治療法を概説できる。

D-3 皮膚系	
D-3-1) 構造と機能	
D-3-1)-(1)	皮膚の組織構造と表皮の微細構造を図示して説明できる。
D-3-1)-(2)	皮膚の細胞動態と角化の機構を説明できる。
D-3-1)-(3)	皮膚の免疫防御機構を説明できる。
D-3-2) 診断と検査の基本	
D-3-2)-(1)	皮膚検査法（硝子圧法、皮膚描記法、Nikolsky現象、Darier徴候、Tzanck試験および光線照射試験）について概説できる。
D-3-2)-(2)	皮膚アレルギー検査法（プリックテスト、皮内テストおよびパッチテスト）について概説できる。
D-3-2)-(3)	苛性カリ<KOH>直接検鏡法を説明できる。
D-3-3) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-3-4) 疾患	
D-3-4)-(1) 湿疹・皮膚炎	
D-3-4)-(1)-(1)	湿疹反応について概説できる。
D-3-4)-(1)-(2)	接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、皮脂欠乏性湿疹、自家感作性皮膚炎およびうつ滞性皮膚炎について概説できる。
D-3-4)-(2) 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症	
D-3-4)-(2)-(1)	蕁麻疹と血管性浮腫について概説できる。
D-3-4)-(2)-(2)	多形滲出性紅斑、結節性紅斑、硬結性紅斑および環状紅斑について概説できる。
D-3-4)-(2)-(3)	紅皮症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-3-4)-(2)-(4)	皮膚そう痒症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-3-4)-(3) 紫斑・血流障害と血管炎	
D-3-4)-(3)-(1)	血管炎の皮膚症状を網羅血管レベル（大・中・小血管炎）で概説できる。
D-3-4)-(3)-(2)	皮膚血流障害と血管炎（IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎、等）について概説できる。
D-3-4)-(4) 薬疹・薬物障害	
D-3-4)-(4)-(1)	固定薬疹、Stevens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症<toxic epidermal necrolysis>および薬剤性過敏症症候群<drug-induced hypersensitivity syndrome>について概説できる。
D-3-4)-(4)-(2)	薬疹を起こしやすい主な薬物を概説できる。
D-3-4)-(5) 水疱症と膿疱症	
D-3-4)-(5)-(1)	天疱瘡と類天疱瘡について概説できる。
D-3-4)-(5)-(2)	膿疱症について概説できる。
D-3-4)-(6) 乾癬と角化症	
D-3-4)-(6)-(1)	乾癬と扁平苔癬について概説できる。
D-3-4)-(7) 皮膚感染症	
D-3-4)-(7)-(1)	伝染性膿痂疹、せつ、癰、毛囊炎、丹毒、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、壊死性筋膜炎およびガス壊疽について概説できる。
D-3-4)-(7)-(2)	足白癬、爪白癬、皮膚カンジダ症およびマラセチア症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-3-4)-(7)-(3)	皮膚結核（真性皮膚結核と結核疹）について概説できる。
D-3-4)-(7)-(4)	梅毒の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。

D-3-4)-(7)-⑤	皮膚ウイルス感染症（単純ヘルペス、帯状疱疹、伝染性軟属腫、麻疹、風疹、水痘、伝染性紅斑および伝染性単核球症）の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-3-4)-(7)-⑥	後天性免疫不全症候群<AIDS>に伴う皮膚症状（梅毒、難治性ヘルペス、伝染性軟属腫、カポジ肉腫、等）について概説できる。
D-3-4)-(8) 母斑・腫瘍性疾患	
D-3-4)-(8)-①	色素性母斑と太田母斑について概説できる。
D-3-4)-(8)-②	母斑症（神経線維腫症 1 型 <von Recklinghausen 病>と結節性硬化症）について概説できる。
D-3-4)-(8)-③	前癌状態（日光角化症、Bowen 病および白板症）の皮膚腫瘍を概説できる。
D-3-4)-(8)-④	皮膚良性腫瘍（脂漏性角化症、粉瘤、皮膚線維腫およびケラトアカントーマ）について概説できる。

D-4 運動器（筋骨格）系	
D-4-1) 構造と機能	
D-4-1)-①	骨、軟骨、関節、靱帯、筋および腱の構成と機能を説明できる。
D-4-1)-②	頭頸部の構成を説明できる。
D-4-1)-③	脊柱の構成と機能を説明できる。
D-4-1)-④	四肢の骨格と主要筋群の運動と神経支配を説明できる。
D-4-1)-⑤	骨盤の構成と性差を説明できる。
D-4-1)-⑥	骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
D-4-1)-⑦	姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。
D-4-1)-⑧	関節運動を表す用語（屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋、回外・回内、底屈・背屈および挙上・下制）を説明できる。
D-4-2) 診断と検査の基本	
D-4-2)-①	筋骨格系の病態に即した徒手検査（四肢・脊柱の可動域検査、神経学的検査、等）と主要所見を説明できる。
D-4-2)-②	筋骨格系画像診断（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>、超音波検査および骨塩定量）の原理と適応および主要所見を説明できる。
D-4-2)-③	関節液検査を説明できる。
D-4-3) 症候	
D-4-3)-①	歩行障害をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-4-3)-②	感覚障害をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-4-3)-③	頸部痛をきたす疾患を列挙し、その病態を概説できる。
<症候は、特異的症候以外は「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-4-4) 疾患	
D-4-4)-(1) 運動器系の一般的疾患	
D-4-4)-(1)-①	四肢・脊椎外傷の診断と初期治療を説明できる。
D-4-4)-(1)-②	関節の脱臼と腱・靱帯・半月板損傷の診断と治療法を概説できる。
D-4-4)-(1)-③	骨折の分類、症候、診断、治療法および合併症を説明できる。
D-4-4)-(1)-④	コンパートメント症候群・挫滅症候群の病態、症候、診断と治療法を概説できる。
D-4-4)-(1)-⑤	骨粗鬆症の病因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる。
D-4-4)-(1)-⑥	関節炎、腱鞘炎の病態、診断および治療法を説明できる。
D-4-4)-(1)-⑦	変形性関節症の症候、診断および治療法を説明できる。
D-4-4)-(1)-⑧	絞扼性末梢神経障害（胸郭出口症候群、手根管症候群および肘部管症候群）を列挙し、その症候を概説できる。
D-4-4)-(1)-⑨	頸椎症性脊髄症（頸椎後縦靱帯骨化症を含む）と頸椎症性神経根症の神経症候を概説できる。
D-4-4)-(1)-⑩	脊髄損傷の診断と治療法を説明できる。
D-4-4)-(1)-⑪	腰椎椎間板ヘルニアの症候、診断および治療法を説明できる。
D-4-4)-(1)-⑫	腰部脊柱管狭窄症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-4-4)-(1)-⑬	腰椎分離・すべり症の症候、診断、および治療法を概説できる。
D-4-4)-(1)-⑭	運動器慢性疼痛（腰背部痛、頸部痛および肩こり）の病態、診断および治療法を概説できる。
D-4-4)-(1)-⑮	運動器疾患のリハビリテーションを概説できる。
D-4-4)-(2) 感染性疾患	
D-4-4)-(2)-①	化膿性関節炎の症候、診断と治療法を概説できる。
D-4-4)-(2)-②	椎間板炎、化膿性脊椎炎、脊椎カリエスの症候、診断および治療法を概説できる。

D-5 循環器系	
D-5-1) 構造と機能	
D-5-1)-①	心臓の構造、分布する血管・神経および冠動脈の特徴とその分布域を説明できる。

D-5-1)-②	心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。
D-5-1)-③	心筋細胞の電気現象と心臓の刺激伝導系を説明できる。
D-5-1)-④	心筋の興奮収縮連関を概説できる。
D-5-1)-⑤	体循環、肺循環および胎児・胎盤循環を説明できる。
D-5-1)-⑥	大動脈と主な分枝（頭頸部、上肢、胸部、腹部および下肢）を図示し、分布域を概説できる。
D-5-1)-⑦	主な静脈を図示し、門脈系、上・下大静脈系および奇静脈系を説明できる。
D-5-1)-⑧	毛細血管における物質・水分交換を説明できる。
D-5-1)-⑨	血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。
D-5-1)-⑩	全身のリンパの流れを概説できる。
D-5-1)-⑪	心周期に伴う血行動態を説明できる。
D-5-1)-⑫	心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。
D-5-1)-⑬	主な臓器（脳、心臓、肺および腎臓）の循環調節を概説できる。
D-5-1)-⑭	血圧調節の機序を説明できる。
D-5-1)-⑮	体位や運動に伴う循環反応とその機序を説明できる。
D-5-2) 診断と検査の基本	
D-5-2)-①	胸部単純エックス線撮影写真と心電図の主な所見を説明できる。
D-5-2)-②	心臓超音波検査の主な所見を説明できる
D-5-2)-③	運動負荷心電図とホルター心電図を説明できる。
D-5-2)-④	心臓シンチグラフィを説明できる。
D-5-2)-⑤	冠動脈コンピュータ断層撮影<CT>と心臓磁気共鳴画像法<MRI>の主な所見を説明できる。
D-5-2)-⑥	冠動脈造影と右心カテーテル検査の結果の解釈を説明できる。
D-5-3) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-5-4) 疾患	
D-5-4)-(1) 心不全	
D-5-4)-(1)-①	心不全の定義、原因および病態生理（収縮不全と拡張不全）を説明できる。
D-5-4)-(1)-②	左心不全と右心不全の徴候、病態、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(1)-③	急性心不全と慢性心不全の診断と薬物療法および非薬物療法（心臓リハビリテーションを含む）を説明できる。
D-5-4)-(1)-④	心不全診療における多職種連携（チーム医療）による疾病管理プログラムを概説できる。
D-5-4)-(1)-⑤	心原性ショックの徴候、病態、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(2) 虚血性心疾患	
D-5-4)-(2)-①	労作性狭心症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(2)-②	冠攣縮性狭心症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(2)-③	不安定プラーク破綻によるACS〔急性心筋梗塞（ST上昇型と非ST上昇型）等〕発症機転の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(2)-④	不安定プラーク破綻によるACS（不安定狭心症）の病態と診断を概説できる。
D-5-4)-(2)-⑤	無痛性虚血性心疾患の病態について概説できる。
D-5-4)-(2)-⑥	陳旧性心筋梗塞の病態と診断について概説できる。
D-5-4)-(2)-⑦	川崎病による冠動脈病変の病態について概説できる。
D-5-4)-(2)-⑧	冠拡張薬と抗血小板薬の薬効、PCI、CABGおよび心臓リハビリテーションの概要を概説できる。
D-5-4)-(3) 不整脈	
D-5-4)-(3)-①	洞不全症候群と房室ブロックの原因、症候、心電図の特徴および治療法を説明できる。
D-5-4)-(3)-②	上室性期外収縮、心房細動、心房粗動および発作性上室性頻拍症の原因、症候、心電図の特徴および治療法を説明できる。
D-5-4)-(3)-③	心室性期外収縮、心室頻拍および心室細動の原因、症候、心電図の特徴および治療法を説明できる。
D-5-4)-(3)-④	電解質異常、甲状腺機能亢進症、Wolff-Parkinson-White<WPW>症候群、Brugada症候群、等について、病態と診断を概説できる。
D-5-4)-(3)-⑤	不整脈の薬物治療、カテーテルアブレーション、電氣的除細動、ペースメーカー植え込み及び植え込み型除細動器を概説できる。
D-5-4)-(3)-⑥	心臓突然死の病態について概説できる。
D-5-4)-(4) 弁膜症	
D-5-4)-(4)-①	僧帽弁疾患と大動脈弁疾患の病因、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(4)-②	三尖弁閉鎖不全の病態生理と診断を概説できる。
D-5-4)-(5) 心筋・心膜疾患	
D-5-4)-(5)-①	RAAS系、フランクスターリングの法則およびラプラスの法則のもとについて心肥大（求心性と遠心性）の病態生理とリモデリング機序を説明できる。

D-5-4)-(5)-②	肥大型心筋症、拡張型心筋症および拘束型心筋症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(5)-③	二次性心筋症の症候と診断を概説できる。
D-5-4)-(5)-④	急性心筋炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(5)-⑤	感染性心内膜炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(5)-⑥	急性心膜炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-5-4)-(5)-⑦	心膜液貯留と心タンポナーデの病態および診断を概説できる。
D-5-4)-(6) 先天性心疾患	
D-5-4)-(6)-①	心房中隔欠損症と心室中隔欠損症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(6)-②	動脈管開存とFallot四徴症の病態生理を概説できる。
D-5-4)-(7) 動脈疾患	
D-5-4)-(7)-①	動脈硬化症について病因と病態を概説できる。
D-5-4)-(7)-②	急性大動脈解離の症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(7)-③	胸部大動脈瘤と腹部大動脈瘤の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(7)-④	閉塞性動脈硬化症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(7)-⑤	高安静脈炎（大動脈炎症候群）の症候と診断を概説できる。
D-5-4)-(7)-⑥	急性動脈閉塞症の病態と症候を概説できる。
D-5-4)-(7)-⑦	Raynaud症候群の病態と症候を概説できる。
D-5-4)-(8) 静脈・リンパ管疾患	
D-5-4)-(8)-①	深部静脈血栓症の病態、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(8)-②	上大静脈症候群の病態と症候を概説できる。
D-5-4)-(8)-③	下肢静脈瘤の症候と診断を概説できる。
D-5-4)-(8)-④	Budd-Chiari症候群の病態と症候を概説できる。
D-5-4)-(9) 高血圧症	
D-5-4)-(9)-①	本態性高血圧症について病因、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(9)-②	二次性高血圧症（腎実質性、腎血管性、内分泌性および睡眠時無呼吸症候群）について病因、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(9)-③	代表的降圧薬の種類、作用機序および副作用を概説できる。
D-5-4)-(9)-④	高血圧緊急症の病態と症候を概説できる。
D-5-4)-(10) 低血圧症	
D-5-4)-(10)-①	起立性低血圧の病因、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-5-4)-(10)-②	反射性失神（神経調節性失神）の病態、症候および検査法を概説できる。

D-6 呼吸器系	
D-6-1) 構造と機能	
D-6-1)-①	気道、肺葉、肺区域および肺門の構造を説明できる。
D-6-1)-②	肺循環と体循環の違いを説明できる。
D-6-1)-③	縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。
D-6-1)-④	呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。
D-6-1)-⑤	肺気量分画、換気、死腔および換気力学〔胸腔内圧、肺コンプライアンス、抵抗およびクローージングボリューム（closing volume）〕を説明できる。
D-6-1)-⑥	肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。
D-6-1)-⑦	肺の換気と血流の関係が動脈血ガスにおよぼす影響を説明できる（低換気、換気血流比の不均衡分布、シャント、拡散障害、酸素分圧、二酸化炭素分圧および肺胞気-動脈血酸素分圧較差 $<A-aDO_2>$ 、等）。
D-6-1)-⑧	呼吸調節の機序を説明できる。
D-6-1)-⑨	血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。
D-6-1)-⑩	気道と肺の防御機構（免疫学的と非免疫学的）と代謝機能を説明できる。
D-6-2) 診断と検査の基本	
D-6-2)-①	呼吸器疾患で行われる基本的画像検査〔胸部単純エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>およびポジトロン断層法（PET）検査を含む核医学検査〕の適応を述べ、主要所見の説明と結果の解釈ができる。
D-6-2)-②	気管支内視鏡検査の適応を概説できる。
D-6-2)-③	喀痰検査（喀痰細胞診と喀痰培養）の適応を述べ、結果を解釈できる。
D-6-2)-④	胸水検査の適応を述べ、結果の解釈（胸水の分類と主要疾患での特徴的な所見）ができる。
D-6-2)-⑤	呼吸機能検査（スパイロメトリー、flow-volume曲線および肺拡散能力）の適応を述べ、結果の解釈（閉塞性換気障害、拘束性換気障害および拡散能障害）とそれぞれの障害をきたす代表的な疾患の列挙ができる。
D-6-2)-⑥	動脈血ガス分析の基本的な結果の解釈（呼吸の評価と酸塩基平衡の評価）ができる。

D-6-2)-⑦	睡眠時呼吸障害におけるポリソムノグラフィーの意義を説明できる。
D-6-2)-⑧	気管支喘息患者におけるピークフローメトリーの意義を説明できる。
D-6-2)-⑨	気管支喘息患者における呼気NO検査の意義を説明できる。
D-6-2)-⑩	胸膜生検の適応を説明できる。
D-6-3) 症候	
D-6-3)-①	喘鳴の原因と病態生理を理解し、鑑別疾患を検討し、診断の要点を説明できる。
D-6-3)-②	胸水の原因と病態生理を理解し、鑑別疾患を検討し、診断の要点を説明できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-6-4) 疾患	
D-6-4)-(1) 呼吸不全、低酸素血症と高二酸化炭素血症	
D-6-4)-(1)-①	呼吸不全の定義、分類、病態生理および主な病因を説明し、治療法を概説できる。
D-6-4)-(1)-②	低酸素血症と高二酸化炭素血症の病態、症候および診断を説明し、治療法を概説できる。
D-6-4)-(2) 呼吸器感染症	
D-6-4)-(2)-①	急性上気道感染症（かぜ症候群）の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(2)-②	扁桃炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(2)-③	気管支炎の主な病原体を列挙し、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(2)-④	細気管支炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑤	市中肺炎の主な病原体を列挙し、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(2)-⑥	肺結核症の病態、症候、診断、治療法および届出手続を説明できる。
D-6-4)-(2)-⑦	肺真菌症の主な病原体を列挙し、病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑧	非結核性（非定型）抗酸菌症の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑨	誤嚥性肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑩	クルーズ症候群を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑪	肺化膿症と膿胸の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑫	咽頭炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(2)-⑬	百日咳の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑭	サイトメガロウイルス肺炎を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑮	肺吸虫症を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑯	医療・介護関連肺炎と院内肺炎を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑰	肺炎球菌感染症の症候、診断、治療法および予防法を説明できる。
D-6-4)-(2)-⑱	インフルエンザの症候、診断、治療法および感染対策（予防法を含む）を説明できる。
D-6-4)-(2)-⑲	後天性免疫不全症候群<AIDS>に伴う主な呼吸器感染症の病原菌、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(2)-⑳	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の症候、診断および感染対策（予防法を含む）を概説できる。
D-6-4)-(3) 閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患	
D-6-4)-(3)-①	慢性閉塞性肺疾患<COPD>の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(3)-②	気管支喘息（咳喘息を含む）病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(3)-③	特発性間質性肺炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(3)-④	膠原病と血管炎関連性間質性肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑤	びまん性汎細気管支炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑥	放射線肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑦	じん肺症〔珪肺（silicosis）〕を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑧	じん肺症〔石綿肺（asbestosis）〕の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑨	気腫性嚢胞（ブレブとブラ）の病態と診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑩	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑪	閉塞性細気管支炎を概説できる。
D-6-4)-(3)-⑫	気管と気管支の狭窄と閉塞を概説できる。
D-6-4)-(4) 肺循環障害	
D-6-4)-(4)-①	肺性心の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(4)-②	急性呼吸窮（促）迫症候群（acute respiratory distress syndrome <ARDS>）の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(4)-③	肺血栓塞栓症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(4)-④	肺動脈性肺高血圧症とその他の原因に伴う肺高血圧症を概説できる。
D-6-4)-(4)-⑤	心原性肺水腫の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(5) 免疫学的機序による肺疾患	
D-6-4)-(5)-①	過敏性肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(5)-②	サルコイドーシスの病態、症候および診断を概説できる。

D-6-4)-(5)-③	好酸球形肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(5)-④	薬剤性肺炎の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(6) 異常呼吸	
D-6-4)-(6)-①	過換気症候群の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(6)-②	睡眠時無呼吸症候群の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(6)-③	肺胞低換気症候群を概説できる。
D-6-4)-(7) 気管支拡張症とその他の肺疾患	
D-6-4)-(7)-①	気管支拡張症の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(7)-②	無気肺の病因と診断を概説できる。
D-6-4)-(7)-③	新生児呼吸窮（促）迫症候群を概説できる。
D-6-4)-(7)-④	肺リンパ脈管筋腫症を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑤	肺胞タンパク症を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑥	肺分画症を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑦	アトピー咳嗽を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑧	Langerhans細胞組織球症を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑨	化学薬品肺障害を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑩	酸素中毒を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑪	パラコート中毒を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑫	肺胞微石症を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑬	肺動静脈瘻を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑭	気道の代表的な異物を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑮	皮下気腫の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(7)-⑯	気管食道瘻と食道気管瘻を概説できる。
D-6-4)-(8) 胸膜・縦郭疾患	
D-6-4)-(8)-①	胸膜炎の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(8)-②	気胸（自然気胸、緊張性気胸および外傷性気胸）の病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-6-4)-(8)-③	縦隔気腫を概説できる。
D-6-4)-(8)-④	血胸の病態、症候および診断を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑤	縦隔炎を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑥	乳び胸を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑦	横隔神経麻痺を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑧	横隔膜ヘルニアを概説できる。
D-6-4)-(8)-⑨	横隔膜弛緩症を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑩	胸郭変形（漏斗胸）を概説できる。
D-6-4)-(8)-⑪	上大静脈症候群の病態と症候を概説できる。
D-6-4)-(9) 胸部の外傷	
D-6-4)-(9)-①	肋骨骨折の症候と診断を概説できる。
D-6-4)-(9)-②	気管・気管支損傷を概説できる。
D-6-4)-(9)-③	肺損傷を概説できる。

D-7 消化器系	
D-7-1) 構造と機能	
D-7-1)-①	各消化器官の位置、形態および関係する血管を説明できる。
D-7-1)-②	腹膜と臓器の位置関係について発生過程を含めて説明できる。
D-7-1)-③	食道、胃、小腸および大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。
D-7-1)-④	消化管運動の仕組みを説明できる。
D-7-1)-⑤	消化器官に対する腸管神経系を含む自律神経の作用を説明できる。
D-7-1)-⑥	肝の構造と機能を説明できる。
D-7-1)-⑦	胃液の作用と分泌機序を説明できる。
D-7-1)-⑧	胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。
D-7-1)-⑨	膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。
D-7-1)-⑩	小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。
D-7-1)-⑪	大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。
D-7-1)-⑫	主な消化管ホルモン（CCK、GLP-1、ガストリン、グレリン、セクレチン、セロトニン、ソマトスタチン、モチリン、等）の作用を説明できる。
D-7-1)-⑬	消化管の正常細菌叢（腸内細菌叢）の役割を説明できる。

D-7-2) 診断と検査の基本	
D-7-2)-(1)	代表的な肝炎ウイルス検査の検査項目を列挙し、概説できる。
D-7-2)-(2)	消化器関連の代表的な腫瘍マーカー（ α -fetoprotein <AFP>、carcinoembryonic antigen <CEA>、carbohydrate antigen <CA> 19-9およびprotein induced by vitamin K absence or antagonists <PIVKA>-II）を概説できる。
D-7-2)-(3)	消化器系疾患の画像検査を列挙し、概説できる。
D-7-2)-(4)	消化器内視鏡検査の基本的事項を概説できる。
D-7-2)-(5)	生検と細胞診の基本的事項を概説できる。
D-7-3) 症候	
D-7-3)-(1) 肝腫大	
D-7-3)-(1)-(1)	肝腫大をきたす疾患を列挙し、概説できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-7-4) 疾患	
D-7-4)-(1) 食道疾患	
D-7-4)-(1)-(1)	食道・胃静脈瘤を概説できる。
D-7-4)-(1)-(2)	胃食道逆流症（gastroesophageal reflux disease <GERD>）と逆流性食道炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(1)-(3)	Mallory-Weiss 症候群を概説できる。
D-7-4)-(2) 胃・十二指腸疾患	
D-7-4)-(2)-(1)	胃潰瘍、十二指腸潰瘍（消化性潰瘍）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(2)-(2)	<i>Helicobacter pylori</i> 感染症の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(2)-(3)	胃ポリープを概説できる。
D-7-4)-(2)-(4)	急性胃粘膜病変を概説できる。
D-7-4)-(2)-(5)	急性胃腸炎と慢性胃炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(2)-(6)	胃切除後症候群を概説できる。
D-7-4)-(2)-(7)	機能性消化管障害〔機能性ディスぺプシア（functional dyspepsia <FD>）〕の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(2)-(8)	肥厚性幽門狭窄症を概説できる。
D-7-4)-(3) 小腸・大腸疾患	
D-7-4)-(3)-(1)	急性虫垂炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(2)	腸閉塞とイレウスを概説できる。
D-7-4)-(3)-(3)	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とCrohn病）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(4)	痔核と痔瘻を概説できる。
D-7-4)-(3)-(5)	機能性消化管障害（過敏性腸症候群）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(6)	腸管憩室症（大腸憩室炎と大腸憩室出血）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(7)	薬物性腸炎を概説できる。
D-7-4)-(3)-(8)	消化管ポリポーシスを概説できる。
D-7-4)-(3)-(9)	大腸の主な先天性疾患（鎖肛とHirschsprung病）を概説できる。
D-7-4)-(3)-(10)	腸重積症の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(11)	便秘症と乳児下痢症の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(12)	感染性腸炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(13)	虚血性大腸炎を概説できる。
D-7-4)-(3)-(14)	急性出血性直腸潰瘍を概説できる。
D-7-4)-(3)-(15)	上腸間膜動脈閉塞症を概説できる。
D-7-4)-(3)-(16)	消化管神経内分泌腫瘍（neuroendocrine tumor <NET>）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(3)-(17)	消化管間質腫瘍（gastrointestinal stromal tumor <GIST>）を概説できる。
D-7-4)-(4) 胆道疾患	
D-7-4)-(4)-(1)	胆石症の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(4)-(2)	胆嚢炎と胆管炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(4)-(3)	胆嚢ポリープを概説できる。
D-7-4)-(4)-(4)	先天性胆道拡張症と膵・胆管合流異常症を概説できる。
D-7-4)-(5) 肝疾患	
D-7-4)-(5)-(1)	A型・B型・C型・D型・E型肝炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-(2)	急性肝炎と慢性肝炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-(3)	急性肝不全を概説できる。

D-7-4)-(5)-④	肝硬変を説明できる。
D-7-4)-(5)-⑤	肝硬変の合併症（門脈圧亢進症、肝性脳症および肝癌）を概説できる。
D-7-4)-(5)-⑥	アルコール関連肝疾患の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-⑦	薬物性肝障害の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-⑧	肝膿瘍を概説できる。
D-7-4)-(5)-⑨	原発性胆汁性胆管炎（原発性胆汁性肝硬変）と原発性硬化性胆管炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-⑩	自己免疫性肝炎の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(5)-⑪	脂肪性肝疾患の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(6) 脾疾患	
D-7-4)-(6)-①	急性脾炎（アルコール性、胆石性および特発性）の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
D-7-4)-(6)-②	慢性脾炎（アルコール性と特発性）の病態生理、症候、診断、合併症および治療法を説明できる。
D-7-4)-(6)-③	自己免疫性脾炎を概説できる。
D-7-4)-(7) 腹膜・腹壁・横隔膜疾患	
D-7-4)-(7)-①	腹膜炎を概説できる。
D-7-4)-(7)-②	ヘルニアの概念、病態（滑脱、嵌頓および絞扼）および好発部位を説明できる。
D-7-4)-(7)-③	鼠径ヘルニアの病因、疫学、症候、検査、診断、治療法を概説できる。

D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	
D-8-1) 構造と機能	
D-8-1)-①	体液の量、組成および浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。
D-8-1)-②	腎・尿路系の位置、形態、血管分布および神経支配を説明できる。
D-8-1)-③	腎の機能の全体像とネフロン各部の構造と機能を概説できる。
D-8-1)-④	腎糸球体における濾過の機序を説明できる。
D-8-1)-⑤	尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。
D-8-1)-⑥	水、電解質および酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。
D-8-1)-⑦	腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質（エリスロポエチン、ビタミンD、レニン、アンジオテンシンⅡおよびアルドステロン）の作用を説明できる。
D-8-2) 診断と検査の基本	
D-8-2)-①	腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。
D-8-2)-②	糸球体濾過量（実測と推算）を含む腎機能検査法を概説できる。
D-8-2)-③	腎生検の適応と禁忌を説明できる。
D-8-3) 症候	
D-8-3)-(1) 電解質異常	
D-8-3)-(1)-①	高・低ナトリウム血症の原因疾患、症候および治療法を概説できる。
D-8-3)-(1)-②	高・低カリウム血症の原因疾患、症候および治療法を概説できる。
D-8-3)-(1)-③	高・低カルシウム血症の原因疾患、症候および治療法を概説できる。
D-8-3)-(1)-④	高・低リン血症、高・低Cl血症および高・低Mg血症を概説できる。
D-8-3)-(2) アシドーシス・アルカローシス	
D-8-3)-(2)-①	アシドーシスとアルカローシス（代謝性と呼吸性）の定義、病態生理、診断および治療法を説明できる。
D-8-3)-(3) その他の症候	
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-8-4) 疾患	
D-8-4)-(1) 腎不全	
D-8-4)-(1)-①	急性腎障害（AKI）の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(1)-②	慢性腎不全の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(1)-③	慢性腎臓病（CKD）の病因、症候、重症度分類、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(1)-④	慢性腎不全の合併症である腎性貧血とミネラル骨代謝異常を概説できる。
D-8-4)-(1)-⑤	腎代替療法導入基準（慢性腎不全）を説明できる。
D-8-4)-(1)-⑥	腎代替療法（血液透析、腹膜透析および腎移植）を説明できる。
D-8-4)-(2) 原発性糸球体疾患	
D-8-4)-(2)-①	急性糸球体腎炎の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-②	慢性糸球体腎炎の分類、病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-③	IgA腎症の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-④	膜性腎症の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-⑤	ネフローゼ症候群の病因、症候、診断および治療法を説明できる。

D-8-4)-(2)-⑥	微小変化群の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-⑦	巣状分節性糸球体硬化症の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(2)-⑧	急速進行性糸球体腎炎症候群（半月体形成性糸球体腎炎の病因、症候、診断および治療を説明できる。
D-8-4)-(3) 高血圧及び腎血管障害	
D-8-4)-(3)-①	高血圧による腎障害（腎硬化症）を概説できる。
D-8-4)-(3)-②	腎血管性高血圧症を概説できる。
D-8-4)-(4) 尿細管機能異常	
D-8-4)-(4)-①	尿細管性アシドーシスの分類、病態生理および診断を概説できる。
D-8-4)-(4)-②	Fanconi症候群（腎性糖尿を含む）の概念、症候および診断を説明できる。
D-8-4)-(5) 尿細管・間質性疾患	
D-8-4)-(5)-①	急性腎盂腎炎の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(5)-②	慢性腎盂腎炎の病因、症候および診断を概説できる。
D-8-4)-(5)-③	急性間質性腎炎の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(5)-④	慢性間質性腎炎の病因、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(6) 全身性疾患による腎障害	
D-8-4)-(6)-①	糖尿病腎症の症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(6)-②	ループス腎炎について概説できる。
D-8-4)-(6)-③	アミロイド腎症について概説できる。
D-8-4)-(6)-④	膠原病類縁疾患（血管炎症候群、抗糸球体基底膜病およびIgA血管炎）に伴う腎病変を説明できる。
D-8-4)-(7) 先天異常と外傷	
D-8-4)-(7)-①	多発性嚢胞腎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(7)-②	膀胱尿管逆流症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(7)-③	腎外傷の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(7)-④	馬蹄腎を概説できる。
D-8-4)-(7)-⑤	重複腎盂尿管を概説できる。
D-8-4)-(7)-⑥	異所性尿管開口を概説できる。
D-8-4)-(7)-⑦	尿道下裂を概説できる。
D-8-4)-(8) 尿路疾患	
D-8-4)-(8)-①	腎結石と尿管結石の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(8)-②	膀胱結石と尿道結石を概説できる。
D-8-4)-(8)-③	膀胱炎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(8)-④	尿道炎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(8)-⑤	急性前立腺炎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(8)-⑥	慢性前立腺炎を概説できる。
D-8-4)-(8)-⑦	神経因性膀胱の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-8-4)-(8)-⑧	尿道カルUNKルを概説できる。
D-8-4)-(8)-⑨	単純性腎嚢胞を概説できる。
D-8-4)-(8)-⑩	膀胱憩室を概説できる。
D-8-4)-(8)-⑪	膀胱瘤を概説できる。
D-8-4)-(8)-⑫	過活動膀胱を概説できる。
D-8-4)-(8)-⑬	腹圧性尿失禁の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。

D-9 生殖機能	
D-9-1) 構造と機能	
D-9-1)-①	生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
D-9-1)-②	男性生殖器の発生・発育の過程を説明できる。
D-9-1)-③	男性生殖器の形態と機能を説明できる。
D-9-1)-④	精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
D-9-1)-⑤	陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。
D-9-1)-⑥	女性生殖器の発育の過程を説明できる。
D-9-1)-⑦	女性生殖器の形態と機能を説明できる。
D-9-1)-⑧	性周期発現と排卵の機序を説明できる。
D-9-1)-⑨	閉経の過程と疾病リスクの変化を説明できる。

D-9-2) 診断と検査の基本	
D-9-2)-(1) 男性生殖器	
D-9-2)-(1)-①	精巣と前立腺の検査法（尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影<CT>および磁気共鳴画像法<MRI>）の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
D-9-2)-(2) 女性生殖器	
D-9-2)-(2)-①	血中ホルモン[卵胞刺激ホルモン（follicle-stimulating hormone <FSH>）、黄体形成ホルモン（luteinizing hormone <LH>）、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（human chorionic gonadotropin <hCG>、エストロゲンおよびプロゲステロン]の測定値を評価できる。
D-9-2)-(2)-②	骨盤内臓器と腫瘍の画像診断[超音波検査、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>および子宮卵管造影（hysterosalpingography <HSG>）]所見を概説できる。
D-9-2)-(2)-③	基礎体温の所見を説明できる。
D-9-2)-(2)-④	腔分泌物の所見を説明できる。
D-9-3) 症候	
D-9-3)-(1) 男性生殖器の主要症候	
D-9-3)-(1)-①	勃起不全と射精障害を概説できる。
D-9-3)-(2) 男性生殖器のその他の症候	
D-9-3)-(2)-①	頻尿の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-3)-(2)-②	排尿困難の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-3)-(2)-③	排尿時痛の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-3)-(3) 女性生殖器の主要症候	
D-9-3)-(3)-①	不正性器出血、腔分泌物（帯下）の増量、腔乾燥感、性交痛および乳汁漏出症をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-9-3)-(4) 女性生殖器のその他の症候	
D-9-3)-(4)-①	生殖器系でみられる月経異常・無月経をきたす疾患を列挙できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-9-4) 疾患	
D-9-4)-(1) 男性生殖器疾患	
D-9-4)-(1)-①	男性不妊症を概説できる。
D-9-4)-(1)-②	前立腺肥大症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(1)-③	停留精巣の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(1)-④	精巣捻転症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(1)-⑤	精巣上体炎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(2) 女性生殖器疾患	
D-9-4)-(2)-①	内外生殖器の先天異常を概説できる。
D-9-4)-(2)-②	卵巣機能障害と更年期障害を概説できる。
D-9-4)-(2)-③	不妊症の系統診断と治療法を概説できる。
D-9-4)-(2)-④	子宮筋腫と子宮腺筋症の症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(2)-⑤	子宮内膜症の症候、診断および治療法を説明できる。
D-9-4)-(2)-⑥	外陰、腔および骨盤内感染症の症候と診断を概説できる。
D-9-4)-(3) 腫瘍性疾患	
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	

D-10 妊娠と分娩	
D-10-1) 診断と検査の基本	
D-10-1)-①	妊娠と分娩で行う検査と診断方法を説明できる。
D-10-1)-②	妊娠と分娩に関する構造と機能を説明できる。
D-10-1)-③	超音波検査と分娩監視装置による胎児・胎盤検査法を説明できる。
D-10-1)-④	羊水検査法の意義と異常所見を説明できる。
D-10-2) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-10-3) 正常妊娠・分娩・産褥	
D-10-3)-①	妊娠、分娩および産褥での母体の解剖学的・生理学的変化を説明できる。
D-10-3)-②	胎児・胎盤系の発達過程での機能的・形態的变化を説明できる。
D-10-3)-③	正常妊娠の経過を説明できる。
D-10-3)-④	正常分娩の経過を説明できる。
D-10-3)-⑤	産褥の過程を説明できる。

D-10-3)-⑥	育児に伴う母体の構造的・生理的な変化と精神問題を説明できる。
D-10-3)-⑦	母子保健の意義を医学的に説明できる。
D-10-3)-⑧	妊娠と分娩時の薬物療法について基本的事項を説明できる。
D-10-4) 疾患	
D-10-4)-①	主な異常妊娠[流産、切迫流産、子宮外妊娠（異所性妊娠）、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠および胎児発育不全]の病態を説明できる。
D-10-4)-②	主な異常分娩（早産、微弱陣痛、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血および分娩外傷）の病態を説明できる。
D-10-4)-③	主な異常産褥（子宮復古不全、産褥熱および乳腺炎）の病態を概説できる。
D-10-4)-④	産科救急（産科出血と播種性血管内凝固＜DIC＞）の病態と治療法を説明できる。
D-10-4)-⑤	主な合併症妊娠（耐糖能異常、甲状腺疾患、血液型不適合妊娠およびtoxoplasmosis, other agents, rubella, cytomegalovirus, herpes simplex <TORCH>症候群）の病態を説明できる。
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	
D-10-5) 産科手術	
D-10-5)-①	人工妊娠中絶の適応を説明できる。
D-10-5)-②	帝王切開術の適応を説明できる。

D-11 乳房	
D-11-1) 構造と機能	
D-11-1)-①	乳房の構造と機能を説明できる。
D-11-1)-②	成長発達と性周期に伴う乳房の変化を説明できる。
D-11-1)-③	乳汁分泌に関するホルモンの作用を説明できる。
D-11-4) 疾患	
D-11-4)-(1) 良性乳房疾患	
D-11-4)-(1)-①	良性乳腺疾患の種類を列举できる。
D-11-4)-(1)-②	女性化乳房を概説できる。
D-11-4)-(2) 腫瘍性疾患	
D-11-4)-(2)-①	乳癌の危険因子、症候、病理所見、診断、治療法および予後を説明できる。
<乳癌は乳房の疾患数も少なく、鑑別のためにもD-11に記載した。>	

D-12 内分泌・栄養・代謝系	
D-12-1) 構造と機能	
D-12-1)-①	ホルモンの構造的分類、作用機序および分泌調節機構を説明できる。
D-12-1)-②	各内分泌腺・細胞の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列举できる。
D-12-1)-③	ホルモンの標的細胞における作用様式を説明できる。
D-12-1)-④	視床下部ホルモンと下垂体ホルモンの名称、作用および相互関係を説明できる。
D-12-1)-⑤	甲状腺と副甲状腺<上皮小体>から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
D-12-1)-⑥	副腎の構造と分泌されるホルモンの合成・代謝経路および作用と分泌調節機構を説明できる。
D-12-1)-⑦	膵島から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
D-12-1)-⑧	男性ホルモンと女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。
D-12-1)-⑨	三大栄養素、ビタミンおよび微量元素の消化吸収と栄養素の生物学的利用効率<bioavailability>を説明できる。
D-12-1)-⑩	糖質、タンパク質および脂質の代謝経路と相互作用を説明できる。
D-12-2) 診断と検査の基本	
D-12-2)-①	ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。
D-12-2)-②	血中ホルモン濃度に影響を与える因子を列举できる。
D-12-2)-③	ホルモンの日内変動の例を挙げて説明できる。
D-12-2)-④	内分泌・栄養・代謝系で行う負荷試験（ホルモン分泌刺激試験と抑制試験）の原理と結果の解釈について説明できる。
D-12-2)-⑤	エネルギー摂取の過剰または欠乏がもたらす症候と疾患を説明できる。
D-12-3) 症候	
D-12-3)-①	低身長・高身長をきたす疾患を列举し、その病態生理を説明できる。
D-12-3)-②	甲状腺腫を分類し、疾患を列举できる。
D-12-3)-③	甲状腺の触診方法を説明できる。
D-12-3)-④	月経異常をきたす疾患を列举し、その病態生理を説明できる。
D-12-3)-⑤	肥満症を概説できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	

D-12-4) 疾患	
D-12-4)-(1) 視床下部・下垂体疾患	
D-12-4)-(1)-①	Cushing病の病因、病態、症候および診断を説明できる。
D-12-4)-(1)-②	先端巨大症の病因、病態、症候および診断を説明できる。
D-12-4)-(1)-③	汎下垂体機能低下症を概説できる。
D-12-4)-(1)-④	中枢性尿崩症を概説できる。
D-12-4)-(1)-⑥	高プロラクチン血症を概説できる。
D-12-4)-(1)-⑦	抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone <SIADH>) を概説できる。
D-12-4)-(1)-⑧	視床下部下垂体炎を概説できる。
D-12-4)-(1)-⑨	甲状腺機能亢進症と低下症の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(2) 甲状腺疾患	
D-12-4)-(2)-①	Basedow病の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(2)-②	慢性甲状腺炎と亜急性甲状腺炎を概説できる。
D-12-4)-(2)-③	橋本病の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(3) 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常	
D-12-4)-(3)-①	カルシウム代謝の異常を疾患と関連付けて説明できる。
D-12-4)-(3)-②	副甲状腺機能亢進症を概説できる。
D-12-4)-(3)-③	副甲状腺機能低下症を概説できる。
D-12-4)-(3)-④	悪性腫瘍に伴う高 Ca 血症を概説できる。
D-12-4)-(4) 副腎皮質・髄質疾患	
D-12-4)-(4)-①	Cushing 症候群の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(4)-②	原発性アルドステロン症の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(4)-③	副腎不全 [急性と慢性 (Addison病)] を概説できる。
D-12-4)-(4)-④	褐色細胞腫の病態、症候、画像所見、病理所見、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5) 糖代謝異常	
D-12-4)-(5)-①	糖尿病の病因、病態および分類を説明できる。
D-12-4)-(5)-②	1 型糖尿病の症候と診断を説明できる。
D-12-4)-(5)-③	2 型糖尿病の症候と診断を説明できる。
D-12-4)-(5)-④	糖尿病の急性合併症を列挙し、説明できる。
D-12-4)-(5)-⑤	糖尿病ケトアシドーシスの病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑥	高血糖高浸透圧昏睡の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑦	乳酸アシドーシスを概説できる。
D-12-4)-(5)-⑧	糖尿病の慢性合併症を列挙し、説明できる。
D-12-4)-(5)-⑨	糖尿病性網膜症の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑩	糖尿病性腎症の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑪	糖尿病性神経障害の病因、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑫	糖尿病性足病変を概説できる。
D-12-4)-(5)-⑬	糖尿病の治療 (食事療法、運動療法および薬物療法) を説明できる。
D-12-4)-(5)-⑭	低血糖症を概説できる。
D-12-4)-(6) 脂質代謝異常	
D-12-4)-(6)-①	脂質異常症 (高脂血症) の分類、病因および病態を説明できる。
D-12-4)-(6)-②	脂質異常症 (高脂血症) の予防と治療法を説明できる。
D-12-4)-(7) タンパク質及び核酸代謝異常	
D-12-4)-(7)-①	血清タンパク質の異常を概説できる。
D-12-4)-(7)-②	高尿酸血症・痛風の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
D-12-4)-(8) ビタミン・微量元素の欠乏と過剰	
D-12-4)-(8)-①	ビタミン・微量元素の欠乏症と過剰症を概説できる。
D-12-4)-(8)-②	くる病と骨軟化症を概説できる。
D-12-4)-(9) 先天性代謝異常	
D-12-4)-(9)-①	ヘモクロマトーシスを概説できる。
D-12-4)-(9)-②	ポルフィリアを概説できる。
D-12-4)-(9)-③	Wilson病を概説できる。
D-12-4)-(10) 腫瘍性疾患	
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	

D-13 眼・視覚系	
D-13-1) 構造と機能	
D-13-1)-①	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。
D-13-1)-②	視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。
D-13-1)-③	眼球運動のしくみと関連する筋と神経を説明できる。
D-13-1)-④	対光反射、輻輳反射および角膜反射の反射弓と機能を説明できる。
D-13-2) 診断と検査の基本	
D-13-2)-①	基本的眼科検査〔視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査、光干渉断層計（OCT）〕について、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。
D-13-3) 症候	
D-13-3)-(1) 眼・視覚系に関する主要症候	
D-13-3)-(1)-①	眼・視覚系に関する主要症候（視力障害、視野異常、色覚異常、夜盲、眼球運動障害、眼瞼運動障害、眼脂・眼の充血、飛蚊症および眼痛）の発生機序、原因疾患および治療を説明できる。
D-13-3)-(2) その他の症候	
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-13-4) 疾患	
D-13-4)-(1) 眼・視覚系の良性疾患	
D-13-4)-(1)-①	屈折異常と調節障害の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(1)-②	白内障の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(1)-③	緑内障の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(1)-④	糖尿病網膜症、高血圧網膜症および動脈硬化性網膜症の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(1)-⑤	加齢黄斑変性を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑥	網膜色素変性症を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑦	結膜炎の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(1)-⑧	裂孔原生網膜剥離を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑨	ぶどう膜炎を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑩	視神経炎（症）とうつ血乳頭を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑪	アルカリ・酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる。
D-13-4)-(1)-⑫	網膜中心静脈閉塞症と網膜中心動脈閉塞症を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑬	眼窩吹き抜け骨折を概説できる。
D-13-4)-(1)-⑭	麦粒腫と霰粒腫の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
D-13-4)-(2) 腫瘍性疾患	
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	

D-14 耳鼻・咽喉・口腔系	
D-14-1) 構造と機能	
D-14-1)-①	外耳、中耳および内耳の構造を図示できる。
D-14-1)-②	顔面神経の走行と機能を説明できる。
D-14-1)-③	聴覚と平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
D-14-1)-④	口腔、鼻腔、咽頭および喉頭の位置と構造を図示して説明できる。
D-14-1)-⑤	発声に関わる喉頭の構造、機能および神経支配を説明できる。
D-14-1)-⑥	平衡感覚機構を眼球運動と姿勢制御と関連させて説明できる。
D-14-1)-⑦	味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
D-14-1)-⑧	歯、舌および唾液腺の構造と機能を説明できる。
D-14-1)-⑨	咀嚼と嚥下の機構を説明できる。
D-14-2) 診断と検査の基本	
D-14-2)-①	聴力検査と平衡機能検査を説明できる。
D-14-2)-②	味覚検査と嗅覚検査を説明できる。
D-14-3) 症候	
D-14-3)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔系に属する主要症候	
D-14-3)-(1)-①	鼻出血をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-14-3)-(1)-②	気道狭窄、咽頭痛、開口障害および嚥声をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-14-3)-(1)-③	難聴をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-14-3)-(1)-④	顔面神経麻痺をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。
D-14-3)-(1)-⑤	頸部腫脹をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。

D-14-3)-(2) その他の症候	
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-14-4) 疾患	
D-14-4)-(1) 耳鼻・咽喉・口腔の良性疾患	
D-14-4)-(1)-①	中耳炎（急性、慢性、滲出性および真珠腫性）の病因、診断および治療法を説明できる。
D-14-4)-(1)-②	伝音難聴と感音難聴、および迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療法（補聴器と人工聴覚器を含む）を説明できる。
D-14-4)-(1)-③	末梢性めまい（Ménière病、前庭神経炎、等）と中枢性めまいを鑑別し、治療法を説明できる。
D-14-4)-(1)-④	良性発作性頭位眩暈症の症候、診断および治療法を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑤	鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑥	副鼻腔炎（急性、慢性および好酸球性）の病態と治療法を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑦	アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）の発症機構、診断および治療法を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑧	扁桃とその周囲の炎症性疾患（肥大症を含む）の病態と治療を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑨	歯科疾患（う蝕、歯周病、等）とその全身への影響と口腔機能管理を概説できる。
D-14-4)-(1)-⑩	気管切開等の気道確保の手法と適応を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑪	外耳道、鼻腔、咽喉頭、喉頭および食道の代表的な異物を説明し、除去法を説明できる。
D-14-4)-(1)-⑫	唾液腺疾患（腫瘍、炎症および自己免疫疾患）を列挙し、その病態を説明できる。
D-14-4)-(2) 腫瘍性疾患	
<腫瘍は「E-3 腫瘍」にまとめた。>	

D-15 精神系	
D-15-1) 診断と検査の基本	
D-15-1)-①	患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。
D-15-1)-②	精神科診断分類法を説明できる。
D-15-1)-③	精神科医療の法と倫理に関する必須項目（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法およびインフォームド・コンセント）とコンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。
D-15-1)-④	心理学的検査法〔質問紙法、Rorschach テスト、簡易精神症状評価尺度（Brief Psychiatric Rating Scale<BPRS>）、Hamilton うつ病評価尺度、Beckのうつ病自己評価尺度、状態特性不安検査（State-Trait Anxiety Inventory <STAI>）、Mini-Mental State Examination<MMSE>、改訂長谷川式簡易知能評価スケール、等〕の種類と概要を説明できる。
D-15-2) 症候	
D-15-2)-①	精神疾患でみられる症候（不安、躁うつ、意識障害、不眠、幻覚・妄想、息苦しさ、心窩部痛、腹痛、頭痛、疲労、痒み、慢性疼痛、等）と鑑別診断を説明できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
D-15-3) 疾患・障害	
D-15-3)-①	症状精神病の概念と診断を説明できる
D-15-3)-②	認知症の診断、種類および治療法を説明できる。
D-15-3)-③	薬物使用に関連する精神障害とアルコール、ギャンブル、等への依存症の病態と症候を説明できる。
D-15-3)-④	統合失調症の症候、診断、鑑別診断および治療法を説明できる。
D-15-3)-⑤	うつ病の症候、診断、鑑別診断および治療法を説明できる。
D-15-3)-⑥	双極性障害（躁うつ病）の症候と診断を説明できる。
D-15-3)-⑦	不安障害群と心的外傷及びストレス関連障害群の症候と診断を説明できる。
D-15-3)-⑧	身体症状症および関連症群と食行動障害および摂食障害群の症候と診断を説明できる。
D-15-3)-⑨	解離性障害群の症候と診断を説明できる。
D-15-3)-⑩	パーソナリティ障害群を説明できる。
D-15-3)-⑪	知的能力障害群と自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder <ASD>）を説明できる。
D-15-3)-⑫	注意欠如・多動障害（attention deficit / hyperactivity disorder <ADHD>）と運動障害群を説明できる。

E 全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療	
E-1 遺伝医療・ゲノム医療	
E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性	
E-1-1)-①	集団遺伝学の基礎としてHardy-Weinbergの法則を概説できる。
E-1-1)-②	家系図を作成・評価（Bayesの定理とリスク評価）できる。
E-1-1)-③	生殖細胞系列変異と体細胞変異の違いを説明でき、遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。
E-1-1)-④	遺伝情報の特性（不変性、予見性および共有性）を説明できる。

E-1-1)-⑤	遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。
E-1-1)-⑥	遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮を説明できる。
E-1-1)-⑦	遺伝医学関連用語を説明し、遺伝医学関連情報を収集してその内容を理解し説明できる。
E-1-1)-⑧	遺伝情報に基づく治療や予防をはじめとする未発症者を含む患者・家族への適切な対処法を概説できる。

E-2 感染症	
E-2-1) 病態	
E-2-1)-①	敗血症の病態を説明できる。
E-2-1)-②	主な市中感染症（肺炎と尿路感染症）の病態を概説できる。
E-2-1)-③	市中感染を引き起こすウイルス（インフルエンザウイルス、新型コロナウイルスおよびノロウイルス）の疫学、症候および診断を説明できる。
E-2-1)-④	MRSAと緑膿菌が引き起こす医療関連感染症の病態を概説できる。
E-2-1)-⑤	代表的な医療関連感染症（血管留置カテーテル感染症、尿道カテーテル感染症および人工呼吸器関連感染症）のリスク因子と病態生理を概説できる。
E-2-1)-⑥	コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。
E-2-2) 診断・検査・治療の基本	
E-2-2)-①	感染症の抗原検査と抗体検査を説明できる。
E-2-2)-②	感染症の塗抹検査を説明できる。
E-2-2)-③	感染症の培養検査を説明できる。
E-2-2)-④	感染症の遺伝子検査を概説できる。
E-2-2)-⑤	細菌感染症の治療法を概説できる。
E-2-2)-⑥	ウイルス感染症の治療法を概説できる。
E-2-2)-⑦	真菌感染症の治療法を概説できる。
E-2-3) 症候	
E-2-3)-①	敗血症性ショックの病態生理を説明できる。
E-2-3)-②	発疹を伴う感染性疾患を概説できる。
E-2-3)-③	頸部リンパ節腫脹を概説できる。
<症候は、特異的な症候以外は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
E-2-4) 疾患	
E-2-4)-(1) ウイルス感染症・プリオン病	
E-2-4)-(1)-①	季節性インフルエンザを説明できる。
E-2-4)-(1)-②	麻疹の病因、疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(1)-③	風疹の病因、疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(1)-④	水痘・帯状疱疹の病因、疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(1)-⑤	流行性耳下腺炎（ムンプス）の病因、疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(1)-⑥	ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症と後天性免疫不全症候群<AIDS>の病因、疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(1)-⑦	伝染性単核（球）症を説明できる。
E-2-4)-(1)-⑧	プリオン病を概説できる。
E-2-4)-(2) 細菌感染症	
E-2-4)-(2)-①	黄色ブドウ球菌により生じうる感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-②	連鎖球菌により生じうる感染症を概説できる
E-2-4)-(2)-③	肺炎球菌により生じうる感染症を概説できる。
E-2-4)-(2)-④	緑膿菌により生じうる感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑤	大腸菌により生じうる感染症を概説できる。
E-2-4)-(2)-⑥	腸管出血性大腸菌感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑦	<i>Clostridioides difficile</i> 感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑧	肺結核を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑨	非結核性抗酸菌症を概説できる。
E-2-4)-(2)-⑩	マイコプラズマによる感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑪	<i>Chlamydia pneumoniae</i> による感染症を概説できる。
E-2-4)-(2)-⑫	レジオネラ感染症を説明できる。
E-2-4)-(2)-⑬	リケッチア感染症を概説できる。
E-2-4)-(3) 真菌感染症と寄生虫	
E-2-4)-(3)-①	カンジダにより生じうる感染症を説明できる。
E-2-4)-(3)-②	クリプトコックス属により生じる感染症とアスペルギルス属より生じる感染症を概説できる。

E-2-4)-(3)-③	ニューモシスチス肺炎を説明できる。
E-2-4)-(4) 性感染症	
E-2-4)-(4)-①	性行為により感染する疾患（梅毒、淋菌感染症、性器クラミジア、B型肝炎およびHIV）の疫学、病態生理、症候および診断を説明できる。
E-2-4)-(5) 院内感染	
E-2-4)-(5)-①	標準予防策（standard precautions）を説明できる。
E-2-4)-(5)-②	感染経路別予防策（飛沫感染予防策、接触感染予防策および空気感染予防策、等）が必要となる病原微生物を説明できる。
E-2-4)-(5)-③	エプロン、ガウン、マスク（サージカルマスクとN95マスク）およびフェイスシールドの必要性を感染経路別に説明できる。
E-2-4)-(5)-④	針刺切創・体液暴露後の対応を概説できる。

E-3 腫瘍	
E-3-1) 発癌のメカニズムと病態	
E-3-1)-①	腫瘍の定義とその特性について、ゲノム異常や分子機構を含めて説明できる。
E-3-1)-②	腫瘍の自律性の増殖について説明でき、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
E-3-1)-③	腫瘍に関連した用語（異形成、上皮内癌、進行癌、早期癌、異型性、多形性、等）について説明できる。
E-3-1)-④	がんの原因と遺伝子変化について説明できる。
E-3-1)-⑤	がんの転移を説明できる。
E-3-1)-⑥	がんの免疫系による排除機構について概説できる。
E-3-1)-⑦	がんの病理診断と治療法の関わりについて概説できる。
E-3-1)-⑧	腫瘍の生検・細胞診および病理検査とその所見について概説できる。
E-3-1)-⑨	腫瘍のTNM分類、ステージ、分化度およびグレードについて概説できる。
E-3-2) 腫瘍の定義・病態	
E-3-2)-①	腫瘍の定義と病態を説明できる。
E-3-2)-②	腫瘍の症候を説明できる
E-3-2)-③	腫瘍のグレードとステージを概説できる
E-3-3) 診断	
E-3-3)-①	腫瘍の検査所見を説明できる。
E-3-3)-②	腫瘍の画像所見と診断を説明できる。
E-3-3)-③	腫瘍の病理所見と診断を説明できる。
E-3-4) 治療	
E-3-4)-①	腫瘍の治療法について概説できる。
E-3-5) 診療の基本的事項	
E-3-5)-①	腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。
E-3-5)-②	腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。
E-3-5)-③	腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く概説できる
E-3-6) 腫瘍各論	
E-3-6)-(1) 神経系	
E-3-6)-(1)-①	主な脳・脊髄腫瘍（膠芽腫、髄膜種、神経鞘腫および転移性脳腫瘍）の病因、疫学、病態生理、症候、診断および病理診断を説明できる。
E-3-6)-(1)-②	下垂体腫瘍を概説できる。
E-3-6)-(2) 皮膚系	
E-3-6)-(2)-①	皮膚良性腫瘍（脂漏性角化症、粉瘤、皮膚線維腫およびケラトアcantoma）を概説できる。
E-3-6)-(2)-②	皮膚悪性リンパ腫（菌状息肉症とSezary症候群）を概説できる。
E-3-6)-(2)-③	間葉系悪性腫瘍（血管肉腫、隆起性皮膚線維肉腫およびKaposi肉腫）を概説できる。
E-3-6)-(2)-④	基底細胞癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(2)-⑤	有棘細胞癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(2)-⑥	悪性黒色腫の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(3) 運動器（筋骨格）系	
E-3-6)-(3)-①	原発性骨腫瘍（骨肉腫、軟骨肉腫およびEwing 肉腫）の臨床所見、画像所見、病理所見、治療を説明できる。
E-3-6)-(3)-②	転移性骨腫瘍（転移性脊椎腫瘍を含む）の臨床所見、画像所見および検査所見を説明できる。
E-3-6)-(3)-③	悪性軟部腫瘍（脂肪肉腫）の症候、診断および治療法を概説できる。
E-3-6)-(4) 循環器系	
E-3-6)-(4)-①	粘液腫の症候と検査所見を概説できる。

E-3-6)-(5) 呼吸器系	
E-3-6)-(5)-①	肺癌の組織型、病期分類を概説でき、症候、診断および治療方針の原則を説明できる。
E-3-6)-(5)-②	転移性肺腫瘍の症候と診断を概説できる。
E-3-6)-(5)-③	縦隔腫瘍の種類を列挙し、症候と診断を概説できる。
E-3-6)-(5)-④	胸膜中皮腫の病因、症候および診断を概説できる。
E-3-6)-(5)-⑤	良性肺腫瘍の病態、症候および診断を概説できる。
E-3-6)-(5)-⑥	気管・気管支腫瘍を概説できる。
E-3-6)-(5)-⑦	癌性胸膜炎の病態、症候および診断を概説できる。
E-3-6)-(5)-⑧	癌性リンパ管症を概説できる。
E-3-6)-(6) 消化器系	
E-3-6)-(6)-①	食道癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-②	胃癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-③	大腸癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-④	胆嚢・胆管癌と乳頭部癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-⑤	原発性肝癌と転移性肝癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-⑥	膵癌の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(6)-⑦	嚢胞性膵腫瘍の病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を概説できる。
E-3-6)-(6)-⑧	腹膜中皮腫、消化管間質腫瘍<GIST>および消化管カルチノイドの病因、疫学、症候、検査、診断および治療法を概説できる。
E-3-6)-(7) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	
E-3-6)-(7)-①	腎癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(7)-②	腎盂・尿管癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断および病理所見を説明できる。
E-3-6)-(7)-③	膀胱癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(7)-④	尿膜管癌を概説できる。
E-3-6)-(8) 生殖機能	
E-3-6)-(8)-①	前立腺癌の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(8)-②	精巣腫瘍の病因、疫学、病態生理、症候、診断、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(8)-③	子宮頸癌と子宮体癌（子宮内膜癌）の予防、症候、病理所見、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(8)-④	卵巣腫瘍（卵巣癌と卵巣嚢腫）の症候、病理所見、診断および治療法を説明できる。
E-3-6)-(8)-⑤	絨毛性疾患（胞状奇胎と絨毛癌）の症候、診断および治療法を概説できる。
E-3-6)-(9) 内分泌・栄養・代謝系	
E-3-6)-(9)-①	甲状腺腫瘍の症候、診断、病理所見および治療を説明できる。
E-3-6)-(9)-②	神経芽腫を概説し、小児腹部固形腫瘍（腎芽腫、胚芽腫および奇形腫）との鑑別点を概説できる。
E-3-6)-(10) 眼・視覚系	
E-3-6)-(10)-①	網膜芽細胞腫の病因、疫学、病態生理、症候、診断および治療法を概説できる。
E-3-6)-(11) 耳鼻・咽頭・口腔系	
E-3-6)-(11)-①	口腔・舌癌、咽頭癌および喉頭癌の病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見および治療法を説明できる。
E-3-6)-(11)-②	鼻・副鼻腔腫瘍の画像所見、病理所見および治療法を概説できる。

E-4 免疫・アレルギー	
E-4-1) 診断と検査の基本	
E-4-1)-①	自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。
E-4-2) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
E-4-3) 病態と疾患	
E-4-3)-(1) 自己免疫疾患一般	
E-4-3)-(1)-①	膠原病疾患、自己免疫疾患およびアレルギー性疾患をそれぞれ概説し、その種類を列挙できる。
E-4-3)-(1)-②	関節炎をきたす疾患を列挙できる。
E-4-3)-(1)-③	膠原病疾患に特徴的な皮疹を説明し、関連する疾患を列挙できる。
E-4-3)-(2) 関節リウマチと類縁疾患	
E-4-3)-(2)-①	関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療法およびリハビリテーションを説明できる。
E-4-3)-(2)-②	関節リウマチの関節外症状を説明できる。
E-4-3)-(2)-③	成人 Still病の症候と診断を概説できる。

E-4-3)-(3) 全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群	
E-4-3)-(3)-①	全身性エリテマトーデス<SLE>の病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
E-4-3)-(3)-②	抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断および治療法を説明できる。
E-4-3)-(4) 全身性硬化症、皮膚筋炎、多発性筋炎、混合性結合組織病、Sjögren症候群	
E-4-3)-(4)-①	全身性硬化症の病態生理、分類、症候および診断を説明できる。
E-4-3)-(4)-②	皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断および合併症（間質性肺炎と悪性腫瘍）を説明できる。
E-4-3)-(4)-③	混合性結合組織病を概説できる。
E-4-3)-(4)-④	Sjögren症候群の病態生理、分類、症候および診断を説明できる。
E-4-3)-(4)-⑤	IgG4 関連疾患の症候と診断を概説できる。
E-4-3)-(5) 全身性血管炎、Behçet病、川崎病	
E-4-3)-(5)-①	全身性血管炎の病態生理、分類、症候および診断を説明できる。
E-4-3)-(5)-②	リウマチ性多発筋痛症の症候と診断を概説できる。
E-4-3)-(5)-③	Behçet病の症候と診断を説明できる。
E-4-3)-(5)-④	川崎病の症候と診断を概説できる。
E-4-3)-(6) アレルギー性疾患	
E-4-3)-(6)-①	薬物アレルギーの特徴、診断および治療法を説明できる。
E-4-3)-(6)-②	アナフィラキシーの症候、診断および治療法を説明できる。
E-4-3)-(6)-③	食物アレルギーの種類、診断および治療法を説明できる。
E-4-3)-(7) 免疫不全症	
E-4-3)-(7)-①	原発性免疫不全症候群の病態、診断および治療法を概説できる。
E-4-3)-(7)-②	後天性免疫不全症候群<AIDS>の病態、診断および治療法を説明できる。

E-5 物理・化学的因子による疾患	
E-5-1) 診断と検査の基本	
E-5-1)-①	中毒患者が呈するトキシンドロームの概念を理解し、中毒患者の症状や背景などから、起因物質を推定する過程を説明できる。
E-5-2) 症候	
<症候は、「F-1 症候・病態からのアプローチ」にまとめて記載した。>	
E-5-3) 疾患	
E-5-3)-(1) 中毒	
E-5-3)-(1)-①	細菌、ウイルス、寄生虫、自然毒および化学物質による食中毒の病態、症候、診断と治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(1)-②	一酸化炭素中毒の背景、病態、治療法、死体所見および予防を説明できる。
E-5-3)-(1)-③	有機リン剤（農薬、化学兵器）、カーバメート剤およびその他の農薬による中毒の発生機序、症候、診断と治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(1)-④	有機溶剤による中毒の機序、症候、診断と治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(1)-⑤	重金属、産業化学物質および自然毒による中毒の機序、診断および治療法を説明できる。
E-5-3)-(1)-⑥	アルコール、覚醒剤、麻薬、大麻、等の乱用薬物による中毒の病因、症候、診断、治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(1)-⑦	薬物（睡眠薬、向精神薬、解熱鎮痛薬、麻薬および覚醒剤）による中毒の病因、症候、診断と治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(2) 環境要因等による疾患	
E-5-3)-(2)-①	熱中症の重症度分類について理解し、症候、主な検査・診断と治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(2)-②	低温による障害の症候、主な検査・診断、治療法および死体所見を説明できる。
E-5-3)-(2)-③	騒音、振動による障害の病態、主な検査・診断および治療法を説明できる。
E-5-3)-(2)-④	気圧による障害の病態、主な検査・診断および治療法を説明できる。
E-5-3)-(3) 熱傷	
E-5-3)-(3)-①	熱傷の重症度（気道熱傷の有無、熱傷面積と深達度および生活反応）を評価し、治療方針を説明できる。焼死の死体所見を説明できる。

E-6 放射線の生体影響と放射線障害	
E-6-1) 生体と放射線	
E-6-1)-①	放射線の種類と放射能、これらの性質、定量法および単位を説明できる。
E-6-1)-②	内部被ばくと外部被ばくの線量評価、病態、症候、診断および治療法を説明できる。
E-6-1)-③	放射線と電磁波の人体（胎児を含む）への影響（急性影響と晩発影響）と適切な利用法について理解している。
E-6-1)-④	種々の正常組織の放射線の透過性と放射線感受性の違いについて説明できる。

E-6-1)-⑤	磁気共鳴画像で用いられている磁場と電磁波の特徴を理解し、人体や植え込みデバイスの発熱等の現象について概説できる。
E-6-1)-⑥	放射線治療の生物学的原理、放射線の遺伝子・細胞への作用、放射線による細胞死の機序および局所的・全身的影響について概説できる。
E-6-2) 医療放射線と生体影響	
E-6-2)-①	医療被ばくと職業被ばくも含めた放射線被ばく低減の3原則と安全管理を理解し、放射線を用いる画像検査と処置（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学、血管造影、インターベンショナルラジオロジー、エックス線透視、等）の被ばく軽減について原則を知り、実行できる。
E-6-2)-②	放射線診断、血管造影、画像下治療（インターベンショナルラジオロジー）、等の利益とコスト・リスク（被ばく線量、急性・晩発影響、等）を知り、適応の有無を判断できる。
E-6-2)-③	放射線治療の生物学的原理、放射線の遺伝子・細胞への作用、放射線による細胞死の機序および局所的・全身的影響について説明できる。
E-6-2)-④	放射線診断と治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。

E-7 成長と発達

E-7-1) 胎児・新生児

E-7-1)-①	胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化について説明できる。
E-7-1)-②	主な先天性疾患（胆道閉鎖症、先天性腎尿路異常、Down症候群、Turner症候群、Fallot四徴症、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存および先天性副腎過形成）を説明できる。
E-7-1)-③	主な先天性疾患（先天性筋ジストロフィー、鎖肛、先天性十二指腸閉鎖・狭窄症、先天性食道閉鎖症および先天性アミノ酸代謝異常症）を概説できる。
E-7-1)-④	新生児の生理的特徴を説明できる。
E-7-1)-⑤	胎児機能不全（non-reassuring fetal status <NRFS>）を説明できる。
E-7-1)-⑥	新生児仮死の病態を説明できる。
E-7-1)-⑦	新生児マスキリーニングを説明できる。
E-7-1)-⑧	新生児黄疸の鑑別と治療法を説明できる。
E-7-1)-⑨	新生児期の呼吸障害の病因〔呼吸窮（促）迫症候群、胎便吸引症候群および一過性多呼吸〕を列挙できる。
E-7-1)-⑩	正常児、低出生体重児および病児の管理の基本を説明できる。
E-7-1)-⑪	低出生体重児固有の疾患を説明できる。

E-7-2) 乳幼児

E-7-2)-①	乳幼児の生理的特徴について説明できる。
E-7-2)-②	乳幼児の正常な精神運動発達を説明できる。
E-7-2)-③	乳幼児突然死症候群（sudden infant death syndrome <SIDS>）を説明できる。

E-7-3) 小児期全般

E-7-3)-①	小児期の身体の成長と生理機能の発達について説明できる。
E-7-3)-②	小児期の正常な精神運動発達について説明できる。
E-7-3)-③	小児期の愛着形成、保育法および栄養法について説明できる。
E-7-3)-④	小児期の栄養面での特性と食育について概説できる。
E-7-3)-⑤	小児期の免疫発達と感染症の関係について概説できる。
E-7-3)-⑥	成長に関わる主な異常（小児心身症を含む）を列挙できる。
E-7-3)-⑦	成長ホルモン分泌不全型低身長を説明できる。
E-7-3)-⑧	家族ライフサイクル、家族成員間関係および家族システムの視点で、患者・家族間の問題（虐待・ネグレクト等）を概説できる。
E-7-3)-⑨	小児の症候、診断法および治療法における特徴を概説できる。
E-7-3)-⑩	神経発達障害群（自閉症スペクトラム障害<ASD>、注意欠如・多動障害<ADHD>、限局性学習障害およびチック障害群）を列挙できる。

E-7-4) 思春期

E-7-4)-①	思春期発現の機序と性徴を概説できる。
E-7-4)-②	学童期、思春期と関連する課題（学業、友達、等に関わる課題）を概説できる。
E-7-4)-③	思春期、青年期と関連する課題（生殖、いのち、等に関わる課題）を概説できる。
E-7-4)-④	小児期から成人期への医療の移行について、現状と課題を概説できる。

E-8 加齢と老化

E-8-1) 老化と高齢者の特徴

E-8-1)-①	老化機構について理解し、老化に伴う臓器や身体機能の変化と生理的变化について説明できる。
E-8-1)-②	高齢者総合機能評価（comprehensive geriatric assessment <CGA>）を実施できる。

E-8-1)-③	老年症候群（歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害、等）の概念を説明できる。
E-8-1)-④	フレイル、サルコペニアおよびロコモティブ・シンドロームの概念について説明でき、その対処法と予防を説明できる。
E-8-1)-⑤	認知症、うつ及びせん妄の違いを説明でき、それぞれの鑑別と初期対応を説明できる。
E-8-1)-⑥	歩行障害、転倒、等に関する国際生活機能分類について説明できる。
E-8-1)-⑦	口腔機能低下と摂食・嚥下障害に関する国際生活機能分類について説明できる。
E-8-1)-⑧	高齢者の栄養マネジメントについて説明できる。
E-8-1)-⑨	加齢に伴う薬物動態の変化と高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等の適切な介入について説明できる。
E-8-1)-⑩	高齢者の障害と廃用症候群に関する国際生活機能分類について説明できる。
E-8-1)-⑪	日常生活動作に応じた介護と環境整備について説明できる。
E-8-1)-⑫	高齢者の人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）について説明できる。

E-9 人の死	
E-9-1) 生物的死と社会的死	
E-9-1)-①	個体の死の定義（死の三徴等）を理解し、個体の死の判定を説明できる。死後の死体現象（死斑、死後硬直および直腸温）について説明できる。
E-9-1)-②	植物状態と脳死の違いを説明できる。
E-9-1)-③	内因死と外因死について違いと内容を説明できる。
E-9-1)-④	突然死の定義を説明できる。突然死を生じる可能性の高い内因性疾患を成人と小児でそれぞれ挙げ、説明できる。
E-9-1)-⑤	外因死としての損傷と窒息を説明できる。
E-9-1)-⑥	診療関連死を説明でき、医療事故調査センターと院内調査の役割と病理解剖の重要性を説明できる。
E-9-1)-⑦	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控え、等について説明できる。

F 診療の基本	
F-1 症候・病態からのアプローチ	
F-1-1) 発熱	
F-1-1)-①	発熱の原因と病態生理を説明できる。
F-1-1)-②	発熱をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-1)-③	発熱がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-2) 全身倦怠感	
F-1-2)-①	全身倦怠感の原因と病態生理を説明できる。
F-1-2)-②	全身倦怠感をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-2)-③	全身倦怠感がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-3) 食思(欲)不振	
F-1-3)-①	食思(欲)不振の原因と病態生理を説明できる。
F-1-3)-②	食思(欲)不振をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-3)-③	食思(欲)不振がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-4) 体重減少・体重増加	
F-1-4)-①	体重減少・体重増加の原因と病態生理を説明できる。
F-1-4)-②	体重減少・体重増加をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-4)-③	体重減少・体重増加がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-5) ショック	
F-1-5)-①	ショックの原因と病態生理を説明できる。
F-1-5)-②	ショックをきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-5)-③	ショックがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-6) 心停止	
F-1-6)-①	心停止の原因と病態生理を説明できる。
F-1-6)-②	心停止をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-6)-③	心停止がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-7) 意識障害・失神	
F-1-7)-①	意識障害・失神の原因と病態生理を説明できる。

F-1-7)-②	意識障害・失神をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-7)-③	意識障害・失神がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-8) けいれん	
F-1-8)-①	けいれんの原因と病態生理を説明できる。
F-1-8)-②	けいれんをきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-8)-③	けいれんがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-9) めまい	
F-1-9)-①	めまいの原因と病態生理を説明できる。
F-1-9)-②	めまいをきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-9)-③	めまいがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-10) 脱水	
F-1-10)-①	脱水の原因と病態生理を説明できる。
F-1-10)-②	脱水をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-10)-③	脱水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-11) 浮腫	
F-1-11)-①	浮腫の原因と病態生理を説明できる。
F-1-11)-②	浮腫をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-11)-③	浮腫がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-12) 発疹	
F-1-12)-①	発疹の原因と病態生理を説明できる。
F-1-12)-②	発疹をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-12)-③	発疹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-13) 咳・痰	
F-1-13)-①	咳・痰の原因と病態生理を説明できる。
F-1-13)-②	咳・痰をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-13)-③	咳・痰がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-14) 血痰・喀血	
F-1-14)-①	血痰・喀痰の原因と病態生理を説明できる。
F-1-14)-②	血痰・喀痰をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-14)-③	血痰・喀痰がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-15) 呼吸困難	
F-1-15)-①	呼吸困難の原因と病態生理を説明できる。
F-1-15)-②	呼吸困難をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-15)-③	呼吸困難がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-16) 胸痛	
F-1-16)-①	胸痛の原因と病態生理を説明できる。
F-1-16)-②	胸痛をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-16)-③	胸痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-17) 動悸	
F-1-17)-①	動悸の原因と病態生理を説明できる。
F-1-17)-②	動悸をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-17)-③	動悸がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-18) 胸水	
F-1-18)-①	胸水の原因と病態生理を説明できる。
F-1-18)-②	胸水をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-18)-③	胸水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-19) 嚥下困難・障害	
F-1-19)-①	嚥下困難・障害の原因と病態生理を説明できる。
F-1-19)-②	嚥下困難・障害をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-19)-③	嚥下困難・障害がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-20) 腹痛	
F-1-20)-①	腹痛の原因と病態生理を説明できる。
F-1-20)-②	腹痛をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-20)-③	腹痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-21) 悪心・嘔吐	
F-1-21)-①	悪心・嘔吐の原因と病態生理を説明できる。

F-1-21)-②	悪心・嘔吐をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-21)-③	悪心・嘔吐がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-22) 吐血・下血	
F-1-22)-①	吐血・下血の原因と病態生理を説明できる。
F-1-22)-②	吐血・下血をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-22)-③	吐血・下血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-23) 便秘・下痢	
F-1-23)-①	便秘・下痢の原因と病態生理を説明できる。
F-1-23)-②	便秘・下痢をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-23)-③	便秘・下痢がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-24) 黄疸	
F-1-24)-①	黄疸の原因と病態生理を説明できる。
F-1-24)-②	黄疸をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-24)-③	黄疸がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤	
F-1-25)-①	腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤の原因と病態生理を説明できる。
F-1-25)-②	腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-25)-③	腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-26) 貧血	
F-1-26)-①	貧血の原因と病態生理を説明できる。
F-1-26)-②	貧血をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-26)-③	貧血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-27) リンパ節腫脹	
F-1-27)-①	リンパ節腫脹の原因と病態生理を説明できる。
F-1-27)-②	リンパ節腫脹をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-27)-③	リンパ節腫脹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-28) 尿量・排尿の異常	
F-1-28)-①	尿量・排尿の異常の原因と病態生理を説明できる。
F-1-28)-②	尿量・排尿の異常をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-28)-③	尿量・排尿の異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-29) 血尿・タンパク尿	
F-1-29)-①	血尿・タンパク尿の原因と病態生理を説明できる。
F-1-29)-②	血尿・タンパク尿をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-29)-③	血尿・タンパク尿がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-30) 月経異常	
F-1-30)-①	月経異常の原因と病態生理を説明できる。
F-1-30)-②	月経異常をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-30)-③	月経異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-31) 不安・抑うつ	
F-1-31)-①	不安・抑うつの原因と病態生理を説明できる。
F-1-31)-②	不安・抑うつをきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-31)-③	不安・抑うつがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-32) もの忘れ	
F-1-32)-①	もの忘れの原因と病態生理を説明できる。
F-1-32)-②	もの忘れをきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-32)-③	もの忘れがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-33) 頭痛	
F-1-33)-①	頭痛の原因と病態生理を説明できる。
F-1-33)-②	頭痛をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-33)-③	頭痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-34) 運動麻痺・筋力低下	
F-1-34)-①	運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる。
F-1-34)-②	運動麻痺・筋力低下をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-34)-③	運動麻痺・筋力低下がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-35) 腰背部痛	
F-1-35)-①	腰背部痛の原因と病態生理を説明できる。

F-1-35)-②	腰背部痛をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-35)-③	腰背部痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-36) 関節痛・関節腫脹	
F-1-36)-①	関節痛・関節腫脹の原因と病態生理を説明できる。
F-1-36)-②	関節痛・関節腫脹をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-36)-③	関節痛・関節腫脹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。
F-1-37) 外傷・熱傷	
F-1-37)-①	外傷・熱傷の原因と病態生理を説明できる。
F-1-37)-②	外傷・熱傷をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。
F-1-37)-③	外傷・熱傷がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。

F-2 基本的診療知識	
F-2-1) 臨床推論	
F-2-1)-①	問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。
F-2-1)-②	情報収集には医療面接、身体診察および検査の3つの方法があることを説明できる。
F-2-1)-③	診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学、等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを説明できる。
F-2-1)-④	診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。
F-2-1)-⑤	診断過誤の原因とその防止法を説明できる。
F-2-1)-⑥	状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることが説明できる。
F-2-1)-⑦	治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や折り合わせをすることができる。
F-2-1)-⑧	コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。
F-2-2) 根拠に基づいた医療	
<B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>にまとめた。>	
F-2-3) 臨床検査	
F-2-3)-①	臨床検査の目的と意義を説明できる。
F-2-3)-②	主要な臨床検査の正しい検体採取方法と検体保存方法を説明できる。
F-2-3)-③	主要な臨床検査の安全な実施方法（患者確認、検体確認、検査の合併症、感染症予防および精度管理）を説明できる。
F-2-3)-④	主要な臨床検査の特性〔感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率（事前確率）、検査後確率（事後確率）、尤度比およびreceiver operating characteristic <ROC>曲線〕と判定基準（基準値、基準範囲、カットオフ値およびパニック値）を説明できる。
F-2-3)-⑤	主要な臨床検査項目の生理的変動、測定誤差、精度管理およびヒューマンエラーについて説明できる。
F-2-3)-⑥	小児、高齢者および妊産婦の検査値特性を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑦	主要な病態を推測する基本的検査と確定診断のための検査を列挙できる。
F-2-3)-⑧	血算の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑨	凝固・線溶検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑩	尿・糞便検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑪	穿刺液（脳脊髄液、胸水、腹水、等）の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑫	生化学検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑬	染色体・遺伝子検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑭	病理組織検査、細胞診検査およびフローサイトメトリの意義を説明できる。
F-2-3)-⑮	免疫血清検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑯	生体機能検査（心電図、呼吸機能検査、超音波検査、内分泌・代謝機能検査および脳波検査）の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑰	細菌学検査（塗抹、培養、同定および薬剤感受性試験）の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑱	ウイルス学検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑲	動脈血ガス分析と経皮的酸素飽和度モニタの目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3)-⑳	脳脊髄液・胸水・腹水検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-4) 病理診断	
F-2-4)-①	病理診断、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製および診断過程を説明できる。
F-2-4)-②	診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。
F-2-4)-③	術中迅速診断の利点と欠点を説明できる。
F-2-4)-④	デジタル画像を用いた病理診断（遠隔診断を含む）の利点と欠点を説明できる。
F-2-4)-⑤	病理解剖の医療における位置付けと法的事項、手続、等を説明できる。

F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療	
F-2-5)-①	主要な画像検査（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>および核医学検査）の原理と適応を述べ、それらの画像所見を説明できる。
F-2-5)-②	画像下治療（インターベンショナルラジオロジー）を概説できる。
F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療	
F-2-6)-①	内視鏡機器の目的と適応を理解し、概説できる。
F-2-6)-②	内視鏡検査法の目的と適応を理解し、概説できる。
F-2-6)-③	内視鏡を用いる基本的な治療を概説できる。
F-2-7) 超音波を用いる診断と治療	
F-2-7)-①	超音波機器の種類と原理を説明できる。
F-2-7)-②	超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。
F-2-7)-③	主な疾患と病態のエコー像を概説できる。
F-2-7)-④	超音波を用いる治療を概説できる。
F-2-7)-⑤	超音波の生体作用と安全性を説明できる。
F-2-7)-⑥	超音波造影法を説明できる。
F-2-8) 薬物治療の基本原則	
F-2-8)-①	薬物の蓄積、耐性、タキフィラキシーおよび依存を説明できる。
F-2-8)-②	主な薬物アレルギーの症候、診察、診断、予防策および対処法を説明できる。
F-2-8)-③	薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断および対処法を説明できる。
F-2-8)-④	各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌、等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象および投与時の注意事項を説明できる。
F-2-8)-⑤	微生物の特性に応じた治療薬の薬理作用、適応、有害事象および投与時の注意事項について説明できる。
F-2-8)-⑥	抗腫瘍薬の適応、有害事象および投与時の注意事項を説明できる。
F-2-8)-⑦	オピオイド鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象および投与時の注意事項について説明できる。
F-2-8)-⑧	主な薬物の有害作用と薬物間相互作用を概説できる。
F-2-8)-⑨	年齢と臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮した薬剤投与の注意点を説明できる。
F-2-8)-⑩	薬物動態の相互作用について説明できる。
F-2-8)-⑪	服薬の基本とアドヒアランスについて説明できる。
F-2-8)-⑫	分子標的薬とバイオ医薬の薬理作用、適応、有害事象および投与時の注意事項について説明できる。
F-2-8)-⑬	漢方医学の特徴と主な和漢薬（漢方薬）の薬理作用、適応、有害事象および投与時の注意事項について概説できる。
F-2-8)-⑭	ポリファーマシーとその介入方法について概説できる。
F-2-9) 外科的治療と周術期管理	
F-2-9)-(1) 外科的治療	
F-2-9)-(1)-①	清潔の概念、清潔操作の必要性および手技を説明できる。
F-2-9)-(1)-②	手洗いの必要性と手技を説明できる。
F-2-9)-(1)-③	ガウンテクニックの必要性と手技を説明できる。
F-2-9)-(1)-④	創傷治癒のメカニズムを説明できる。
F-2-9)-(1)-⑤	被覆材の種類、適応および効果を説明できる。
F-2-9)-(1)-⑥	外科的治療の適応と合併症について概説できる。
F-2-9)-(2) 周術期管理	
F-2-9)-(2)-①	手術の危険因子とその対応の基本について概説できる。
F-2-9)-(2)-②	バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸数および酸素飽和度）の正常値と測定法を説明できる。
F-2-9)-(2)-③	主な術後合併症とその予防の基本について概説できる。
F-2-9)-(2)-④	手術と侵襲的処置に関するインフォームド・コンセントの注意点について概説できる。
F-2-9)-(2)-⑤	周術期管理における事前のリスク評価について概説できる。
F-2-9)-(2)-⑥	周術期における主な薬剤の服薬管理（継続、中止、等）の必要性とそれに伴うリスクについて概説できる。
F-2-9)-(2)-⑦	周術期における輸液と輸血について概説できる。
F-2-9)-(2)-⑧	周術期における疼痛の管理について概説できる。
F-2-9)-(2)-⑨	集中治療の意義と集中治療室について概説できる。
F-2-10) 麻酔	
F-2-10)-①	局所麻酔、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄くも膜下麻酔および硬膜外麻酔の適応、禁忌および合併症について説明できる。
F-2-10)-②	麻酔管理を安全に行うための術前評価について概説できる。
F-2-10)-③	麻酔薬と筋弛緩薬の種類と使用上の原則について説明できる。
F-2-10)-④	吸入麻酔と静脈麻酔の適応、合併症および禁忌について概説できる。

F-2-10)-⑤	気管挿管を含む各種の気道確保法と合併症を概説できる。
F-2-10)-⑥	頻度や緊急性の高い患者に対する初期対応（二次救命処置を含む）について概説できる。
F-2-10)-⑦	安全な麻酔のためのモニタリングの方法、重要な異常所見および対処法について概説できる。
F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法	
F-2-11)-①	栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメント、栄養サポートチームおよび疾患別の栄養療法を説明できる。
F-2-11)-②	経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法、合併症および長期投与時の注意事項を説明できる。
F-2-11)-③	消化器系疾患に特異的な治療法（経管・経腸栄養）を説明できる。
F-2-11)-④	小児に特異的な治療法（小児輸液療法）を説明できる。
F-2-12) 医療機器と人工臓器	
F-2-12)-①	主な医療機器の種類と原理を説明できる。
F-2-12)-②	主な人工臓器の種類と原理を説明できる。
F-2-12)-③	酸素療法の適応と酸素の投与方法を説明できる。
F-2-12)-④	人工換気の種類（分類）とその適応を説明できる。
F-2-13) 輸血と移植	
F-2-13)-①	輸血検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
F-2-13)-②	血液製剤と血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。
F-2-13)-③	血液型（ABOとRhD）検査、血液交差適合（クロスマッチ）試験および不規則抗体検査を説明できる。
F-2-13)-④	輸血副反応、輸血使用記録保管義務および不適合輸血の防止手順を説明できる。
F-2-13)-⑤	輸血の適正使用、成分輸血、自己血輸血および緊急時の輸血を説明できる。
F-2-13)-⑥	臓器移植と造血幹細胞移植の種類と適応を説明できる。
F-2-13)-⑦	移植と組織適合性の関係を説明できる。
F-2-13)-⑧	移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理および発症時の対応を説明できる。
F-2-13)-⑨	免疫抑制薬の種類、適応および副作用を説明できる。
F-2-14) リハビリテーション	
F-2-14)-①	リハビリテーションの概念と適応を説明できる。
F-2-14)-②	リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を概説できる。
F-2-14)-③	福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。
F-2-14)-④	障害を国際生活機能分類の心身機能・身体構造、活動および参加に分けて説明できる。
F-2-14)-⑤	機能障害と日常生活動作の評価について説明ができる。
F-2-14)-⑥	理学療法、作業療法および言語聴覚療法を概説できる。
F-2-14)-⑦	主な歩行補助具、車椅子、義肢（義手と義足）および装具を概説できる。
F-2-15) 在宅医療と介護	
F-2-15)-①	在宅医療の在り方、今後の必要性および課題を概説できる。
F-2-15)-②	在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
F-2-15)-③	褥瘡の予防、評価、処置、治療およびチーム医療の重要性を説明できる。
F-2-15)-④	在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方および課題を概説できる。
F-2-15)-⑤	介護の定義と種類を説明できる。
F-2-15)-⑥	日常生活動作（排泄、摂食、入浴、等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
F-2-15)-⑦	地域包括ケアシステム、介護保険制度、障害者総合支援法、等の医療保健福祉制度を概説できる。
F-2-16) 緩和ケア	
F-2-16)-①	緩和ケアの概念を理解した上で、全人的苦痛（身体的苦痛、心理社会的苦痛およびスピリチュアルペイン）を概説できる。
F-2-16)-②	がん・非がんの症状緩和の薬物療法と非薬物療法の概要を概説できる。
F-2-16)-③	オピオイド鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象および投与時の注意事項について説明できる。
F-2-16)-④	慢性疼痛の病態、経過、治療およびケアを概説できる。
F-2-16)-⑤	患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学、就労、育児、介護、等との両立支援について概説できる。
F-2-16)-⑥	救急・集中治療における治療とケアに関して、人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）を踏まえた患者・家族とのコミュニケーションの意義を理解し、頻度の高い苦痛、その対処法およびケアを概説できる。

付表・参考資料

1. クラス分類別疾患・症候群の一覧表

分野別疾患のクラス別
I 群
D-1 血液・造血器・リンパ系
鉄欠乏性貧血
出血性貧血
二次性貧血
再生不良性貧血
ビタミンB ₁₂ 欠乏性貧血
免疫性血小板減少症（ITP）
血友病
播種性血管内凝固（DIC）
血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）
ビタミンK欠乏症
無顆粒球症
急性白血病
慢性骨髄性白血病
骨髄異形成症候群
悪性リンパ腫
多発性骨髄腫
伝染性単核球症
D-2 神経系
脳出血
くも膜下出血
脳梗塞
一過性脳虚血発作
Alzheimer型認知症
Lewy小体型認知症
脳血管認知症
Parkinson病
筋萎縮性側索硬化症
脳炎
髄膜炎
脳症
脳膿瘍
多発性硬化症
頭蓋骨骨折
急性硬膜外血腫
硬膜下血腫（急性・慢性）

頭部外傷後の高次脳機能障害
ニューロパチー
Guillain-Barré症候群
顔面神経麻痺（Bell麻痺、Ramsay Hunt症候群）
反回神経麻痺
三叉神経痛、坐骨神経痛
重症筋無力症
てんかん
頭痛（片頭痛、緊張型頭痛等）
D-3 皮膚系
紅皮症
皮膚そう痒症
表在性真菌症（白癬、カンジダ、マラセチア）
梅毒
帯状疱疹、伝染性軟属腫、麻疹、風疹、水痘、伝染性紅斑、伝染性単核球症
単純ヘルペス感染症（口唇ヘルペス、性器ヘルペス、カポジ水痘様発疹症）
帯状疱疹
麻疹
風疹
水痘
伝染性軟属腫
伝染性紅斑
尖圭コンジローマ
D-4 運動器（筋骨格）系
脊髄損傷
骨折
骨粗鬆症
腰椎椎間板ヘルニア
椎間板ヘルニア
腰部脊柱管狭窄症
脊柱管狭窄症
変形性関節症
化膿性関節炎
痛風
偽痛風
D-5 循環器系
左心不全
右心不全
急性心不全
慢性心不全
心原性ショック

労作性狭心症
冠攣縮性狭心症
急性心筋梗塞（ST上昇型・非ST上昇型）
房室ブロック
洞不全症候群
心房細動
心房粗動
発作性上室頻拍
心室頻拍
心室細動
期外収縮（上室性・心室性）
心房中隔欠損症、心室中隔欠損症
僧帽弁（狭窄症、閉鎖不全症）
大動脈弁（狭窄症、閉鎖不全症）
特発性心筋症（肥大型・拡張型・拘束型）
急性心筋炎
感染性心内膜炎
急性大動脈解離
大動脈瘤（胸部・腹部）
閉塞性動脈硬化症
深部静脈血栓症
高血圧症（本態性・二次性）
起立性低血圧
D-6 呼吸器系
呼吸不全
低酸素血症
高二酸化炭素血症
急性上気道感染症（かぜ症候群）
扁桃炎
気管支炎
市中肺炎
肺結核症
慢性閉塞性肺疾患（COPD）
気管支喘息（咳喘息を含む）
特発性間質性肺炎
睡眠時無呼吸症候群
気管支拡張症
急性呼吸窮（促）症候群（ARDS）
肺血栓塞栓症
心原性肺水腫
胸膜炎

気胸
咽頭炎
肺炎球菌感染症
インフルエンザ
D-7 消化器系
胃食道逆流症
ヘリコバクターピロリ感染症
急性虫垂炎
潰瘍性大腸炎
便秘症（小児）
感染性腸炎
Crohn病
C型肝炎
B型肝炎
機能性消化管障害
憩室炎
アルコール関連肝疾患
代謝機能障害関連脂肪性肝疾患
胆石症
急性胆嚢炎・胆管炎
総胆管結石症
急性膵炎
慢性膵炎
消化管神経内分泌腫瘍
原発性胆汁性胆管炎
自己免疫性肝炎
薬物性肝障害
消化性潰瘍（胃潰瘍・十二指腸潰瘍）
肝硬変
D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）
急性腎障害（腎前性・腎性・腎後性）
慢性腎臓病（CKD）
慢性腎不全（腎性貧血、ミネラル骨代謝異常<CKD-MBD>）
高・低ナトリウム血症
高・低カリウム血症
高・低カルシウム血症
脱水と浮腫
急性糸球体腎炎
IgA腎症
膜性腎症
微小変化群

急性腎盂腎炎
糖尿病腎症
腎結石、尿管結石
神経因性膀胱
膀胱尿管逆流症
膀胱炎
尿道炎
腹圧性尿失禁
腎外傷
尿道炎
D-9 生殖機能
急性前立腺炎
精巣上体炎
停留精巣
精巣捻転症
前立腺肥大症
機能的月経困難症
更年期障害
子宮筋腫・子宮腺筋症
子宮内膜症
骨盤内炎症性疾患
性器ヘルペス
梅毒、TORCH
D-10 妊娠と分娩
異所性妊娠
妊娠悪阻
流産・切迫流産
妊娠高血圧症候群
切迫早産
常位胎盤早期剥離
前置胎盤、癒着胎盤
主な異常分娩（早産、微弱神通、遷延性分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷）
弛緩出血、羊水塞栓症
播種性血管内凝固(DIC)
D-12 内分泌・栄養・代謝系
先端巨大症
Cushing病
甲状腺機能亢進症
甲状腺機能低下症、クレチン症
1型糖尿病
2型糖尿病

糖尿病性ケトアシドーシス
高血糖高浸透圧症候群
糖尿病性網膜炎
糖尿病性腎症
糖尿病神経障害
高尿酸血症・痛風
Cushing症候群
原発性アルドステロン症
脂質異常症
褐色細胞腫
D-13 眼・視覚系
屈折異常
結膜炎
白内障
緑内障
糖尿病網膜症
麦粒腫・霰粒腫
D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
中耳炎（急性・慢性・滲出性・真珠腫性）
突発性難聴、騒音性難聴・音響外傷、老人性難聴
良性発作性頭位めまい症
前庭神経炎
Ménière病
顔面神経麻痺（Bell麻痺・Ramsay Hunt症候群）
鼻出血
副鼻腔炎（急性・慢性、好酸球性）
花粉症（結膜炎、口腔アレルギーを含む）
アレルギー性鼻炎
急性喉頭蓋炎
反回神経麻痺
咽頭炎
扁桃炎（急性・慢性・周囲炎・周囲膿瘍）
頸部リンパ節転移
D-15 精神系
認知症
統合失調症
うつ病
双極性障害（躁うつ病）
知的能力障害群と自閉症スペクトラム障害(autism spectrum disorder <ASD>)
注意欠如・多動障害(attention deficit / hyperactivity disorder <ADHD>)と運動障害群

E-2 感染症
咽頭炎（A群溶血連鎖球菌）
髄膜炎（肺炎球菌、髄膜炎菌）
市中肺炎（肺炎球菌、インフルエンザ菌、Moraxella catarrhalis）
医療介護関連肺炎（肺炎球菌、MSSA、MRSA、緑膿菌）
マイコプラズマ肺炎
レジオネラ感染症（肺炎・ボンティアック熱）
ニューモシスチス肺炎
季節性インフルエンザウイルス感染症
COVID-19
性行為により感染する疾患（梅毒、淋菌感染症、性器クラミジ、B型肝炎、HIV）
ノロウイルス感染症
クロストリジオイデス・ディフィシル腸炎
腸管出血性大腸菌感染症
カンピロバクター・ジェジュニ、カンピロバクター・コリにより生じうる感染症（腸炎、感染後のギランバレー症候群）
敗血症（肺炎球菌、インフルエンザ菌、MSSA、MRSA、大腸菌）
カンジダにより生じうる感染症（血流感染、眼内炎）
カテーテル関連血流感染症（MSSA、MRSA、緑膿菌、大腸菌）
麻疹
風疹
水痘
流行性耳下腺炎
壊死性筋膜炎
トキシックショック症候群
E-3 腫瘍
脳・脊髄腫瘍
基底細胞癌
有棘細胞癌
悪性黒色腫
原発性骨腫瘍
転移性骨腫瘍
肺癌
食道癌
胃癌
大腸癌
胆嚢・胆管癌
原発性肝癌
転移性肝癌
膵癌
腎癌
腎盂・尿管癌

膀胱癌
前立腺癌
精巣腫瘍
子宮頸癌
子宮体癌
卵巣腫瘍
甲状腺腫瘍
口腔・舌癌
咽頭癌
喉頭癌
E-4 免疫・アレルギー
アナフィラキシー
関節リウマチ
全身性エリテマトーデス
Sjögren症候群
HIV感染症・AIDS
薬剤アレルギー
食物アレルギー
抗リン脂質抗体症候群
全身性硬化症
皮膚筋炎・多発性筋炎
巨細胞性動脈炎
高安動脈炎
結節性多発動脈炎
ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎肉芽種症）
IgA血管炎
Behçet病
胎児機能不全
E-7 成長と発達
新生児仮死
低出生体重児
早期産児
呼吸窮迫症候群
新生児黄疸（高ビリルビン血症）
熱性けいれん
脳性麻痺
West症候群（点頭てんかん、あるいは乳児てんかん性スバズム症候群）
クルーブ症候群
腸重積症
肥厚性幽門狭窄症
胆道閉鎖症

ネフローゼ症候群
先天性腎尿路異常（水腎症、膀胱尿管逆流）
Down症候群、Turner症候群
先天性心疾患（Fallot四徴症、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存）
成長ホルモン分泌不全型低身長
先天性副腎過形成

Ⅱ 群
D-1 血液・造血器・リンパ系
腎性貧血
溶血性尿毒症症候群（HUS）
ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）
発作性夜間ヘモグロビン尿症
自己免疫性溶血性貧血
脾機能亢進症
プロテインC・プロテインS・アンチトロンビン欠乏症
抗リン脂質抗体症候群
移植片対宿主病（GVHD）
成人T細胞白血病
真性赤血球増加症
本態性血小板血症
原発性骨髄線維症
葉酸欠乏性貧血
赤芽球癆
MGUS
血球貪食症候群
D-2 神経系
脳動脈瘤
脳動静脈奇形
もやもや病
脳血管障害の急性期治療
脳血管障害のリハビリテーション
多系統萎縮症
脳挫傷
脳震盪
進行性筋ジストロフィー
周期性四肢麻痺
脳性麻痺
水頭症
Horner症候群

D-3 皮膚系
湿疹・皮膚炎（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、皮脂欠乏性湿疹、自家感作性皮膚炎、うっ滞性皮膚炎）
皮膚細菌感染症（蜂巣炎（蜂窩織炎）、せつ、癰、丹毒、壊死性筋膜炎、ガス壊疽、伝染性膿痂疹、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群）
蕁麻疹、血管性浮腫
紅斑症（多形滲出性紅斑、結節性紅斑、硬結性紅斑、環状紅斑）
血管炎（IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎等）
固定薬疹、Stevens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症<toxic epidermal necrolysis>、薬剤性過敏症症候群<drug-induced hypersensitivity syndrome>
天疱瘡、類天疱瘡
膿疱症
尋常性乾癬、扁平苔癬
皮膚結核（真性皮膚結核、結核疹）
後天性免疫不全症候群<AIDS>に伴う皮膚症状（梅毒、難治性ヘルペス、伝染性軟属腫、カポジ肉腫等）
色素性母斑、太田母斑
母斑症（神経線維腫症 1 型 <von Recklinghausen病>、結節性硬化症）
脂漏性角化症、粉瘤、皮膚線維腫、ケラトアkantトーマ
日光角化症、Bowen病、白板症
皮膚悪性リンパ腫（菌状息肉症、Sézary症候群）
D-4 運動器（筋骨格）系
脱臼
腱損傷
靱帯損傷
半月板損傷
突き指
急性腰痛症
変形性脊椎症
頸椎症性脊髄症
頸椎後縦靱帯骨化症
頸椎症性神経根症
腰椎分離・すべり症
椎間板炎
化膿性脊椎炎
脊椎カリエス
側弯症
外反母趾
肩関節周囲炎
関節拘縮
腱鞘炎
上腕骨外側上顆炎
胸郭出口症候群

手根管症候群
肘部管症候群
肘内障
コンパートメント症候群
挫滅症候群
運動器慢性疼痛
D-5 循環器系
心臓突然死
陳旧性心筋梗塞
心タンポナーゼ
川崎病
三尖弁閉鎖不全症
急性心膜炎
心膜液貯留
不安定狭心症
無痛性虚血性心疾患
二次性心筋症
急性動脈閉塞症
高血圧緊張症
高安動脈炎
上大静脈症候群
Brugada症候群
WPW症候群
Fallot四徴症
動脈管開存
Raynaud症候群
下肢静脈瘤
Budd-Chiari症候群
反射性失神（神経調節性失神）
動脈硬化症
D-6 呼吸器系
細気管支炎
肺真菌症
非結核性（非定型）抗酸菌症
誤嚥性肺炎
肺化膿症・膿胸
百日咳
気腫性嚢胞(ブレブ・ブラ)
膠原病血管炎関連性間質性肺炎
びまん性汎細気管支炎
放射線肺炎

石綿肺(asbestosis)
肺性心
過敏性肺炎
サルコイドーシス
好酸球性肺炎
薬剤性肺炎
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症(ABPA)
過換気症候群
無気肺
血胸
皮下気腫
肋骨骨折
後天性免疫不全症(AIDS)に伴う主な呼吸器感染症
医療・介護関連肺炎・院内肺炎
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
上大静脈症候群
D-7 消化器系
食道静脈瘤
腸閉塞
劇症肝炎
虚血性腸炎
過敏性腸症候群（IBS）
痔核、痔ろう
薬物性腸炎
消化管ポリポーシス
直腸潰瘍
上腸間膜動脈閉塞症
消化管間質腫瘍
胆嚢ポリープ
先天性胆道拡張症
膵胆管合流異常症
自己免疫性膵炎
腹膜炎
消化管ヘルニア
炎症性腸疾患
D-8 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）
急速進行性糸球体腎炎症候群
巣状分節性糸球体硬化症
急性尿細管壊死
高血圧性腎硬化症
急性間質性腎炎

慢性糸球体腎炎
アシドーシス
アルカローシス
顕微鏡的多発血管炎
慢性間質性腎炎
ループス腎炎
アミロイド腎症
膀胱結石、尿道結石
D-9 生殖機能
慢性前立腺炎
過活動膀胱
精巣・精索水腫
精索静脈瘤
尿道下裂
包茎
重複腎盂尿管
異所性尿管開口
膀胱瘤
陰茎折症
精巣損傷
男性不妊症
精巣炎
亀頭包皮炎
尿道カルンクル
膀胱憩室
男性不妊症
内外生殖器の先天異常
D-10 妊娠と分娩
卵巣機能障害
不妊症
外陰・膣と骨盤感染症
バルボウイルスB19感染症
前期破水
早期破水
多胎妊娠
産褥熱
子宮復古不全
血液型不適合妊娠
HTLV-1感染症（母子感染）
D-12 内分泌・栄養・代謝系
高プロラクチン血症

汎下垂体機能低下症
視床下部下垂体炎
中枢性尿崩症
成長ホルモン分泌不全型低身長
ADH不適合分泌症候群<SIADH>
甲状腺炎（慢性・無痛性・亜急性）
副甲状腺機能亢進症
副甲状腺機能低下症
悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症
低血糖症
乳酸アシドーシス
糖尿病性足病変
アルドステロン過剰症
副腎不全（急性・慢性<Addison病>）
肥満症
くる病・骨軟化症
D-13 眼・視覚系
加齢黄斑変性
網膜色素変性症
裂孔原生網膜剥離
ぶどう膜炎
視神経炎(症)・うっ血乳頭
アルカリ、酸による化学損傷
網膜中心静脈閉塞症と網膜中心動脈閉塞症
眼窩吹き抜け骨折
D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
耳硬化症
声帯ポリープ
気道異物
アフタ性口内炎
唾石症
D-15 精神系
症状精神病
薬物使用に関連する精神障害やアルコール、ギャンブル等への依存症
不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群
身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群
解離性障害群
パーソナリティ障害群
E-2 感染症
ウイルス性髄膜炎
クリプトコックス属により生じる感染症（肺炎、髄膜炎）

アスペルギルス属より生じる感染症（侵襲性肺アスペルギルス症、慢性進行性肺アスペルギルス症、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症）
人工呼吸器関連感染症
アデノウイルス、単純ヘルペス、パルボウイルス、サイトメガロ、ヒトパピローマ
後天性免疫不全症候群
性器ヘルペス、尖圭コンジローマ
クラミジアトラコマトリス、クラミジアニューモニエ、クラミジアシッタシにより生じうる感染症（尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内感染症、結膜炎、肺炎）
リステリアモノサイトゲネスにより生じうる感染症（腸炎、菌血症、髄膜炎）
サルモネラ菌により生じうる感染症（腸炎、菌血症、骨髄炎）
リケッチア感染症（ツツガムシ病、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群）
寄生虫（アニサキス、日本海裂頭条虫）
原虫疾患（マラリア、赤痢アメーバ、トキソプラズマゴンディ）
クレブシェラ感染症、セラチア感染症
アシネトバクター感染症、バクテロイデス感染症
手術部位感染（MSSA、MRSA）
骨髄炎（MSSA、MRSA）
E-3 腫瘍
下垂体腫瘍
皮膚良性腫瘍
皮膚悪性リンパ腫
間葉性悪性腫瘍
悪性軟部腫瘍
粘液腫
転移性肺腫瘍
縦郭腫瘍
胸膜中皮腫
良性肺腫瘍
癌性胸膜炎
癌性リンパ管症
嚢胞性脾腫瘍
腹膜中皮腫
消化管間質腫瘍＜GIST＞
消化管カルチノイド
尿管癌
絨毛性疾患
神経芽腫
網膜芽細胞腫
鼻・副鼻腔腫瘍
E-4 免疫・アレルギー
成人Still病
IgG4関連疾患

混合性結合組織病
リウマチ性多発筋痛症
川崎病
原発性免疫不全症
E-7 成長と発達
胎便吸引症候群
新生児一過性多呼吸
ビタミンK欠乏症
重症複合免疫不全症
無ガンマグロブリン血症
新生児のけいれん（低血糖、低カルシウム血症）
Sturge-Weber症候群
結節性硬化症
神経線維腫症 1 型
先天性十二指腸閉鎖・狭窄症
先天性食道閉鎖症
夜尿症
先天性アミノ酸代謝異常症
思春期早発症
先天性筋ジストロフィー
鎖肛
紫斑病性腎炎
E-8 加齢と老化
老年症候群（歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害等）
フレイル
サルコペニア
ロコモティブ・シンдрーム
高齢者の障害及び廃用症候群

2. 「症候をきたす疾患」の一覧表

症候	病名	※R4コアカリ	クラス分類	タイプM疾患
発熱	亜急性甲状腺炎		Ⅱ	
	悪性リンパ腫		Ⅰ	
	インフルエンザ	○	Ⅰ	◎
	潰瘍性大腸炎		Ⅰ	
	感染性心内膜炎	○	Ⅰ	◎
	急性腎盂腎炎		Ⅰ	◎
	急性中耳炎		Ⅰ	◎
	急性白血病		Ⅰ	◎
	急性腹膜炎		Ⅰ	×
	結核	○	Ⅰ	◎
	髄膜炎（髄膜脳炎）	○	Ⅰ	◎
	胆管炎	○	Ⅰ	◎
	胆嚢炎	○	Ⅰ	◎
	肺炎	○	Ⅰ	◎
	敗血症		Ⅰ	◎
	急性副鼻腔炎	○	Ⅰ	◎
	扁桃炎	○	Ⅰ	◎
	上気道炎（気管支炎）	○	Ⅰ	
	尿路感染症	○	Ⅰ	
	蜂巣炎（蜂窩織炎）	○	Ⅰ	
	薬剤性	○		×
全身倦怠感	悪性腫瘍		Ⅰ	◎
	うつ血性心不全	○	Ⅰ	◎
	うつ病	○	Ⅰ	◎
	肝硬変		Ⅰ	◎
	高カルシウム血症		Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	肺結核	○	Ⅰ	◎
	慢性肝炎	○	Ⅰ	◎
	慢性腎臓病		Ⅰ	◎
	慢性副腎不全<Addison病>		Ⅰ	◎
	鉄欠乏性貧血	○	Ⅰ	◎
食思(欲)不振	悪性腫瘍全般		Ⅰ	◎
	うつ病	○	Ⅰ	◎
	急性肝炎	○	Ⅰ	◎
	消化性潰瘍	○	Ⅰ	◎
	神経性食思<欲>不振症		Ⅰ	◎
	副腎不全	○	Ⅱ	
体重減少・体重増加	Cushing症候群		Ⅰ	◎
	悪性腫瘍	○	Ⅰ	◎
	うつ病	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能亢進症	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	神経性食思<欲>不振症	○	Ⅰ	◎
	心不全	○	Ⅰ	◎
	糖尿病	○	Ⅰ	◎
	ネフローゼ症候群	○	Ⅰ	◎
	慢性閉塞性肺疾患<COPD>	○	Ⅰ	◎
意識障害・失神	急性硬膜外血腫	○	Ⅰ	◎
	急性硬膜下血腫	○	Ⅰ	◎
	起立性低血圧		Ⅰ	◎
	くも膜下出血	○	Ⅰ	◎
	血管迷走神経反射性失神		Ⅰ	◎

意識障害・失神	大動脈弁膜症		Ⅰ	◎
	単純ヘルペス脳炎		Ⅰ	◎
	低血糖	○	Ⅰ	◎
	てんかん	○	Ⅰ	◎
	脳炎	○	Ⅰ	◎
	脳梗塞	○	Ⅰ	◎
	脳出血	○	Ⅰ	◎
	肺血栓塞栓症		Ⅰ	◎
	慢性硬膜下血腫	○	Ⅰ	◎
	不整脈		Ⅰ	◎
	髄膜炎	○	Ⅰ	
	心筋梗塞（急性冠症候群）	○	Ⅰ	
	急性大動脈解離	○	Ⅰ	
	急性消化管出血	○		
	敗血症	○	Ⅰ	
	薬物中毒	○	Ⅱ	×
	アルコール性中毒	○	Ⅱ	
	CO ₂ ナルコーシス	○		
	ナトリウム代謝異常	○		
	ショック	○		
けいれん	低ナトリウム血症		Ⅰ	◎
	てんかん	○	Ⅰ	◎
	熱性けいれん	○	Ⅰ	◎
	脳炎	○	Ⅰ	◎
	脳出血	○	Ⅰ	◎
	脳腫瘍		Ⅰ	◎
	脳症	○	Ⅰ	◎
	脳梗塞	○	Ⅰ	◎
めまい	Ménière病	○	Ⅰ	◎
	Wallenberg症候群		Ⅰ	◎
	外リンパ瘻		Ⅰ	◎
	起立性低血圧		Ⅰ	◎
	小脳・脳幹梗塞	○	Ⅰ	◎
	小脳・脳幹腫瘍<テント下腫瘍>		Ⅰ	◎
	小脳出血	○	Ⅰ	◎
	前庭神経炎	○	Ⅰ	◎
	突発性難聴		Ⅰ	◎
浮腫	良性発作性頭位めまい症	○	Ⅰ	◎
	肝硬変	○	Ⅰ	◎
	急性糸球体腎炎		Ⅰ	◎
	血管神経性浮腫<Quincke浮腫>	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	深部静脈血栓症	○	Ⅰ	◎
	心不全	○	Ⅰ	◎
	特発性浮腫		Ⅰ	◎
	ネフローゼ症候群	○	Ⅰ	◎
	慢性腎臓病	○	Ⅰ	◎
	リンパ浮腫	○	Ⅰ	◎
	薬剤性	○		×
発疹	アトピー性皮膚炎	○	Ⅰ	◎
	結節性紅斑	○	Ⅰ	◎
	蕁麻疹	○	Ⅰ	◎
	水痘	○	Ⅰ	◎
	带状疱疹	○	Ⅰ	◎
	単純ヘルペス	○	Ⅰ	◎

発疹	手足口病		I	◎
	伝染性紅斑	○	II	◎
	突発性発疹		I	◎
	風疹	○	I	◎
	麻疹	○	I	◎
	薬疹	○	I	◎
	湿疹	○	II	
咳・痰	胃食道逆流症<GERD>	○	I	◎
	過敏性肺炎		I	◎
	感冒<かぜ症候群>	○	I	◎
	気管支炎	○	I	◎
	気管支拡張症		I	◎
	気管支喘息	○	I	◎
	特発性間質性肺炎	○	I	◎
	肺炎	○	I	◎
	肺癌	○	I	◎
	肺結核	○	I	◎
	百日咳	○	I	◎
	副鼻腔炎	○	I	◎
	慢性閉塞性肺疾患<COPD>		I	◎
	アレルギー性鼻炎	○	I	
	上気道炎	○	I	
	薬剤性	○		
血痰・喀血	気管支拡張症	○	I	◎
	顕微鏡的多発血管炎		I	◎
	肺アスペルギルス症		I	◎
	肺癌	○	I	◎
	肺結核	○	I	◎
	気管支炎		I	◎
	多発血管炎性肉芽腫症		I	◎
	肺血栓塞栓症		I	◎
呼吸困難	アナフィラキシー	○	II	◎
	うっ血性心不全	○	I	◎
	気管支喘息	○	I	◎
	気胸	○	I	◎
	急性喉頭蓋炎	○	I	◎
	急性呼吸窮迫症候群<ARDS>	○	I	◎
	特発性間質性肺炎	○	I	◎
	肺炎	○	I	◎
	肺結核	○	II	◎
	肺血栓塞栓症	○	I	◎
	パニック障害		I	◎
	慢性閉塞性肺疾患<COPD>	○	I	◎
	窒息	○		
	気胸	○	I	◎
胸痛	急性心筋梗塞	○	I	◎
	急性心膜炎	○	I	◎
	急性大動脈解離	○	I	◎
	狭心症		I	◎
	胸膜炎	○	I	◎
	带状疱疹	○	I	◎
	肺血栓塞栓症	○	I	◎
	パニック障害	○	I	◎
	肋骨骨折		I	◎
	大動脈瘤破裂	○	I	

動悸	甲状腺機能亢進症	○	I	◎
	低血糖症		I	◎
	パニック障害	○	I	◎
	貧血	○	I	◎
	不整脈	○	II	◎
	褐色細胞腫			◎
	肺血栓塞栓症		I	◎
	不安障害	○	II	
嚥下困難・障害	下咽頭癌		I	◎
	急性喉頭蓋炎		I	◎
	球麻痺		I	◎
	重症筋無力症		I	◎
	食道癌	○	I	◎
	全身性強皮症		I	◎
	脳梗塞	○	I	◎
	脳出血	○	I	◎
	扁桃炎	○	I	◎
腹痛	異所性妊娠	○	I	◎
	過敏性腸症候群	○	I	◎
	急性胃腸炎	○	I	◎
	急性心筋梗塞	○	I	◎
	急性脾炎	○	I	◎
	急性虫垂炎	○	I	◎
	虚血性大腸炎	○	I	◎
	消化性潰瘍	○	I	◎
	胆石症	○	I	◎
	胆嚢炎	○	I	◎
	腸間膜動脈閉塞症	○	I	◎
	腸重積症	○	I	◎
	腸閉塞<イレウス>	○	I	◎
	尿路結石	○	I	◎
	卵巣腫瘍捻転	○	I	◎
	流・早産	○	I	◎
	機能性ディスペプシア	○		
	憩室炎	○	I	
	便秘症	○	I	×
	汎発性腹膜炎	○	II	
	鼠経ヘルニア	○		
	急性大動脈解離	○	I	
	子宮内膜症	○	I	
	卵巣癌（捻転）	○	I	
	炎症性腸疾患		II	
	糖尿病性ケトアシドーシス	○	I	
悪心・嘔吐	胃・十二指腸潰瘍		I	◎
	急性胃腸炎	○	I	◎
	急性冠症候群	○	I	◎
	くも膜下出血	○	I	◎
	食中毒	○	I	◎
	髄膜炎（髄膜脳炎）	○	I	◎
	頭蓋内血腫	○	I	◎
	腸閉塞<イレウス>	○	I	◎
	糖尿病ケトアシドーシス<DKA>	○	I	◎
	妊娠	○	I	◎
	脳出血	○	I	◎
	片頭痛	○	I	◎

悪心・嘔吐	急性虫垂炎	○	Ⅰ	×
	カルシウム代謝異常	○	Ⅰ	
吐血・下血	Mallory-Weiss症候群	○	Ⅰ	◎
	胃癌	○	Ⅰ	◎
	炎症性腸疾患		Ⅱ	◎
	感染性腸炎		Ⅰ	◎
	虚血性大腸炎	○	Ⅰ	◎
	痔核		Ⅰ	◎
	消化性潰瘍	○	Ⅰ	◎
	食道・胃静脈瘤破裂	○	Ⅰ	◎
	大腸癌	○	Ⅰ	◎
	大腸憩室	○	Ⅰ	◎
	腸重積症		Ⅰ	◎
	炎症性腸疾患	○	Ⅰ	◎
	腸閉塞	○	Ⅱ	
	裂肛	○		
便秘・下痢	炎症性腸疾患	○	Ⅱ	◎
	過敏性腸症候群	○	Ⅰ	◎
	感染性腸炎		Ⅱ	◎
	甲状腺機能亢進症	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	大腸癌	○	Ⅰ	◎
	Parkinson病	○	Ⅰ	◎
	腸閉塞	○	Ⅰ	◎
	便秘症		Ⅰ	
	薬剤性	○		
黄疸	肝癌	○	Ⅱ	◎
	肝硬変	○	Ⅰ	◎
	急性肝炎	○	Ⅰ	◎
	急性閉塞性化膿性胆管炎		Ⅰ	◎
	自己免疫性溶血性貧血	○	Ⅰ	◎
	脾癌	○	Ⅰ	◎
	体質性黄疸	○	Ⅰ	◎
	胆管癌	○	Ⅰ	◎
	慢性肝炎	○	Ⅰ	◎
	胆管炎	○		
	薬剤性	○		×
腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤	肝硬変	○	Ⅰ	◎
	癌性腹膜炎		Ⅰ	◎
	原発性骨髄線維症		Ⅰ	◎
	鼠径ヘルニア	○	Ⅰ	◎
	腸閉塞<イレウス>	○	Ⅰ	◎
	妊娠	○	Ⅰ	◎
	腹部大動脈瘤		Ⅰ	◎
	慢性骨髄性白血病		Ⅰ	◎
	肝癌		Ⅰ	◎
	大腸癌		Ⅰ	◎
	胃癌		Ⅰ	◎
リンパ節腫脹	悪性リンパ腫	○	Ⅰ	◎
	ウイルス感染症	○	Ⅰ	◎
	サルコイドーシス		Ⅰ	◎
	転移がん		Ⅰ	◎
	伝染性単核球症	○	Ⅰ	◎
	風疹	○	Ⅰ	◎
	リンパ節結核		Ⅰ	◎

リンパ節腫脹	扁桃炎	○	Ⅰ	
	結核	○	Ⅰ	
	悪性腫瘍全般	○	Ⅰ	
尿量・排尿の異常	心因性多飲症		Ⅰ	
	前立腺肥大症	○	Ⅰ	◎
	中枢性尿崩症		Ⅰ	◎
	糖尿病	○	Ⅰ	◎
	膀胱炎（尿路感染症）	○	Ⅰ	◎
	過活動膀胱	○	Ⅱ	
	神経因性膀胱	○	Ⅰ	◎
	薬剤性	○		×
血尿	糸球体腎炎症候群	○	Ⅰ	◎
	急性腎盂腎炎	○	Ⅰ	◎
	腎細胞癌	○	Ⅰ	◎
	尿管結石	○	Ⅰ	◎
	膀胱炎（尿路感染症）	○	Ⅰ	◎
	膀胱癌	○	Ⅰ	◎
月経異常	月経困難症	○	Ⅰ	◎
	子宮体癌	○	Ⅰ	◎
	子宮内膜症	○	Ⅰ	◎
	神経性食思<欲>不振症		Ⅰ	◎
	妊娠	○	Ⅰ	◎
	閉経		Ⅰ	◎
	薬剤性	○		
	更年期障害	○	Ⅰ	
不安・抑うつ	うつ病	○	Ⅰ	◎
	Parkinson病	○	Ⅰ	◎
	悪性腫瘍全般	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能亢進症	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	更年期障害		Ⅰ	◎
	双極性障害	○	Ⅰ	◎
	認知症	○	Ⅰ	◎
	不安障害	○	Ⅰ	◎
	適応障害	○	Ⅰ	◎
	薬剤性	○		×
ものの忘れ（認知機能障害）	血管性認知症	○	Ⅰ	◎
	Alzheimer型認知症	○	Ⅰ	◎
	Lewy小体型認知症	○	Ⅰ	◎
	Parkinson病	○	Ⅰ	◎
	うつ病	○	Ⅰ	◎
	甲状腺機能低下症	○	Ⅰ	◎
	正常圧水頭症	○	Ⅰ	◎
	慢性硬膜下血腫	○	Ⅰ	◎
	薬剤性	○		
頭痛	急性副鼻腔炎	○	Ⅰ	◎
	緊張型頭痛	○	Ⅰ	◎
	くも膜下出血	○	Ⅰ	◎
	群発頭痛	○	Ⅰ	◎
	髄膜炎（髄膜脳炎）	○	Ⅰ	◎
	脳出血	○	Ⅰ	◎
	脳腫瘍		Ⅰ	◎
	片頭痛	○	Ⅰ	◎
	緑内障	○	Ⅰ	◎
	巨細胞性動脈炎（側頭動脈炎）	○	Ⅰ	

頭痛	薬剤性	○		
運動麻痺・筋力低下	Guillain-Barré症候群	○	Ⅰ	◎
	筋萎縮性側索硬化症<ALS>	○	Ⅰ	◎
	周期性四肢麻痺	○	Ⅰ	◎
	重症筋無力症		Ⅰ	◎
	頭蓋内血腫	○	Ⅰ	◎
	脊髄損傷	○	Ⅰ	◎
	脊柱管狭窄症		Ⅰ	◎
	多発性筋炎・皮膚筋炎	○	Ⅰ	◎
	椎間板ヘルニア	○	Ⅰ	◎
	脳梗塞	○	Ⅰ	◎
	脳出血	○	Ⅰ	◎
	一過性脳虚血発作	○	Ⅰ	
	てんかん	○		
腰背部痛	化膿性脊椎炎	○	Ⅰ	◎
	急性膀胱炎	○	Ⅰ	◎
	急性大動脈解離	○	Ⅰ	◎
	急性腰椎症	○	Ⅱ	◎
	十二指腸潰瘍		Ⅰ	◎
	膀胱癌	○	Ⅰ	◎
	脊柱管狭窄症	○	Ⅰ	◎
	脊椎圧迫骨折	○	Ⅰ	◎
	椎間板ヘルニア	○	Ⅰ	◎
	尿管結石	○	Ⅰ	◎
	変形性脊椎症	○	Ⅰ	◎
関節痛・関節腫脹	Behçet病		Ⅰ	◎
	化膿性関節炎	○	Ⅰ	◎
	関節リウマチ	○	Ⅰ	◎
	偽痛風	○	Ⅰ	◎
	全身性エリテマトーデス<SLE>	○	Ⅰ	◎
	痛風	○	Ⅰ	◎
	反応性関節炎	○	Ⅰ	◎
	変形性関節症	○	Ⅰ	◎
	外傷	○		
歩行障害 (R4に追加)	脳出血	○	Ⅰ	
	頭蓋内血腫	○	Ⅰ	
	脳梗塞	○	Ⅰ	
	Parkinson病	○	Ⅰ	
	変形性脊椎炎	○	Ⅱ	
	脊柱管狭窄症	○	Ⅰ	
	椎間板ヘルニア	○	Ⅰ	
	変形性関節症	○	Ⅰ	
感覚障害 (R4に追加)	脊柱管狭窄症	○	Ⅰ	
	椎間板ヘルニア	○	Ⅰ	
	多発性神経炎（ニューロパチー）	○	Ⅰ	
	糖尿病	○	Ⅰ	

※R4コアカリの欄の○は、コアカリR4改訂版の別表5『主要症候』にリストアップされている疾患のみに付けている

※※空欄は未定

3. CBT 出題基準作成 WG 委員一覧

顧問：齋藤宣彦（医療系大学間共用試験実施評価機構 副理事長）

委員長：高木 康 昭和医科大学 名誉教授

副委員長：橋本尚詞 東京慈恵会医科大学研究推進課 特別 URA

櫻井裕之 杏林大学医学部薬理学教室 教授

仁田善雄 医療系大学間共用試験実施評価機構研究部 学術顧問

コア委員：プロフェッショナルリズム

小林直人 愛媛大学医学部附属総合医学教育センター 教授・センター長

基礎医学

櫻井裕之 杏林大学医学部薬理学教室 教授

橋本尚詞 東京慈恵会医科大学研究推進課 特別 URA

社会医学

稲垣弘文 （日本医科大学）衛生学公衆衛生学

（日本医科大学大学院研究科研究生）

臨床医学

稲森正彦 横浜市立大学学術院医学群医学部医学教育学 教授

廣井直樹 島根大学付属病院 病院医学教育センター 教授

新村文男 東海大学医学部付属八王子病院小児科 臨床教授

佐藤全伯 防衛医科大学校医学教育研修センター教育評価部門 准教授

藤倉輝道 日本医科大学医学教育センター 教授

真田建史 昭和医科大学附属烏山病院精神神経科 教授

青木茂樹 順天堂大学順天堂医院放射線科、

大学院医学研究科放射線医学 教授

順天堂大学健康データサイエンス学部 学部長（併任）

委員：青木昭子 東京医科大学/新生病院 大久保由美子 帝京大学

青木茂樹 順天堂大学

大崎敬子 杏林大学

青柳陽一郎 日本医科大学

恩田秀寿 昭和医科大学

秋澤叔香 東京女子医科大学

金子英司 東京科学大学

朝比奈真由美 東邦大学

鯉淵典之 太田医療技術専門学校

阿部百合子 日本大学

小林直人 愛媛大学

石毛美夏 日本大学

駒澤伸泰 香川大学

伊藤寿啓 東京慈恵会医科大学

堺田恵美子 千葉大学

伊藤智範 岩手医科大学

櫻井裕之 杏林大学

稲垣弘文 （日本医科大学）

佐藤全伯 防衛医科大学校

稲森正彦 横浜市立大学

真田建史 昭和医科大学

白元洋介 九州大学

鈴木勉 順天堂大学

遠藤史郎 東北医科薬科大学

高橋誠 北海道大学

谷本貴志	和歌山県立医科大学	堀田晶子	帝京大学
田村 淳	帝京大学	堀 輝	福岡大学
長岡 仁	岐阜大学	松村譲児	杏林大学
長嶋洋治	東京女子医科大学	松山高明	昭和医科大学
新村文男	東海大学	萬代研二	北里大学
仁田善雄	医療系大学間共用試験 実施評価機構	森 壱	自治医科大学
野田泰子	自治医科大学	山崎悦子	横浜労災病院
橋本尚詞	東京慈恵会医科大学	屋良さとみ	琉球大学
橋本由起	東邦大学	横田伸一	札幌医科大学
平野勝也	香川大学	吉田素文	熊本大学
廣井直樹	島根大学	吉見竜介	横浜市立大学
藤倉輝道	日本医科大学	米田正人	横浜市立大学

4. 『CBT 出題基準』検討委員会の開催日時

A. WG 全体会議

- ① 令和7年5月14日（水）開催
- ② 令和7年6月20日（金）開催
- ③ 令和7年8月15日（金）開催

B. WG コア委員会

- ① 令和6年7月23日（火）開催
- ② 令和6年9月30日（月）開催
- ③ 令和6年12月24日（火）開催
- ④ 令和7年3月10日（月）開催
- ⑤ 令和7年4月16日（水）開催
- ⑥ 令和7年6月3日（火）開催
- ⑦ 令和7年7月11日（金）開催
- ⑧ 令和7年9月30日（火）開催
- ⑨ 令和7年10月29日（水）開催

5. 索引

1	
1 型糖尿病	D-12-4)-(5)-②
2	
2 型糖尿病	D-12-4)-(5)-③
A	
ADHD	D-15-3)-(⑩、E-7-3)-(⑩
Alzheimer型認知症	D-2-4)-(2)-②
ASD	D-15-3)-(⑪、E-7-3)-(⑩
A 型肝炎ウイルス	C-3-1)-(2)-②
B	
Basedow病	D-12-4)-(2)-①
Behçet病	E-4-3)-(5)-③
Bowen病	D-3-4)-(8)-③
Budd-Chiari症候群	D-5-4)-(8)-④
B型肝炎	E-2-4)-(4)-①
B型肝炎ウイルス	C-3-1)-(2)-①
C	
CCK	D-7-1)-(⑫
<i>Chlamydia pneumoniae</i>	E-2-4)-(2)-⑪
<i>Clostridioides difficile</i>	C-3-1)-(3)-⑥、E-2-4)-(2)-⑦
Cushing 症候群	D-12-4)-(4)-①
Cushing病	D-12-4)-(1)-①
C型肝炎ウイルス	C-3-1)-(2)-②
D	
Darier徴候	D-3-2)-①
DNA	B-2-1)-(4、C-1-1)-(2)-④、C-1-1)-(2)-⑤、C-3-1)-(1)-②
DNAウイルス	C-3-1)-(1)-③、C-3-1)-(2)-①
DNA配列	C-1-1)-(2)-⑥
Down症候群	E-7-1)-②
E	
EBM	B-1-3)-①
Epstein-Barr<EB>ウイルス	C-3-1)-(2)-①
Ewing肉腫	E-3-6)-(3)-①
E型肝炎ウイルス	C-3-1)-(2)-②
F	
Fallot四徴症	D-5-4)-(6)-②、E-7-1)-②
Fanconi症候群	D-8-4)-(4)-②
G	
GABA	D-2-1)-(1)-④
GAVI アライアンス	B-1-9)-②
GLP-1	D-7-1)-(⑫
Guillain-Barré症候群	D-2-4)-(5)-②
H	
Hirschsprung病	D-7-4)-(3)-⑨
HIV	B-1-9)-②、C-3-1)-(2)-③、E-2-4)-(1)-⑥、E-2-4)-(4)-①
HSV	C-3-1)-(2)-①
I	
ICD	B-1-4)-①
IgA血管炎	D-1-4)-(2)-⑨、D-3-4)-(3)-②、D-8-4)-(6)-④
IgA腎症	D-8-4)-(2)-②-2
IgG4 関連疾患	E-4-3)-(4)-⑤
K	
Kaposi肉腫	E-3-6)-(2)-③
L	
Langerhans細胞組織球症	D-6-4)-(7)-⑧
Lewy小体型認知症	D-2-4)-(2)-③
LGBTQ	B-4-1)-①
M	
Mendelの法則	C-1-1)-(2)-①
Ménière病	D-14-4)-(1)-③
Mg	D-8-3)-(1)-④
<i>Moraxella catarrhalis</i>	C-3-1)-(3)-⑦
mRNAワクチン	C-3-1)-(6)-③
MRSA	E-2-1)-④

<i>Mycoplasma genitalium</i>	C-3-1)-(3)-⑪
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	C-3-1)-(3)-⑪
N	
NCDs	B-1-6)-(⑥、B-1-9)-①
Nikolsky現象	D-3-2)-①
non-reassuring fetal status <NRFS>	E-7-1)-⑤
O	
<i>Orientia tsutsugamushi</i>	C-3-1)-(3)-⑪
P	
Parkinson病	D-2-4)-(2)-⑤
PICO	B-1-3)-②
<i>Pseudomonas</i> 属類縁細菌	C-3-1)-(3)-⑦
Q	
Q熱コクシエラ	C-3-1)-(3)-⑦
R	
Raynaud症候群	D-5-4)-(7)-⑦
RNAウイルス	C-3-1)-(1)-③、C-3-1)-(2)-②
RSウイルス	C-3-1)-(2)-②
S	
SDGs	B-1-9)-①
Sezary症候群	E-3-6)-(2)-②
SFTSウイルス	C-3-1)-(2)-②
Sjögren症候群	E-4-3)-(4)-④
Stevens-Johnson症候群	D-3-4)-(4)-①
sudden infant death syndrome <SIDS>	E-7-2)-③
T	
Th1 cell	C-3-2)-(3)-③
Th17 cell	C-3-2)-(3)-③
Th2 cell	C-3-2)-(3)-③
TLR	C-3-2)-(1)-④
toxoplasmosis, other agents, rubella, cytomegalovirus, herpes simplex <TORCH>症候群	D-10-4)-⑤
Turner症候群	E-7-1)-②
Tzanck試験	D-3-2)-①
T細胞活性化	C-3-2)-(2)-①
T細胞抗原レセプター	C-3-2)-(2)-②、C-3-2)-(2)-③
t分布	B-1-1)-②
U	
UHC	B-1-9)-①
V	
varicella-zoster<VZ>ウイルス	C-3-1)-(2)-①
von Willebrand病	D-1-4)-(2)-⑦、D-1-4)-(2)-⑧
W	
Wilson病	D-12-4)-(9)-③
Wolff-Parkinson-White<WPW>症候群	D-5-4)-(3)-④
あ	
愛着形成	E-7-3)-③
悪性黒色腫	E-3-6)-(2)-⑥
悪性リンパ腫	D-1-4)-(4)-⑧、E-3-6)-(2)-②
アクチンフィラメント	C-2-1)-(2)-①
アシドーシス	D-8-3)-(2)-①
アシネトバクター属細菌	C-3-1)-(3)-⑦
アスペルギルス	E-2-4)-(3)-②
アスペルギルス属真菌	C-3-1)-(3)-⑩
アセチルコリン	D-2-1)-(1)-④
アテトーシス	D-2-3)-(1)-③
アデノウイルス	C-3-1)-(2)-①
アドバンス・ケア・プランニング	E-9-1)-⑦
アトピー咳嗽	D-6-4)-(7)-⑦
アナフィラキシー	C-4-4)-②、E-4-3)-(6)-②、F-2-8)-③
アポトーシス	C-4-2)-①
アミノ酸	C-1-2)-(1)-③、C-2-5)-⑪
アミノ酸代謝異常	C-4-3)-②
アミロイド腎症	D-8-4)-(6)-③

アルカローシス	D-8-3)-(2)-①
アルコール	D-7-4)-(6)-①、D-7-4)-(6)-②、D-15-3)-(③、E-5-3)-(1)-⑥
アルコール依存症	B-1-5)-(⑧
アルコール関連肝疾患	D-7-4)-(5)-⑥
アルドステロン	D-8-1)-(⑦
アレルギー	B-1-8)-(⑨、C-3-2)-(4)-③、D-3-2)-(②
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症	D-6-4)-(3)-⑩
アレルギー性疾患	E-4-3)-(1)-①
アレルギー性鼻炎	D-14-4)-(1)-⑦
アンジオテンシンⅡ	D-8-1)-(⑦
アンチトロンビン	D-1-4)-(5)-①
安楽死	E-9-1)-(⑦
い	
胃	D-7-1)-(③、D-7-4)-(2)-①
胃液	D-7-1)-(⑦
イオン組成	C-2-1)-(1)-①
イオンチャネル	C-2-1)-(1)-②
胃癌	E-3-6)-(6)-②
育児	B-1-6)-(⑨、D-10-3)-(⑥、F-2-16)-(⑤
移行	E-7-4)-(④
医師	A-1-1)-(②、A-1-3)-(③、A-5-1)-(③、A-7-1)-(⑤、B-1-7)-(⑨、B-1-8)-(⑩、B-1-8)-(⑩、D-15-1)-(①、F-2-14)-(②
意思決定	C-5-7)-(②、F-2-1)-(⑦
医師の働き方改革	B-1-8)-(⑩
医師の偏在	A-7-1)-(①、B-1-7)-(②
医師法	A-1-3)-(⑤、A-6-2)-(③、B-1-8)-(⑫、B-1-8)-(⑬
異状死	B-1-8)-(⑬、B-2-1)-(②
移植後の拒絶反応	F-2-13)-(⑧
胃食道逆流症	D-7-4)-(1)-②
移植片対宿主病	D-1-4)-(6)-④、F-2-13)-(⑧
異所性尿管開口	D-8-4)-(7)-⑥
異所性妊娠	D-10-4)-(①
胃切除後症候群	D-7-4)-(2)-⑥
依存症	D-15-3)-(③
位置関係	C-2-2)-(2)-①、D-7-1)-(②
一次予防	B-1-4)-(⑦
胃腸炎	D-7-4)-(2)-⑤
一過性多呼吸	E-7-1)-(⑨
一過性脳虚血発作	D-2-4)-(1)-④
一酸化炭素中毒	E-5-3)-(1)-②
遺伝カウンセリング	E-1-1)-(⑤
遺伝型	C-1-1)-(2)-②
遺伝子	C-1-1)-(2)-③、E-3-1)-(④、E-6-1)-(⑥、E-6-2)-(③
遺伝子組み換え実験	B-3-1)-(③
遺伝子検査	E-2-2)-(④
遺伝子再構成	C-3-2)-(2)-③
遺伝性出血性末梢血管拡張症	D-1-4)-(2)-⑩
遺伝要因	C-4-1)-(⑤
遺伝様式	C-4-1)-(②
異物	D-6-4)-(7)-⑭、D-14-4)-(1)-⑪
胃ポリープ	D-7-4)-(2)-③
医療・介護関連肺炎	D-6-4)-(2)-⑩
医療関連感染症	A-6-1)-(⑦、E-2-1)-(④、E-2-1)-(⑤
医療機器	B-3-1)-(⑥、F-2-12)-(①
医療計画	A-7-1)-(②、B-1-7)-(④
医療事故調査センター	E-9-1)-(⑥
医療施設	B-1-7)-(⑤
医療職	A-5-1)-(②、B-1-8)-(⑩、B-1-8)-(⑪
医療の質	B-1-8)-(⑨
医療法	B-1-7)-(④、B-1-7)-(⑤、B-1-8)-(⑪、B-1-8)-(⑫
陰茎	D-9-1)-(⑤
陰茎癌	E-3-6)-(7)-⑤
インシデント	A-6-2)-(①、A-6-2)-(②、B-1-8)-(⑩
飲酒	B-1-5)-(⑧
インターベンショナルラジオロジー	E-6-2)-(①、E-6-2)-(②、F-2-5)-(②

咽頭	D-14-1)-(4)、D-14-4)-(1)-(11)、E-3-6)-(11)-(1)
咽頭炎	D-6-4)-(2)-(12)
咽頭弓（鯔弓）	C-2-4)-(9)
咽頭痛	D-14-3)-(1)-(2)
咽頭嚢（鯔嚢）	C-2-4)-(9)
インフォームド・コンセント	B-1-8)-(11)、D-15-1)-(3)、F-2-9)-(2)-(4)
インプリンティング	C-1-1)-(2)-(1)
インフルエンザ	B-1-8)-(18)、D-6-4)-(2)-(18)
インフルエンザウイルス	E-2-1)-(3)
インフルエンザ菌	C-3-1)-(3)-(7)
う	
ウイルス	C-3-1)-(1)-(1)、C-3-1)-(1)-(2)、C-3-1)-(1)-(7)、C-3-1)-(2)-(4)、C-3-1)-(6)-(3)、C-3-2)-(4)-(1)、E-5-3)-(1)-(1)
ウイルス学検査	F-2-3)-(18)
ウイルス感染	C-3-1)-(1)-(5)
ウイルス感染症	D-3-4)-(7)-(5)、E-2-2)-(6)
ウイルス受容体	C-3-1)-(1)-(6)
ウェストナイルウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
ウェルシュ菌	C-3-1)-(3)-(6)
う蝕	D-14-4)-(1)-(9)
右心不全	D-5-4)-(1)-(2)
うつ	D-15-2)-(1)-(1)、E-8-1)-(5)
うっ血	C-4-4)-(1)
うっ血乳頭	D-13-4)-(1)-(10)
うつ病	D-15-1)-(4)、D-15-3)-(5)、D-15-3)-(6)
運動	B-1-5)-(4)、C-2-3)-(3)-(5)、D-4-1)-(4)、D-5-1)-(15)
運動器	D-4-4)-(1)-(14)、D-4-4)-(1)-(15)
運動機能	B-1-6)-(12)
運動失調障害	D-2-3)-(1)-(1)
運動障害	D-13-3)-(1)-(1)、D-15-3)-(12)
運動負荷心電図	D-5-2)-(3)
運動野	D-2-1)-(4)-(2)
運動療法	D-12-4)-(5)-(13)
え	
栄養	D-2-4)-(5)-(1)、D-12-2)-(4)、E-7-3)-(3)、E-7-3)-(4)、E-8-1)-(3)
栄養サポートチーム	F-2-11)-(1)
栄養素	C-2-5)-(16)、D-12-1)-(9)
栄養マネジメント	E-8-1)-(8)
栄養療法	F-2-11)-(1)
疫学研究	B-1-3)-(3)、B-1-4)-(5)
疫学指標	B-1-4)-(5)
液性免疫	C-3-1)-(6)-(1)、C-3-2)-(1)-(8)
液性免疫誘導	C-3-1)-(6)-(2)
エコーウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
壊死性筋膜炎	D-3-4)-(7)-(1)
エストロゲン	D-9-2)-(2)-(1)
エックス線撮影	D-4-2)-(2)、E-6-2)-(1)、F-2-5)-(1)
エックス線透視	E-6-2)-(1)
エネルギー消費量	C-2-5)-(16)
エネルギー摂取	D-12-2)-(5)
エネルギー代謝	C-2-5)-(16)、D-2-1)-(1)-(3)
エネルギー値	C-2-5)-(16)
エピゲノム修飾	C-1-1)-(2)-(1)
エピジェネティクス制御	C-4-1)-(4)
エリスロポエチン	D-1-1)-(3)、D-8-1)-(7)
嚥下	D-14-1)-(9)、E-8-1)-(3)、E-8-1)-(7)
炎症	C-3-2)-(1)-(3)、C-4-5)-(1)、C-4-5)-(2)、D-14-4)-(1)-(12)
炎症性疾患	D-14-4)-(1)-(8)
炎症性腸疾患	D-7-4)-(3)-(3)
エンテロウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
エンド・オブ・ライフ・ケア	E-8-1)-(12)、F-2-16)-(6)
エンベロープ	C-3-1)-(1)-(1)
エンベロープウイルス	C-3-1)-(1)-(4)
延命治療	E-9-1)-(7)

お	
横隔神経麻痺	D-6-4)-(8)-⑦
横隔膜弛緩症	D-6-4)-(8)-⑨
横隔膜ヘルニア	D-6-4)-(8)-⑧
黄色ブドウ球菌	E-2-4)-(2)-①
黄体形成ホルモン	D-9-2)-(2)-①
オッズ比	B-1-4)-⑤
オピオイド鎮痛薬	F-2-8)-⑦、F-2-16)-③
オペラント条件付け	C-5-2)-①
温度覚	D-2-1)-(6)-①
か	
カーバメート	E-5-3)-(1)-③
外陰	D-9-4)-(2)-⑥
外因死	E-9-1)-③、E-9-1)-⑤
回帰熱ポレリア	C-3-1)-(3)-⑪
回帰分析	B-1-2)-⑥
介護	A-5-1)-③、A-7-1)-③、B-1-6)-⑦、B-1-6)-⑨、B-1-7)-⑥、E-8-1)-⑪、F-2-15)-⑤、F-2-15)-⑥、F-2-16)-⑤
開口障害	D-14-3)-(1)-②
介護保険	B-1-8)-①、B-1-8)-④、F-2-15)-⑦
外耳	D-14-1)-①、D-14-4)-(1)-⑪
カイニ乗検定	B-1-2)-③
カイニ乗分布	B-1-1)-②
回旋異常	D-10-4)-②
解糖	C-2-5)-②
介入研究	B-1-3)-③
外分泌腺	C-2-2)-(1)-②
解離性障害群	D-15-3)-⑨
ガウンテクニック	F-2-9)-(1)-③
化学薬品肺障害	D-6-4)-(7)-⑨
過活動膀胱	D-8-4)-(8)-⑫
かかりつけ医	B-1-7)-①、B-1-7)-⑦
過換気症候群	D-6-4)-(6)-①
核	C-1-1)-(1)-③、D-2-1)-(3)-②
核医学	E-6-2)-①
核医学検査	D-6-2)-①、F-2-5)-①
角化	D-3-1)-②
角化症	D-3-4)-(8)-③、D-3-4)-(8)-④、E-3-6)-(2)-①
核酸	C-4-3)-④
拡散障害	D-6-1)-⑦
学習	C-5-1)-①、D-2-1)-(4)-③
学習行動	C-5-2)-①
覚醒剤	E-5-3)-(1)-⑥、E-5-3)-(1)-⑦
喀痰検査	D-6-2)-③
確定診断	F-2-3)-⑦
学童期	E-7-4)-②
獲得免疫	C-3-2)-(1)-②
角膜反射	D-13-1)-④
下肢静脈瘤	D-5-4)-(8)-③
過食	C-2-3)-(3)-④
下垂体ホルモン	D-12-1)-④
ガス壊疽	D-3-4)-(7)-①
ガス壊疽菌群	C-3-1)-(3)-⑥
ガストリン	D-7-1)-⑫
苛性カリ<KOH>直接検鏡法	D-3-2)-③
かぜ症候群	D-6-4)-(2)-①
仮説検定	B-1-1)-④
画像検査	D-2-2)-①、D-6-2)-①、D-7-2)-③、E-6-2)-①、F-2-5)-①
画像診断	D-8-2)-①、D-9-2)-(2)-②
家族	A-1-2)-①、C-5-7)-②、E-1-1)-⑧、F-2-16)-⑥
家族ライフサイクル	C-5-4)-④、E-7-3)-⑧
肩こり	D-4-4)-(1)-⑭
学校医	B-1-6)-⑪
学校保健	A-7-1)-③、B-1-6)-⑪
褐色細胞腫	D-12-4)-(4)-④

活性酸素	C-2-5)-(⑭)
葛藤	C-5-2)-(①)
活動制限	B-1-6)-(②)
活動電位	C-2-3)-(2)-①
滑面小胞体	C-1-1)-(1)-④
カテーテルアブレーション	D-5-4)-(3)-⑤
化膿性関節炎	D-4-4)-(2)-①
化膿性脊椎炎	D-4-4)-(2)-②
過敏性腸症候群	D-7-4)-(3)-⑤
過敏性肺炎	D-6-4)-(5)-①
カプシド	C-3-1)-(1)-②
花粉症	D-14-4)-(1)-⑦
カボジ肉腫	D-3-4)-(7)-⑥
硝子圧法	D-3-2)-①
カリウム	D-8-3)-(1)-②
カルシウム	D-8-3)-(1)-③
カルシウム代謝	D-12-4)-(3)-①
加齢	C-5-5)-(②、E-8-1)-(⑨)
加齢黄斑変性	D-13-4)-(1)-⑤
川崎病	D-5-4)-(2)-⑦、E-4-3)-(5)-④
肝	D-7-1)-⑥
眼圧	D-13-2)-①
肝炎	D-7-4)-(5)-①、D-7-4)-(5)-②
肝炎ウイルス	D-7-2)-①
感覚受容	C-2-3)-(2)-④
感覚障害	D-2-3)-(④、D-4-3)-②
感覚野	D-2-1)-(4)-②
肝癌	D-7-4)-(5)-⑤、E-3-6)-(6)-⑤
眼球	D-13-1)-①
眼球運動	D-13-1)-(③、D-13-3)-(1)-①、D-14-1)-⑥
環境調整	C-5-7)-(④
環境要因	B-1-6)-(④、C-4-1)-⑤
眼瞼	D-13-3)-(1)-①
肝硬変	D-7-4)-(5)-④、D-7-4)-(5)-⑤、D-7-4)-(5)-⑨
看護師	A-5-1)-②
観察研究	B-1-3)-③
観察法	C-1-1)-(1)-①、D-15-1)-③
眼脂	D-13-3)-(1)-①
カンジダ	E-2-4)-(3)-①
カンジダ症	D-3-4)-(7)-②
カンジダ属真菌	C-3-1)-(3)-⑩
間質性腎炎	D-8-4)-(5)-③、D-8-4)-(5)-④
患者支援	C-5-7)-⑤
患者満足度	B-1-8)-⑨
慣習	C-5-6)-⑪
肝腫大	D-7-3)-(1)-①
癌性胸膜炎	E-3-6)-(5)-⑦
肝性脳症	D-7-4)-(5)-⑤
癌性リンパ管症	E-3-6)-(5)-⑧
関節	D-4-1)-①、D-4-4)-(1)-②
関節運動	D-4-1)-⑧
関節液検査	D-4-2)-③
関節炎	D-4-4)-(1)-⑥、E-4-3)-(1)-②
関節リウマチ	E-4-3)-(2)-①、E-4-3)-(2)-②
乾癬	D-3-4)-(6)-①
感染経路	C-3-1)-(3)-②、C-3-1)-(3)-④、C-3-1)-(3)-⑤、C-3-1)-(3)-⑥、C-3-1)-(3)-⑦、C-3-1)-(3)-⑨、C-3-1)-(3)-⑩、C-3-1)-(4)-②、C-3-1)-(5)-①、C-3-1)-(5)-②、E-2-4)-(5)-②、E-2-4)-(5)-③
感染宿主	C-3-1)-(4)-③
感染症	B-1-6)-⑪、B-1-9)-①、D-6-4)-(2)-⑯、D-9-4)-(2)-⑥、E-2-1)-⑥、E-2-2)-①、E-2-2)-②、E-2-2)-③、E-2-2)-④、E-2-4)-(1)-⑥、E-2-4)-(2)-①、E-2-4)-(2)-②、E-2-4)-(2)-③、E-2-4)-(2)-④、E-2-4)-(2)-⑤、E-2-4)-(2)-⑥、E-2-4)-(2)-⑦、E-2-4)-(2)-⑩、E-2-4)-(2)-⑪、E-2-4)-(2)-⑫、E-2-4)-(2)-⑬、E-2-4)-(3)-①、E-2-4)-(3)-②、E-2-4)-(4)-①、E-7-3)-⑤、F-2-3)-③
感染症法	B-1-8)-⑯

感染性心内膜炎	D-5-4)-(5)-⑤
感染性腸炎	D-7-4)-(3)-⑫
感染臓器	C-3-1)-(4)-④
感染予防	C-3-1)-(6)-②
眼痛	D-13-3)-(1)-①
眼底	D-13-2)-①
冠動脈コンピュータ断層撮影<CT>	D-5-2)-⑤
冠動脈造影	D-5-2)-⑥
肝膿瘍	D-7-4)-(5)-⑧
カンビロバクター属細菌	C-3-1)-(3)-⑧
間膜	C-2-4)-⑥
顔面	C-2-4)-⑨
がん免疫	C-3-2)-(4)-④
顔面神経	D-14-1)-②
顔面神経麻痺	D-2-4)-(5)-③、D-14-3)-(1)-④
寛容	C-3-2)-(1)-⑥
冠攣縮性狭心症	D-5-4)-(2)-②
緩和ケア	F-2-16)-①
き	
気圧による障害	E-5-3)-(2)-④
記憶	C-3-2)-(1)-⑥、C-5-1)-①、D-2-1)-(4)-③
飢餓	C-2-3)-(3)-④
気管・気管支腫瘍	E-3-6)-(5)-⑥
気管・気管支損傷	D-6-4)-(9)-②
気管支炎	D-6-4)-(2)-③
気管支拡張症	D-6-4)-(7)-①
気管支喘息	D-6-2)-⑧、D-6-2)-⑨、D-6-4)-(3)-②
気管支内視鏡検査	D-6-2)-②
気管食道瘻	D-6-4)-(7)-⑯
気管切開	D-14-4)-(1)-⑩
気胸	C-4-4)-②、D-6-4)-(8)-②
奇形腫	E-3-6)-(9)-②
義肢	F-2-14)-⑦
気腫性嚢胞	D-6-4)-(3)-⑨
寄生虫	C-3-1)-(4)-②、C-3-1)-(4)-③、C-3-1)-(4)-④、C-3-2)-(4)-①、E-5-3)-(1)-①
寄生虫症	C-3-1)-(4)-⑤
季節性インフルエンザ	E-2-4)-(1)-①
基礎体温	D-9-2)-(2)-③
喫煙	B-1-5)-⑦
拮抗薬	C-3-3)-(1)-②
基底細胞癌	E-3-6)-(2)-④
気道	D-6-1)-①、D-6-1)-⑩、D-6-4)-(7)-⑭、D-14-4)-(1)-⑩、E-5-3)-(3)-①
気道確保法	F-2-10)-⑤
気道狭窄	D-14-3)-(1)-②
機能障害	B-1-6)-②、F-2-14)-⑤
機能的ディスベプシア	D-7-4)-(2)-⑦
基本的検査	F-2-3)-⑦
帰無仮説	B-1-1)-④
虐待	B-1-7)-⑥、E-7-3)-⑧
嗅覚	D-2-1)-(6)-②、D-14-1)-⑦
嗅覚検査	D-14-2)-②
救急医療	A-7-1)-④、B-1-7)-⑧
救急救命士法	B-1-8)-⑰
吸収	C-2-1)-(1)-③、C-3-3)-(2)-①、D-7-1)-⑩
急性胃粘膜病変	D-7-4)-(2)-④
急性肝不全	D-7-4)-(5)-③
急性上気道感染症	D-6-4)-(2)-①
急性心筋炎	D-5-4)-(5)-④
急性心筋梗塞	D-5-4)-(2)-③
急性心膜炎	D-5-4)-(5)-⑥
急性膀胱炎	D-7-4)-(6)-①
急性大動脈解離	D-5-4)-(7)-②
急性動脈閉塞症	D-5-4)-(7)-⑥
急性白血病	D-1-4)-(4)-①
急速進行性糸球体腎炎症候群	D-8-4)-(2)-④

吸着	C-3-1)-(1)-(4)、C-3-1)-(1)-(6)
吸虫類	C-3-1)-(4)-(1)
吸入麻酔	F-2-10)-(4)
胸郭出口症候群	D-4-4)-(1)-(8)
胸郭変形	D-6-4)-(8)-(10)
競技スポーツ	B-1-6)-(12)
凝固・線溶検査	F-2-3)-(9)
胸水検査	D-6-2)-(4)
胸部単純エックス線撮影	D-5-2)-(1)、D-6-2)-(1)
胸膜炎	D-6-4)-(8)-(1)
胸膜生検	D-6-2)-(10)
胸膜中皮腫	E-3-6)-(5)-(4)
寄与危険	B-1-4)-(5)
局所麻酔	F-2-10)-(1)
虚血性大腸炎	D-7-4)-(3)-(13)
起立性低血圧	D-2-3)-(2)、D-5-4)-(10)-(1)
筋	C-2-4)-(4)、D-2-1)-(2)-(2)、D-4-1)-(1)、D-4-1)-(7)、D-4-2)-(1)、D-13-1)-(3)
筋萎縮性側索硬化症	D-2-4)-(2)-(6)
禁煙支援	B-1-5)-(7)
筋骨格系画像診断	D-4-2)-(2)
筋弛緩薬	F-2-10)-(3)
菌状息肉症	E-3-6)-(2)-(2)
筋組織	C-2-2)-(1)-(5)
＜	
空気感染予防策	E-2-4)-(5)-(2)
空腹	C-2-3)-(3)-(4)
クエン酸回路	C-2-5)-(3)
屈折	D-13-4)-(1)-(1)
くも膜下出血	D-2-4)-(1)-(2)
クラミジア	C-3-1)-(3)-(11)、E-2-4)-(4)-(1)
グラム陰性桿菌	C-3-1)-(3)-(7)
グラム陰性球菌	C-3-1)-(3)-(5)
グラム陽性桿菌	C-3-1)-(3)-(6)
グラム陽性球菌	C-3-1)-(3)-(4)
グリコーゲン	C-2-5)-(6)
グリシン	D-2-1)-(1)-(4)
クリニカルパス	B-1-8)-(9)
クリプトコックス	E-2-4)-(3)-(2)
クリプトコックス属真菌	C-3-1)-(3)-(10)
クループ症候群	D-6-4)-(2)-(10)
グルタミン酸	D-2-1)-(1)-(4)
くる病	D-12-4)-(8)-(2)
車椅子	F-2-14)-(7)
グレリン	D-7-1)-(12)
け	
経管・経腸栄養	F-2-11)-(2)、F-2-11)-(3)
経口感染	C-3-1)-(4)-(2)
経時の変化	C-4-5)-(2)
経静脈栄養	F-2-11)-(2)
形態の変化	C-4-2)-(2)、D-10-3)-(2)
経胎盤感染	C-3-1)-(4)-(2)
傾聴	C-5-6)-(6)
頸椎後縦靱帯骨化症	D-4-4)-(1)-(9)
頸椎症性脊髄症	D-4-4)-(1)-(9)
頸椎症性神経根症	D-4-4)-(1)-(9)
珪肺	D-6-4)-(3)-(7)
経皮感染	C-3-1)-(4)-(2)
経皮的酸素飽和度	F-2-3)-(19)
頸部腫脹	D-14-3)-(1)-(5)
頸部痛	D-4-3)-(3)、D-4-4)-(1)-(14)
頸部リンパ節腫脹	E-2-3)-(3)
けいれん	D-2-3)-(1)
外科的治療	F-2-9)-(1)-(6)
血圧調節	D-5-1)-(14)
血液	D-6-1)-(9)、F-2-8)-(4)

血液型（ABOとRhD）検査	F-2-13)-③
血液型不適合妊娠	D-10-4)-⑤
血液交差適合（クロスマッチ）試験	F-2-13)-③
血液製剤	F-2-13)-②
血液透析	D-8-4)-(1)-⑥
血液脳関門	D-2-1)-(1)-②
結核	A-6-3)-①、D-3-4)-(7)-③、D-6-4)-(2)-⑧
結核菌	C-3-1)-(3)-⑨
血管炎関連性間質性肺炎	D-6-4)-(3)-④
血管炎症候群	D-8-4)-(6)-④
血管作動性物質	D-8-1)-⑦
血管造影	E-6-2)-①、E-6-2)-②
血管肉腫	E-3-6)-(2)-③
血球貪食症候群	D-1-4)-(6)-③
血胸	D-6-4)-(8)-④
月経異常	D-9-3)-(4)-①、D-12-3)-④
血行動態	D-5-1)-⑪
結合様式	C-1-1)-(1)-⑧
結合ワクチン	C-3-1)-(6)-③
血算	F-2-3)-⑧
血漿タンパク質	D-1-1)-⑤、D-1-2)-③
血小板	D-1-1)-⑧、D-5-4)-(2)-⑧
血漿分画製剤	F-2-13)-②
血清タンパク質	D-12-4)-(7)-①
結節性硬化症	D-3-4)-(8)-②
血栓	C-4-4)-①
血栓性血小板減少性紫斑病	D-1-4)-(2)-⑥
結膜炎	D-13-4)-(1)-⑦
血友病	D-1-4)-(2)-③、D-1-4)-(2)-⑧
血流分布異常性ショック	C-4-4)-②
解熱鎮痛薬	E-5-3)-(1)-⑦
ゲノム	C-1-1)-(2)-③、C-3-1)-(2)-③、C-4-1)-①、C-4-1)-⑥、E-3-1)-①
ゲノム解析技術	C-1-1)-(2)-⑥
ゲノム核酸	C-3-1)-(1)-②
ゲノム編集技術	C-1-1)-(2)-⑦
ケモカイン	C-3-2)-(3)-②
ケラトアカントーマ	D-3-4)-(8)-④、E-3-6)-(2)-①
腱	D-4-1)-①、D-4-4)-(1)-②
原核細胞	C-1-1)-(1)-⑨
研究不正	B-3-1)-①
限局性学習障害	E-7-3)-⑩
言語	C-5-1)-①
健康危機管理	B-1-7)-⑨、B-1-8)-⑩、B-1-8)-⑪
健康寿命	B-1-4)-③、C-5-7)-①
健康日本2 1	B-1-5)-①
健康の社会的決定要因	B-1-6)-③
健康の定義	B-1-6)-①
健康保持増進	B-1-4)-⑧
言語聴覚士法	B-1-8)-⑪
言語聴覚療法	F-2-14)-⑥
言語的コミュニケーション	C-5-6)-④
検査値特性	F-2-3)-⑥
腱鞘炎	D-4-4)-(1)-⑥
減数分裂	C-1-1)-(2)-③
検体採取方法	F-2-3)-②
検体保存方法	F-2-3)-②
原虫類	C-3-1)-(4)-①
原発性アルドステロン症	D-12-4)-(4)-②
原発性骨髄線維症	D-1-4)-(4)-⑦
原発性胆汁性胆管炎	D-7-4)-(5)-⑨
原発性免疫不全症候群	C-3-2)-(4)-②、E-4-3)-(7)-①
こ	
降圧薬	D-5-4)-(9)-③
構音障害	D-2-3)-(3)-①
公害	B-1-6)-④

高 Ca 血症	D-12-4)-(3)-④
交感神経	D-2-1)-(7)-①
口腔	C-2-4)-(9)、D-14-1)-(4)、D-14-4)-(1)-⑨、E-8-1)-(7)
口腔・舌癌	E-3-6)-(11)-①
高血圧	C-4-4)-(3)、D-8-4)-(3)-①、D-13-4)-(1)-④
高血圧緊急症	D-5-4)-(9)-④
高血糖高浸透圧昏睡	D-12-4)-(5)-⑥
抗原検査	E-2-2)-①
抗原提示	C-3-2)-(2)-①
抗原提示機構	C-3-2)-(1)-⑦
抗原提示細胞	C-3-2)-(1)-⑦
抗原認識	C-3-2)-(2)-②
膠原病	D-6-4)-(3)-④、D-8-4)-(6)-④、E-4-3)-(1)-①、E-4-3)-(1)-③
皮疹	E-4-3)-(1)-③
抗原レセプター	C-3-2)-(3)-①
好酸球性肺炎	D-6-4)-(5)-③
抗糸球体基底膜病	D-8-4)-(6)-④
高次脳機能障害	D-2-4)-(4)-⑥
恒常性維持	C-2-3)-(3)-①、C-2-3)-(3)-③
甲状腺	D-5-4)-(3)-④、D-12-3)-③
甲状腺炎	D-12-4)-(2)-②
甲状腺機能亢進症と低下症	D-12-4)-(1)-⑨
甲状腺疾患	D-10-4)-⑤
甲状腺腫	D-12-3)-(2)、E-3-6)-(9)-①
高身長	D-12-3)-①
向精神薬	E-5-3)-(1)-⑦
光線照射試験	D-3-2)-①
酵素	C-2-5)-①
梗塞	C-4-4)-①
拘束性ショック	C-4-4)-②
抗体	C-3-1)-(6)-①
抗体検査	E-2-2)-①
抗体産生機構	C-3-2)-(1)-⑨
公的医療保険制度	B-1-8)-①、B-1-8)-③
公的年金	B-1-8)-①、B-1-8)-②
後天性免疫不全症候群<AIDS>	C-3-2)-(4)-②、D-3-4)-(7)-⑥、D-6-4)-(2)-⑩、E-2-4)-(1)-⑥、E-4-3)-(7)-②
喉頭	D-14-1)-(4)、D-14-1)-(5)、D-14-4)-(1)-⑪、E-3-6)-(11)-①
行動科学	C-5-7)-③
高二酸化炭素血症	D-6-4)-(1)-②
高尿酸血症	D-12-4)-(7)-②
更年期障害	D-9-4)-(2)-②
多形滲出性紅斑	D-3-4)-(2)-②
結節性紅斑	D-3-4)-(2)-②
紅斑熱群リケッチア	C-3-1)-(3)-⑪
公費医療	B-1-8)-⑤
紅皮症	D-3-4)-(2)-③
コンピュータ断層撮影<CT>	D-2-2)-①、D-4-2)-②、D-6-2)-①、D-9-2)-(1)-①、D-9-2)-(2)-②、E-6-2)-①、F-2-5)-①
高プロラクチン血症	D-12-4)-(1)-⑥
興奮収縮連関	D-5-1)-④
硬膜外血腫	D-2-4)-(4)-④
硬膜外麻酔	F-2-10)-①
硬膜下血腫	D-2-4)-(4)-⑤
絞扼性末梢神経障害	D-4-4)-(1)-⑧
交絡因子	B-1-4)-⑤
抗利尿ホルモン不適合分泌症候群	D-12-4)-(1)-⑦
抗リン脂質抗体症候群	D-1-4)-(5)-②、E-4-3)-(3)-②
高齢者総合機能評価	E-8-1)-②
高齢者	A-7-1)-(3)、B-1-6)-⑦、B-1-7)-⑥、E-8-1)-⑧、E-8-1)-⑨、E-8-1)-⑩、E-8-1)-⑪、F-2-3)-⑥
高齢者医療	B-1-8)-③、B-1-8)-⑦
高齢者福祉	B-1-8)-⑦
誤嚥性肺炎	D-6-4)-(2)-⑨
呼気NO検査	D-6-2)-⑨
呼吸運動	D-6-1)-④

呼吸器系	C-2-4)-(7)
呼吸機能検査	D-6-2)-(5)、F-2-3)-(16)
呼吸窮（促）迫症候群	D-6-4)-(4)-(2)、D-6-4)-(7)-(3)、E-7-1)-(9)
呼吸筋	D-6-1)-(4)
呼吸調節	D-6-1)-(8)
呼吸不全	D-6-4)-(1)-(1)
国際協力機構	B-1-9)-(2)
国際生活機能分類<ICF>	B-1-6)-(2)
国際連合	B-1-9)-(2)
国際労働機関	B-1-9)-(2)
コクサッキーウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
国民医療費	B-1-8)-(6)
国民健康・栄養調査	B-1-5)-(2)、B-1-5)-(4)、B-1-5)-(5)、B-1-5)-(7)、B-1-5)-(8)
国民健康づくり運動	B-1-5)-(1)
国連合同エイズ計画	B-1-9)-(2)
こころ	C-5-4)-(1)
個人識別	B-2-1)-(4)
子育て支援	B-1-6)-(9)
個体	C-4-1)-(1)、E-9-1)-(1)
五炭糖リン酸回路	C-2-5)-(7)
骨	D-8-4)-(1)-(4)
骨格	B-2-1)-(4)、D-4-2)-(1)
骨格筋	C-2-2)-(1)-(5)、C-2-3)-(3)-(5)、D-2-1)-(2)-(3)
骨形成・吸収	D-4-1)-(6)
骨腫瘍	E-3-6)-(3)-(1)、E-3-6)-(3)-(2)
骨髄	D-1-1)-(1)
骨髄異形成症候群	D-1-4)-(4)-(3)
骨髄検査	D-1-2)-(2)
骨折	D-4-4)-(1)-(3)、D-4-4)-(1)-(5)
骨粗鬆症	D-4-4)-(1)-(5)
骨塩定量	D-4-2)-(2)
骨軟化症	D-12-4)-(8)-(2)
骨肉腫	E-3-6)-(3)-(1)
骨の成長	D-4-1)-(6)
骨盤	D-4-1)-(5)、D-9-4)-(2)-(6)
骨盤内臓器	D-9-2)-(2)-(2)
固定姿勢保持困難	D-2-3)-(1)-(3)
言葉遣い	C-5-6)-(5)
コミュニケーション	C-5-6)-(2)、C-5-6)-(11)、F-2-16)-(6)
コミュニケーションスキル	C-5-6)-(9)
ゴルジ体	C-1-1)-(1)-(4)
コレセプター	C-3-2)-(3)-(1)
コレラ菌	C-3-1)-(3)-(7)
コロナイゼーション	E-2-1)-(6)
コロナウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
混合性結合組織病	E-4-3)-(4)-(3)
根足虫類	C-3-1)-(4)-(1)
コンパートメント症候群	D-4-4)-(1)-(4)
コンポーネントワクチン	C-3-1)-(6)-(3)
さ	
災害医療	A-7-1)-(5)、B-1-7)-(9)
細気管支炎	D-6-4)-(2)-(4)
再吸収・分泌	D-8-1)-(5)
細菌	C-3-1)-(3)-(1)、C-3-1)-(3)-(2)、C-3-1)-(3)-(3)、C-3-2)-(4)-(1)、E-5-3)-(1)-(1)
細菌学検査	F-2-3)-(17)
細菌学的特徴	C-3-1)-(3)-(4)、C-3-1)-(3)-(6)、C-3-1)-(3)-(7)、C-3-1)-(3)-(8)、C-3-1)-(3)-(9)
細菌感染症	E-2-2)-(5)
細菌叢	C-3-1)-(3)-(12)
細隙灯顕微鏡検査	D-13-2)-(1)
再生	C-2-3)-(2)-(3)、C-4-5)-(4)
再生不良性貧血	D-1-4)-(1)-(4)
臍帯	C-2-4)-(11)
在宅医療	A-7-1)-(4)、B-1-7)-(8)、F-2-15)-(1)、F-2-15)-(2)
サイトカイン	C-3-2)-(3)-(2)
サイトカインストーム	C-4-4)-(4)

サイトメガロウイルス (cytomegalovirus<CMV>)	C-3-1)-(2)-①
サイトメガロウイルス肺炎	D-6-4)-(2)-⑭
細胞	C-1-1)-(1)-①、C-1-1)-(1)-②、C-1-1)-(1)-⑧、C-2-2)-(1)-④、C-3-2)-(1)-④、C-3-2)-(1)-⑤、C-3-2)-(1)-⑨、C-3-2)-(4)-④、D-3-1)-②、D-6-2)-③、D-7-2)-⑤、E-1-1)-③、E-3-1)-⑧、F-2-4)-①
細胞運動	C-2-1)-(2)-①
細胞外液	C-2-1)-(1)-①
細胞間質	C-2-2)-(1)-③
細胞間情報伝達	C-2-3)-(1)-②
細胞骨格	C-1-1)-(1)-⑥
細胞死	C-4-2)-①、C-4-2)-②、E-6-1)-⑥、E-6-2)-③
細胞傷害	C-4-2)-①、C-4-2)-②
細胞傷害性T細胞	C-3-2)-(3)-③
細胞診検査	F-2-3)-⑭
細胞性免疫	C-3-1)-(6)-①、C-3-2)-(1)-⑧
細胞性免疫誘導	C-3-1)-(6)-②
細胞内液	C-2-1)-(1)-①
細胞内シグナル伝達	C-2-3)-(1)-③
細胞内膜系	C-1-1)-(1)-④
細胞内輸送	C-2-1)-(2)-③
細胞膜	C-1-1)-(1)-⑦、C-2-1)-(1)-③
細胞融解	C-3-1)-(1)-⑤
細胞融合	C-3-1)-(1)-⑤
作業関連疾患	B-1-6)-⑤
作業療法	F-2-14)-⑥
鎖肛	D-7-4)-(3)-⑨、E-7-1)-③
坐骨神経痛	D-2-4)-(5)-⑤
嘔声	D-14-3)-(1)-②
作動薬	C-3-3)-(1)-②
控減症候群	D-4-4)-(1)-④
サルコイドーシス	D-6-4)-(5)-②
サルコペニア	B-1-6)-⑦、E-8-1)-④
サルモネラ属細菌	C-3-1)-(3)-⑦
酸・塩基平衡	D-8-1)-⑥
産科出血	D-10-4)-④
酸化ストレス	C-2-5)-⑭
参加制約	B-1-6)-②
酸化的リン酸化	C-2-5)-④
産業医	B-1-6)-⑤
産業化学物質	B-1-6)-⑤、E-5-3)-(1)-⑤
三叉神経痛	D-2-4)-(5)-⑤
産褥	D-10-3)-①、D-10-3)-⑤
産褥熱	D-10-4)-③
三尖弁閉鎖不全	D-5-4)-(4)-②
酸素	D-6-1)-⑦、D-6-1)-⑨
酸素中毒	D-6-4)-(7)-⑩
酸素飽和度	F-2-9)-(2)-②
酸素療法	F-2-12)-③
散布図	B-1-2)-⑤
霰粒腫	D-13-4)-(1)-⑭
し	
ジェンダー	C-5-5)-③
ジェンダー不平等	B-4-1)-①
歯牙	B-2-1)-④
歯科医師	A-5-1)-②
歯科医師法	B-1-8)-⑰
視覚	D-2-1)-(6)-②、D-13-1)-②、D-13-3)-(1)-①
痔核	D-7-4)-(3)-④
視覚器	C-2-4)-⑩
弛緩出血	D-10-4)-②
色覚	D-13-3)-(1)-①
磁気共鳴画像	E-6-1)-⑤
磁気共鳴画像法<MRI>	D-2-2)-①、D-4-2)-②、D-5-2)-⑤、D-6-2)-①、D-9-2)-(1)-①、D-9-2)-(2)-②、F-2-5)-①

子宮外妊娠	D-10-4)-①
子宮筋腫	D-9-4)-(2)-④
子宮腺筋症	D-9-4)-(2)-④
糸球体腎炎	D-8-4)-(2)-①、D-8-4)-(2)-②-1
子宮内膜症	D-9-4)-(2)-⑤
子宮復古不全	D-10-4)-③
子宮卵管造影	D-9-2)-(2)-②
軸索	C-2-3)-(2)-③
シグナル伝達	C-3-2)-(2)-②
刺激試験	D-12-2)-④
刺激伝導系	D-5-1)-③
思考	C-5-1)-①
自己血輸血	F-2-13)-⑤
自己抗体	E-4-1)-①
自己分泌	C-2-3)-(1)-②
自己免疫疾患	C-3-2)-(1)-⑩、D-14-4)-(1)-⑫、E-4-3)-(1)-①
自己免疫性肝炎	D-7-4)-(5)-⑩
自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	D-1-4)-(2)-⑧
自己免疫性膵炎	D-7-4)-(6)-③
自己免疫性溶血性貧血	D-1-4)-(1)-⑥
自殺対策	B-1-5)-⑥
四肢・脊椎外傷	D-4-4)-(1)-①
支持組織	C-2-2)-(1)-③
脂質	C-2-5)-⑧、D-12-1)-⑩
脂質異常症	D-12-4)-(6)-①、D-12-4)-(6)-②
脂質代謝異常	C-4-3)-③
四肢の骨格	C-2-4)-④、D-4-1)-④
歯周病	D-14-4)-(1)-⑨
思春期	B-1-5)-⑨、E-7-4)-①、E-7-4)-②、E-7-4)-③
視床下部	D-2-1)-(7)-②
視床下部下垂体炎	D-12-4)-(1)-⑧
視神経炎（症）	D-13-4)-(1)-⑩
システマティックレビュー	B-1-3)-③
ジストニア	D-2-3)-(1)-③
姿勢	D-4-1)-⑦
姿勢制御	D-14-1)-⑥
自然毒	E-5-3)-(1)-①、E-5-3)-(1)-⑤
自然免疫	C-3-2)-(1)-②、C-3-2)-(1)-④
自然免疫細胞	C-3-2)-(1)-③
死体検案	B-2-1)-②
死体検案書	B-1-8)-⑬、B-2-1)-③
死体現象	B-2-1)-②、E-9-1)-①
市中感染	E-2-1)-②、E-2-1)-③
市中肺炎	D-6-4)-(2)-⑤
市町村保健センター	B-1-6)-⑧
失語症	D-2-3)-(3)-①
湿疹	D-3-4)-(1)-①、D-3-4)-(1)-②
児童虐待	B-1-6)-⑨
シナプス	C-2-3)-(2)-②
死の三徴	E-9-1)-①
磁場	E-6-1)-⑤
ジフテリア菌	C-3-1)-(3)-⑥
自閉症スペクトラム障害	D-15-3)-⑪、E-7-3)-⑩
死亡診断書	B-1-8)-⑬、B-2-1)-③
脂肪性肝疾患	D-7-4)-(5)-⑪
死亡率	B-1-4)-①、B-1-4)-④
視野	D-13-2)-①、D-13-3)-(1)-①
社会・文化的環境	C-5-1)-②
社会的学習	C-5-2)-①
社会的動機	C-5-2)-①
社会保障	B-1-8)-①
射精	D-9-1)-⑤
射精障害	D-9-3)-(1)-①
縦隔	D-6-1)-③
縦隔炎	D-6-4)-(8)-⑤

縦隔気腫	D-6-4)-(8)-③
縦隔腫瘍	E-3-6)-(5)-③
周期性四肢麻痺	D-2-4)-(6)-③
重金属	E-5-3)-(1)-⑤
充血	C-4-4)-①、D-13-3)-(1)-①
周術期管理	F-2-9)-(2)-⑤
重症化予防	C-3-1)-(6)-②
重症筋無力症	D-2-4)-(6)-①
集中治療	F-2-9)-(2)-⑨、F-2-16)-⑥
宿主細胞	C-3-1)-(1)-⑥
手根管症候群	D-4-4)-(1)-⑧
手術の危険因子	F-2-9)-(2)-①
受精	C-2-4)-②、C-2-4)-⑪
出血	C-4-4)-①、C-4-4)-②、D-1-4)-(2)-①、D-7-4)-(3)-⑥、D-7-4)-(3)-⑭
術後合併症	F-2-9)-(2)-③
術前評価	F-2-10)-②
主要筋群	D-4-1)-④
主要組織適合遺伝子複合体	C-3-2)-(2)-①
受容体	C-2-3)-(1)-③、C-3-3)-(1)-②
腫瘍マーカー	D-7-2)-②
受療率	B-1-4)-④
循環	D-2-1)-(1)-⑤、E-7-1)-①
循環器	C-2-3)-(3)-⑤、F-2-8)-④
循環血流量減少性ショック	C-4-4)-②
循環調節	D-5-1)-⑬
循環反応	D-5-1)-⑮
常位胎盤早期剥離	D-10-4)-②
障害者	B-1-8)-⑳、B-1-8)-㉔、D-15-1)-③、F-2-15)-⑦
紹介受診重点医療機関	B-1-7)-⑤
消化管	C-2-4)-⑥、D-7-1)-⑬、D-7-4)-(2)-⑦、D-7-4)-(3)-⑤
消化管運動	D-7-1)-④
消化管カルチノイド	E-3-6)-(6)-⑧
消化管間質腫瘍	D-7-4)-(3)-⑰
消化管間質腫瘍<GIST>	E-3-6)-(6)-⑧
消化管神経内分泌腫瘍	D-7-4)-(3)-⑯
消化管ポリポーシス	D-7-4)-(3)-⑧
消化管ホルモン	D-7-1)-⑫
消化器官	D-7-1)-①、D-7-1)-⑤
消化器系	C-2-4)-⑥、D-7-2)-③、F-2-11)-③
消化吸収	D-12-1)-⑨
消化性潰瘍	D-7-4)-(2)-①
視床下部ホルモン	D-12-1)-④
常在菌	C-2-3)-(3)-③
少子化	B-1-6)-⑩
症状緩和	F-2-16)-②
症状精神病	D-15-3)-①
上大静脈症候群	D-5-4)-(8)-②、D-6-4)-(8)-⑪
条虫類	C-3-1)-(4)-①
小腸	D-7-1)-③、D-7-1)-⑩
上腸間膜動脈閉塞症	D-7-4)-(3)-⑮
小児	D-8-1)-①、E-3-6)-(9)-②、E-7-3)-⑨、E-9-1)-④、F-2-3)-⑥
小児期	C-5-4)-②、E-7-3)-①、E-7-3)-②、E-7-3)-③、E-7-3)-④、E-7-3)-⑤、E-7-4)-④
小児心身症	E-7-3)-⑥
小児輸液療法	F-2-11)-④
小脳	D-2-1)-(5)-②、D-2-3)-(1)-①
上皮組織	C-2-2)-(1)-①
情報伝達	C-2-3)-(1)-①
静脈	D-5-1)-⑦
静脈麻酔	F-2-10)-④
初期対応	E-8-1)-⑤、F-2-10)-⑥
食育	B-1-5)-③、E-7-3)-④
職業病	B-1-6)-⑤
食後	C-2-3)-(3)-④
食事療法	D-12-4)-(5)-⑬
触診	D-12-3)-③

食中毒	B-1-8)-(9)、E-5-3)-(1)-①
食道	D-7-1)-(3)、D-14-4)-(1)-(11)
食道・胃静脈瘤	D-7-4)-(1)-①
食道癌	E-3-6)-(6)-①
食品安全基本法	B-1-8)-(9)
食品衛生法	B-1-8)-(9)
食品表示法	B-1-8)-(9)
植物状態	B-2-1)-(1)、E-9-1)-(2)
食物アレルギー	E-4-3)-(6)-③
女性化乳房	D-11-4)-(1)-②
触覚	D-2-1)-(6)-①
ショック	F-2-8)-(3)
自律神経	D-7-1)-(5)
自律神経系	C-2-4)-(10)、D-2-1)-(7)-(2)
自律性支援	C-5-7)-(5)
診療報酬制度	B-1-8)-(15)
視力	D-13-2)-(1)、D-13-3)-(1)-①
痔瘻	D-7-4)-(3)-④
腎	D-5-1)-(13)、D-5-4)-(9)-(2)、D-8-1)-(2)、D-8-1)-(3)、D-8-1)-(7)、D-8-2)-(1)、F-2-8)-(4)
腎移植	D-8-4)-(1)-⑥
腎盂・尿管癌	E-3-6)-(7)-(2)
腎盂腎炎	D-8-4)-(5)-①、D-8-4)-(5)-(2)
進化	C-1-2)-(1)-①
腎外傷	D-8-4)-(7)-(3)
心外閉塞	C-4-4)-(2)
真核細胞	C-1-1)-(1)-(9)
腎芽腫	E-3-6)-(9)-(2)
新型コロナウイルス	E-2-1)-(3)
新型コロナウイルス感染症	D-6-4)-(2)-(20)
腎癌	E-3-6)-(7)-(1)
心機能	D-5-1)-(12)
腎機能	D-8-2)-(2)
心筋	C-2-2)-(1)-(5)、D-5-1)-(4)
真菌	C-3-2)-(4)-①
真菌感染症	E-2-2)-(7)
心筋細胞	D-5-1)-(2)、D-5-1)-(3)
心筋収縮力低下	C-4-4)-(2)
心筋症	D-5-4)-(5)-(2)
神経	C-2-3)-(3)-(5)、D-2-1)-(2)-(2)、D-4-1)-(4)、D-4-2)-(1)、D-5-1)-(1)、D-8-1)-(2)、D-13-1)-(3)、D-14-1)-(5)、E-3-6)-(1)-(1)、E-3-6)-(9)-(2)、E-7-3)-(10)
神経因性膀胱	D-8-4)-(8)-(7)
神経管	C-2-4)-(10)
神経筋接合部	C-2-3)-(2)-(2)
神経原性	C-4-4)-(2)
神経線維腫症	D-3-4)-(8)-(2)
神経叢	D-2-1)-(2)-(3)
神経叢ブロック	F-2-10)-(1)
神経組織	C-2-2)-(1)-(4)
神経調節性失神	D-2-3)-(3)、D-5-4)-(10)-(2)
神経堤	C-2-4)-(10)
心血管系	C-2-4)-(5)
腎血管性高血圧症	D-8-4)-(3)-(2)
腎結石	D-8-4)-(8)-①
心原性ショック	C-4-4)-(2)、D-5-4)-(1)-(5)
心原性肺水腫	D-6-4)-(4)-(5)
腎硬化症	D-8-4)-(3)-①
人工換気	F-2-12)-(4)
進行性筋ジストロフィー	D-2-4)-(6)-(2)
人口静態	B-1-4)-(1)
人工臓器	F-2-12)-(2)
人工聴覚器	D-14-4)-(1)-(2)
人口動態	B-1-4)-(1)
人工妊娠中絶	D-10-5)-(1)
腎糸球体	D-8-1)-(4)

心室中隔欠損症	D-5-4)-(6)-①、E-7-1)-②
心室頻拍	D-5-4)-(3)-③
人獣共通感染症	C-3-1)-(5)-①
腎障害	D-8-4)-(1)-①、D-8-4)-(3)-①
腎生検	D-8-2)-③
新生児	D-6-4)-(7)-③、E-4-1)-④、E-7-1)-⑨
新生児黄疸	E-7-1)-⑧
新生児仮死	E-7-1)-⑥
新生児マスキング	E-7-1)-⑦
真性赤血球増加症	D-1-4)-(4)-⑤
腎性糖尿	D-8-4)-(4)-②
人生の最終段階における医療	E-8-1)-⑫、F-2-15)-④、F-2-16)-⑥
腎性貧血	D-1-4)-(1)-①、D-8-4)-(1)-④
振戦	D-2-3)-(1)-②
心臓	B-2-1)-①、D-5-1)-①、D-5-1)-③、D-5-1)-⑬、D-5-2)-⑤
心臓シンチグラフィ	D-5-2)-④
心臓超音波検査	D-5-2)-②
心臓突然死	D-5-4)-(3)-⑥
腎臓病	D-8-4)-(1)-③
心臓リハビリテーション	D-5-4)-(1)-③、D-5-4)-(2)-⑧
靱帯	D-4-1)-①、D-4-4)-(1)-②
腎代替療法	D-8-4)-(1)-⑤、D-8-4)-(1)-⑥
身体活動	B-1-5)-④
身体症状症	D-15-3)-⑧
心タンポナーデ	C-4-4)-②、D-5-4)-(5)-⑦
心電図	D-5-2)-①、D-5-4)-(3)-①、D-5-4)-(3)-②、D-5-4)-(3)-③、F-2-3)-⑯
浸透圧	C-2-1)-(1)-①、D-8-1)-①
振動による障害	E-5-3)-(2)-③
侵入	C-3-1)-(1)-④、C-3-1)-(1)-⑥
侵入門戸	C-3-1)-(1)-⑦
腎嚢胞	D-8-4)-(8)-⑨
心肥大	D-5-4)-(5)-①
腎病変	D-8-4)-(6)-④
深部感覚	D-2-1)-(6)-①
深部静脈血栓症	D-5-4)-(8)-①
心不全	D-5-4)-(1)-①、D-5-4)-(1)-③
腎不全	D-8-4)-(1)-②、D-8-4)-(1)-④、D-8-4)-(1)-⑤
心不全診療	D-5-4)-(1)-④
心房細動	D-5-4)-(3)-②
心房中隔欠損症	D-5-4)-(6)-①、E-7-1)-②
蕁麻疹	D-3-4)-(2)-①
信頼区間	B-1-1)-③
心理学的検査法	D-15-1)-④
心理教育	C-5-7)-④
心理的要因	C-5-6)-①、C-5-6)-②、C-5-6)-⑦
診療ガイドライン	B-1-3)-⑥
診療関連死	E-9-1)-⑥
診療諸記録	B-1-8)-⑫
診療録	A-6-1)-③、B-1-8)-⑫
す	
随意運動	D-2-1)-(5)-①
脾液	D-7-1)-⑨
脾癌	E-3-6)-(6)-⑥
錐体路	D-2-1)-(5)-①
推定エネルギー必要量	C-2-5)-⑯
水痘	D-3-4)-(7)-⑤、E-2-4)-(1)-④
脾島	D-12-1)-⑦
水頭症	D-2-4)-(9)-②
髄膜	D-2-1)-(1)-⑤、E-3-6)-(1)-①
髄膜炎	D-2-4)-(3)-②
髄膜炎菌	C-3-1)-(3)-⑤
睡眠	B-1-5)-⑤
睡眠時呼吸障害	D-6-2)-⑦
睡眠時無呼吸症候群	D-5-4)-(9)-②、D-6-4)-(6)-②
睡眠薬	E-5-3)-(1)-⑦

頭蓋骨骨折	D-2-4)-(4)-③
頭蓋内圧亢進	D-2-3)-(4)-②
健やか親子21	B-1-6)-⑨
頭痛	D-2-4)-(8)-①、D-15-2)-①
ストレス学説	C-5-3)-①
ストレスコーピング過程	C-5-3)-①
ストレス対処法	C-5-3)-①
ストレス反応	D-2-1)-(7)-③
ストレッサー	C-5-3)-①
スパイク	C-3-1)-(1)-①
スピリルム属細菌	C-3-1)-(3)-⑧
せ	
生化学検査	F-2-3)-⑫
性格	C-5-1)-①
生活環	C-3-1)-(4)-②
生活習慣病	B-1-6)-⑥、C-5-7)-⑤
生活の質	B-1-6)-①
正規分布	B-1-1)-②、B-1-1)-③
制御性T細胞	C-3-2)-(3)-③
清潔操作	F-2-9)-(1)-①
性交痛	D-9-3)-(3)-①
精子	C-2-4)-①、D-9-1)-④
性自認	C-5-5)-③
性周期	D-9-1)-⑧、D-11-1)-②
成熟	C-3-1)-(1)-④、D-1-1)-②
生殖器	D-9-1)-⑥、D-9-1)-⑦、D-9-3)-(4)-①、D-9-4)-(2)-①
生殖腺	D-9-1)-①
成人 Still病	E-4-3)-(2)-③
成人T細胞白血病	D-1-4)-(4)-④
精神運動発達	C-5-4)-②、E-7-2)-②、E-7-3)-②
精神科診断分類法	D-15-1)-②
精神科面接	D-15-1)-①
精神保健	A-7-1)-③、B-1-8)-②、D-15-1)-③
精巣	D-9-1)-④、D-9-2)-(1)-①
精巣腫瘍	E-3-6)-(8)-②
精巣上体炎	D-9-4)-(1)-⑤
精巣捻転症	D-9-4)-(1)-④
生体機能	C-2-3)-(3)-②
生体機能検査	F-2-3)-⑩
生体防御機構	C-3-2)-(1)-⑥
生体膜通過	C-3-3)-(2)-②
成長	E-7-3)-①、E-7-3)-⑥、E-7-3)-⑦
成長発達	D-11-1)-②
性的指向	C-5-5)-③
精度管理	F-2-3)-③、F-2-3)-⑤
青年期	B-1-5)-⑨、E-7-4)-③
政府開発援助	B-1-9)-②
生物種	C-1-2)-(1)-②
性分化	D-9-1)-①
成分輸血	F-2-13)-⑤
性ホルモン	D-12-1)-⑧
生命表	B-1-4)-②
生理的動機	C-5-2)-①
生理的変動	F-2-3)-⑤
世界エイズ・結核・マラリア対策基金	B-1-9)-②
世界保健機関	B-1-9)-②
赤芽球癆	D-1-4)-(1)-⑨
脊髄	C-2-4)-⑩、D-2-1)-(2)-①、D-2-2)-①、E-3-6)-(1)-①
脊髄くも膜下麻酔	F-2-10)-①
脊髄神経	D-2-1)-(2)-③
脊髄損傷	D-4-4)-(1)-⑩
脊髄反射	C-2-3)-(2)-⑤、D-2-1)-(2)-②
脊柱	D-4-1)-③、D-4-2)-①
脊椎カリエス	D-4-4)-(2)-②
石綿肺	D-6-4)-(3)-⑧

赤痢菌	C-3-1)-(3)-⑦
セクレチン	D-7-1)-⑫
せつ	D-3-4)-(7)-①
舌	D-14-1)-⑧
舌下	C-3-3)-(2)-③
赤血球	D-1-1)-⑥
赤血球破砕症候群	D-1-4)-(1)-⑩
接触感染	C-3-1)-(4)-②
接触感染予防策	E-2-4)-(5)-②
接着	C-1-1)-(1)-⑧
切迫流産	D-10-4)-①
セロトニン	D-2-1)-(1)-④、D-7-1)-⑫
遷延分娩	D-10-4)-②
前癌状態	D-3-4)-(8)-③
穿刺液	F-2-3)-⑪
染色性	C-3-1)-(3)-①
染色体	C-1-1)-(2)-③
染色体・遺伝子検査	F-2-3)-⑬
染色体異常	C-4-1)-③
染色体分析	C-1-1)-(2)-⑥
全身性エリテマトーデス	E-4-3)-(3)-①
全身性血管炎	E-4-3)-(5)-①
全身性硬化症	E-4-3)-(4)-①
全人の苦痛	F-2-16)-①
腺組織	C-2-2)-(1)-②
先端巨大症	D-12-4)-(1)-②
前置胎盤	D-10-4)-②
線虫類	C-3-1)-(4)-①
蠕虫類	C-3-1)-(4)-①
前庭神経炎	D-14-4)-(1)-③
先天性アミノ酸代謝異常症	E-7-1)-③
先天性筋ジストロフィー	E-7-1)-③
先天性十二指腸閉鎖・狭窄症	E-7-1)-③
先天性食道閉鎖症	E-7-1)-③
先天性腎尿路異常	E-7-1)-②
先天性胆道拡張症	D-7-4)-(4)-④
先天性副腎過形成	E-7-1)-②
喘鳴	D-6-3)-①
せん妄	E-8-1)-⑤
纖毛虫類	C-3-1)-(4)-①
前立腺	D-9-2)-(1)-①、E-3-6)-(8)-①
前立腺炎	D-8-4)-(8)-⑤、D-8-4)-(8)-⑥
前立腺肥大症	D-9-4)-(1)-②
線量	E-6-1)-②
そ	
騒音	B-1-6)-(4)、E-5-3)-(2)-③
臓器移植	B-2-1)-①、F-2-13)-⑥
双極性障害	D-15-3)-⑥
造血因子	D-1-1)-③
造血幹細胞	D-1-1)-②
造血幹細胞移植	F-2-13)-⑥
早産	D-10-4)-②
創傷	C-4-5)-③
創傷治癒	F-2-9)-(1)-④
巣状分節性糸球体硬化症	D-8-4)-(2)-③-3
相対危険	B-1-4)-⑤
僧帽弁疾患	D-5-4)-(4)-①
塞栓	C-4-4)-①
鼠径ヘルニア	D-7-4)-(7)-③
阻血	C-4-4)-①
組織形態学的変化	C-4-5)-②
組織適合性	F-2-13)-⑦
咀嚼	D-14-1)-⑨
ソマトスタチン	D-7-1)-⑫
粗面小胞体	C-1-1)-(1)-④

尊厳死	E-9-1)-(7)
損傷	D-4-4)-(1)-(2)、D-13-4)-(1)-(11)、E-9-1)-(5)
た	
体液	D-8-1)-(1)
体液喪失	C-4-4)-(2)
体液暴露	E-2-4)-(5)-(4)
体幹の運動	D-4-1)-(7)
帯下	D-9-3)-(3)-(1)
対光反射	D-13-1)-(4)
体細胞分裂	C-1-1)-(2)-(3)
胎児	D-5-1)-(5)、D-10-01)-(3)、D-10-3)-(2)、E-6-1)-(3)、E-7-1)-(1)
胎児機能不全	E-7-1)-(5)
胎児発育不全	D-10-4)-(1)
代謝	C-2-3)-(3)-(4)、C-2-3)-(3)-(5)、C-2-5)-(9)、C-2-5)-(12)、C-3-3)-(2)-(1)、D-8-3)-(2)-(1)、D-12-1)-(6)、D-12-1)-(8)、D-12-1)-(10)、D-12-2)-(4)
代謝異常	C-4-3)-(5)、D-8-4)-(1)-(4)
代謝機能	B-1-6)-(12)、D-6-1)-(10)、F-2-3)-(16)
帯状疱疹	D-3-4)-(7)-(5)、E-2-4)-(1)-(4)
対人関係	C-5-6)-(1)、C-5-6)-(2)、C-5-6)-(3)、C-5-6)-(7)、C-5-6)-(8)
対人行動	C-5-6)-(1)、C-5-6)-(3)
体性体性反射	C-2-3)-(2)-(5)
体性内臓反射	C-2-3)-(2)-(5)
体節	C-2-4)-(3)
大腸	D-7-1)-(3)、D-7-1)-(11)、D-7-4)-(3)-(3)、D-7-4)-(3)-(6)、D-7-4)-(3)-(9)
大腸癌	E-3-6)-(6)-(3)
大腸菌	C-3-1)-(3)-(7)、E-2-4)-(2)-(5)
態度	C-5-6)-(5)
耐糖能異常	D-10-4)-(5)
大動脈	D-5-1)-(6)、D-5-4)-(4)-(1)
大動脈炎症候群	D-5-4)-(7)-(5)
大動脈瘤	D-5-4)-(7)-(3)
体内環境	C-2-3)-(3)-(2)
大脳	D-2-1)-(4)-(1)
大脳基底核	D-2-1)-(5)-(3)
大脳皮質	D-2-1)-(4)-(2)
胎盤	C-2-4)-(11)、D-5-1)-(5)、D-10-01)-(3)、D-10-3)-(2)
代表値	B-1-1)-(1)
胎便吸引症候群	E-7-1)-(9)
大麻	E-5-3)-(1)-(6)
大麻取締法	B-3-1)-(5)
対立仮説	B-1-1)-(4)
多因子遺伝	C-1-1)-(2)-(1)
多因子疾患	C-4-1)-(5)
唾液腺	D-14-1)-(8)
唾液腺疾患	D-14-4)-(1)-(12)
高安動脈炎	D-3-4)-(3)-(2)、D-5-4)-(7)-(5)
多系統萎縮症	D-2-4)-(2)-(7)
多国間協力	B-1-9)-(2)
多職種	A-6-1)-(1)、A-7-1)-(3)、D-5-4)-(1)-(4)、F-2-15)-(2)
多臓器障害	C-4-4)-(4)
多臓器不全	C-4-4)-(4)
多胎妊娠	D-10-4)-(1)
脱臼	D-4-4)-(1)-(2)
多糖体ワクチン	C-3-1)-(6)-(3)
多発性筋炎	E-4-3)-(4)-(2)
多発性硬化症	D-2-4)-(3)-(5)
多発性骨髄腫	D-1-4)-(4)-(9)
多発性嚢胞腎	D-8-4)-(7)-(1)
多様性	A-1-2)-(1)、C-3-2)-(1)-(6)、C-4-1)-(1)、C-4-1)-(6)、C-4-2)-(1)
多様性獲得機構	C-3-2)-(2)-(3)
単一遺伝子疾患	C-4-1)-(2)
胆管炎	D-7-4)-(4)-(2)
単クローン性免疫グロブリン血症	D-1-4)-(4)-(11)
胆汁	D-7-1)-(8)
男性生殖器	D-9-1)-(2)、D-9-1)-(3)

男性不妊症	D-9-4)-(1)-①
胆石症	D-7-4)-(4)-①
胆道閉鎖症	E-7-1)-(②
丹毒	D-3-4)-(7)-①
胆嚢・胆管癌	E-3-6)-(6)-④
胆嚢炎	D-7-4)-(4)-②
胆嚢ポリープ	D-7-4)-(4)-③
タンパク質	C-1-1)-(1)-⑥、C-1-1)-(2)-⑤、C-2-5)-⑩、C-4-3)-②、D-12-1)-⑩
ち	
地域医療構想	A-7-1)-(②、B-1-7)-④
地域医療支援病院	A-7-1)-(②、B-1-7)-⑤
地域包括ケアシステム	A-7-1)-③、B-1-7)-⑥、F-2-15)-⑦
地域保健法	B-1-6)-⑧
知覚	C-5-1)-①
腔	D-9-4)-(2)-⑥
腔乾燥感	D-9-3)-(3)-①
チック	D-2-3)-(1)-③
チック障害群	E-7-3)-⑩
腔分泌物	D-9-2)-(2)-④、D-9-3)-(3)-①
チフス菌	C-3-1)-(3)-⑦
致命率	B-1-4)-④
注意欠如・多動障害	D-15-3)-⑫、E-7-3)-⑩
中耳	D-14-1)-①
中耳炎	D-14-4)-(1)-①
虫垂炎	D-7-4)-(3)-①
中枢神経	D-2-1)-(1)-①
中枢性尿崩症	D-12-4)-(1)-④
中毒性表皮壊死症<toxic epidermal necrolysis>	D-3-4)-(4)-①
肘部管症候群	D-4-4)-(1)-⑧
治癒過程	C-4-5)-③
腸炎ビブリオ菌	C-3-1)-(3)-⑦
超音波検査	D-4-2)-②、D-9-2)-(1)-①、D-9-2)-(2)-②、D-10-01)-③、F-2-3)-⑩、F-2-7)-②
聴覚	D-2-1)-(6)-②、D-14-1)-③
腸管憩室症	D-7-4)-(3)-⑥
腸管出血性大腸菌	E-2-4)-(2)-⑥
腸重積症	D-7-4)-(3)-⑩
腸内細菌	C-2-3)-(3)-③
腸内細菌叢	D-7-1)-⑬
腸内細菌目細菌	C-3-1)-(3)-⑦
重複腎盂尿管	D-8-4)-(7)-⑤
腸閉塞	D-7-4)-(3)-②
聴力検査	D-14-2)-①
直腸潰瘍	D-7-4)-(3)-⑭
陳旧性心筋梗塞	D-5-4)-(2)-⑥
鎮静薬	F-2-8)-⑦、F-2-16)-③
つ	
椎間板炎	D-4-4)-(2)-②
腰椎椎間板ヘルニア	D-4-4)-(1)-⑪
痛覚	D-2-1)-(6)-①
痛風	D-12-4)-(7)-②
て	
手洗い	F-2-9)-(1)-②
帝王切開術	D-10-5)-②
低温による障害	E-5-3)-(2)-②
低血圧	C-4-4)-③
低血糖症	D-12-4)-(5)-⑩
低酸素血	C-4-4)-①、D-6-4)-(1)-②
低出生体重児	E-7-1)-⑩、E-7-1)-⑪
低身長	D-12-3)-①、E-7-3)-⑦
停留精巣	D-9-4)-(1)-③
デオキシリボ核酸	C-1-1)-(2)-④
テグメント	C-3-1)-(1)-①
鉄過剰症	D-1-4)-(6)-⑤
鉄欠乏性貧血	D-1-4)-(1)-②

転移性肺腫瘍	E-3-6)-(5)-②
電解質	D-5-4)-(3)-④、D-8-1)-(6)
てんかん	D-2-4)-(7)-①
電気生理学的検査	D-2-2)-(2)
電子伝達系	C-2-5)-(4)
電磁波	E-6-1)-(3)、E-6-1)-(5)
転写	C-1-1)-(2)-⑤、C-3-1)-(1)-③
伝染性単核（球）症	E-2-4)-(1)-⑦
伝染性単核球症	D-1-4)-(6)-②、D-3-4)-(7)-⑤
伝染性軟属腫	D-3-4)-(7)-⑤、D-3-4)-(7)-⑥
伝染性膿痂疹	D-3-4)-(7)-①
伝導	C-2-3)-(2)-①、D-2-1)-(2)-①、D-2-1)-(3)-①、D-2-1)-(6)-①、D-2-1)-(6)-②、D-13-1)-(2)、D-14-1)-(3)、D-14-1)-(7)
伝播経路	C-3-1)-(1)-⑦
伝播様式	C-3-1)-(1)-⑦
天疱瘡	D-3-4)-(5)-①
と	
同意書	B-1-8)-(9)
動機付け	C-5-2)-(1)
頭頸部	C-2-4)-(9)、D-4-1)-(2)、D-5-1)-(6)
統合失調症	D-15-3)-(4)
糖質	D-12-1)-(10)
糖新生	C-2-5)-(5)
糖代謝異常	C-4-3)-(1)
疼痛の管理	F-2-9)-(2)-⑧
糖尿病	B-1-6)-(6)、D-12-4)-(5)-①、D-12-4)-(5)-④、D-12-4)-(5)-⑧、D-12-4)-(5)-⑩、D-13-4)-(1)-④
糖尿病ケトアシドーシス	D-12-4)-(5)-⑤
糖尿病腎症	D-8-4)-(6)-①
糖尿病性足病変	D-12-4)-(5)-⑫
糖尿病性神経障害	D-12-4)-(5)-⑪
糖尿病性腎症	D-12-4)-(5)-⑩
糖尿病性網膜症	D-12-4)-(5)-⑨
洞不全症候群	D-5-4)-(3)-①
動物実験	B-3-1)-(3)
動脈管開存	D-5-4)-(6)-②、E-7-1)-(2)
動脈血ガス分析	D-6-2)-(6)、F-2-3)-(19)
動脈硬化症	D-5-4)-(7)-①
トキシドローム	E-5-1)-(1)
トキシイドワクチン	C-3-1)-(6)-③
特異性	C-3-2)-(1)-⑥
特定機能病院	B-1-7)-(5)
特発性間質性肺炎	D-6-4)-(3)-③
毒物	C-3-3)-(1)-①、C-3-3)-(2)-①
徒手検査	D-4-2)-(1)
突然死	E-9-1)-(4)
ドバミン	D-2-1)-(1)-④
塗抹検査	E-2-2)-(2)
トランスフォーメーション	C-3-1)-(1)-⑤
トリアージ	A-7-1)-(5)、B-1-7)-(10)
な	
内因死	E-9-1)-(3)
内耳	D-14-1)-(1)
内視鏡検査	D-7-2)-(4)、F-2-6)-(2)
内臓体性反射	C-2-3)-(2)-⑤
内臓内臓反射	C-2-3)-(2)-⑤
内的要因	C-5-1)-(2)
内発的動機	C-5-2)-(1)
内分泌	C-2-3)-(1)-②、D-2-1)-(7)-②、D-5-4)-(9)-②、D-12-2)-(4)、F-2-3)-(16)、F-2-8)-(4)
内分泌腺	C-2-2)-(1)-②
内分泌腺・細胞	D-12-1)-(2)
ナトリウム	D-8-3)-(1)-①
生ワクチン	C-3-1)-(6)-③
軟骨	D-4-1)-(1)、E-3-6)-(3)-①
軟骨肉腫	E-3-6)-(3)-①

難聴	D-14-3)-(1)-(③、D-14-4)-(1)-(②
に	
肉芽腫症	D-3-4)-(3)-(②
二項分布	B-1-1)-(②
二国間協力	B-1-9)-(②
二酸化炭素	D-6-1)-(⑦、D-6-1)-(⑨
二次性高血圧症	D-5-4)-(9)-(②
二次性心筋症	D-5-4)-(5)-(③
二次性貧血	D-1-4)-(1)-(③
日常生活動作	E-8-1)-(⑪、F-2-14)-(⑤、F-2-15)-(⑥
日内変動	D-12-2)-(③
日本人の食事摂取基準	B-1-5)-(②
日本医師会災害医療チーム	A-7-1)-(⑤、B-1-7)-(⑨
日本脳炎ウイルス	C-3-1)-(2)-(②
乳癌	D-11-4)-(2)-(①
乳酸アシドーシス	D-12-4)-(5)-(⑦
乳児下痢症	D-7-4)-(3)-(⑪
乳汁	D-11-1)-(③
乳汁漏出症	D-9-3)-(3)-(①
乳腺	D-11-4)-(1)-(①
乳腺炎	D-10-4)-(③
乳頭部癌	E-3-6)-(6)-(④
乳び胸	D-6-4)-(8)-(⑥
乳房	D-11-1)-(①、D-11-1)-(②
ニューモシス肺炎	E-2-4)-(3)-(③
乳幼児	E-7-2)-(①、E-7-2)-(②
乳幼児突然死症候群	E-7-2)-(③
ニューロパチー	D-2-4)-(5)-(①
尿・糞便検査	F-2-3)-(⑩
尿管結石	D-8-4)-(8)-(①
尿細管	D-8-1)-(⑤
尿細管性アシドーシス	D-8-4)-(4)-(①
尿失禁	D-8-4)-(8)-(⑬
尿素	C-2-5)-(⑪
尿道炎	D-8-4)-(8)-(④
尿道カルUNKル	D-8-4)-(8)-(⑧
尿道下裂	D-8-4)-(7)-(⑦
尿道結石	D-8-4)-(8)-(②
尿膜管癌	E-3-6)-(7)-(④
尿路	D-8-1)-(②、D-8-2)-(①
尿路感染症	E-2-1)-(②
尿路造影	D-9-2)-(1)-(①
妊娠	D-10-01)-(①、D-10-01)-(②、D-10-3)-(①、D-10-3)-(③、D-10-3)-(⑧
妊娠高血圧症候群	D-10-4)-(①
認知機能障害	D-2-4)-(2)-(①、E-8-1)-(③
認知行動療法	C-5-7)-(④
認知症	D-15-3)-(②、E-8-1)-(⑤
ぬ	
ヌクレオカプシド	C-3-1)-(1)-(①
ヌクレオチド	C-2-5)-(⑬
ヌクレオチド代謝異常	C-4-3)-(④
ね	
ネグレクト	E-7-3)-(⑧
ネクロシス	C-4-2)-(①
熱傷	E-5-3)-(3)-(①
熱中症	E-5-3)-(2)-(①
ネフローゼ症候群	D-8-4)-(2)-(③-1
ネフロン	D-8-1)-(③
粘液腫	E-3-6)-(4)-(①
年齢調整死亡率	B-1-4)-(⑥
の	
脳	C-2-4)-(⑩、D-2-1)-(1)-(③、D-2-2)-(①、D-5-1)-(⑬、E-3-6)-(1)-(①
脳炎	D-2-4)-(3)-(①
脳幹	D-2-1)-(3)-(①
脳幹反射	C-2-3)-(2)-(⑤

膿胸	D-6-4)-(2)-⑪
脳血管疾患	B-1-6)-⑥
脳血管障害	D-2-4)-(1)-⑧
脳血管性認知症	D-2-4)-(2)-④
脳梗塞	D-2-4)-(1)-③
脳挫傷	D-2-4)-(4)-①
脳死	B-2-1)-(①、E-9-1)-②
脳室	D-2-1)-(1)-⑤
濃縮	D-8-1)-⑤
脳出血	D-2-4)-(1)-①
脳症	D-2-4)-(3)-③
脳神経	D-2-1)-(3)-②
脳振盪	D-2-4)-(4)-②
脳性麻痺	D-2-4)-(9)-①
脳脊髄液	D-2-1)-(1)-⑤、F-2-3)-⑪、F-2-3)-⑳
脳動静脈奇形	D-2-4)-(1)-⑥
脳動脈瘤	D-2-4)-(1)-⑤
脳内基礎課程	C-5-1)-①
脳内神経伝達物質	D-2-1)-(1)-④
脳膿瘍	D-2-4)-(3)-④
脳波検査	D-2-2)-②、F-2-3)-⑯
膿疱症	D-3-4)-(5)-②
脳浮腫	D-2-3)-(4)-①
脳ヘルニア	D-2-3)-(4)-③
嚢胞性膀胱腫瘍	E-3-6)-(6)-⑦
ノーマライゼーション	B-1-6)-②
ノルアドレナリン	D-2-1)-(1)-④
ノロウイルス	C-3-1)-(2)-②、E-2-1)-③
ノンエンベロープウイルス	C-3-1)-(1)-④
ノンパラメトリック検定	B-1-2)-②
は	
歯	D-14-1)-⑧
パーソナリティ	C-5-5)-①
パーソナリティ障害群	D-15-3)-⑩
バイアス	B-1-4)-⑤
肺炎	C-3-1)-(3)-⑪、E-2-1)-②、E-4-3)-(4)-②
肺炎桿菌	C-3-1)-(3)-⑦
肺炎球菌	E-2-4)-(2)-③
肺炎球菌感染症	D-6-4)-(2)-⑰
胚外構造	C-2-4)-⑪
媒介性感染症	C-3-1)-(5)-②
胚外体腔	C-2-4)-⑪
胚芽腫	E-3-6)-(9)-②
肺癌	E-3-6)-(5)-①
肺吸虫症	D-6-4)-(2)-⑮
肺区域	D-6-1)-①
配偶子	C-2-4)-①
肺結核	E-2-4)-(2)-⑧
肺結核症	D-6-4)-(2)-⑥
敗血症	E-2-1)-①
敗血症性	C-4-4)-②
敗血症性ショック	E-2-3)-①
肺血栓塞栓症	D-6-4)-(4)-③
肺高血圧症	D-6-4)-(4)-④
肺循環	D-5-1)-⑤、D-6-1)-②
肺真菌症	D-6-4)-(2)-⑦
肺性心	D-6-4)-(4)-①
排泄	C-3-3)-(2)-①、E-8-1)-③、F-2-15)-⑥
肺塞栓症	C-4-4)-②
肺損傷	D-6-4)-(9)-③
バイタルサイン	F-2-9)-(2)-②
肺動静脈瘤	D-6-4)-(7)-⑬
梅毒	D-3-4)-(7)-④、D-3-4)-(7)-⑥、E-2-4)-(4)-①
梅毒トレポネーマ	C-3-1)-(3)-⑪
胚内体腔	C-2-4)-②

排尿困難	D-9-3)-(2)-②
排尿時痛	D-9-3)-(2)-③
肺分画症	D-6-4)-(7)-⑥
排便	D-7-1)-⑪
肺胞	D-6-1)-⑥、D-6-1)-⑦
肺胞タンパク症	D-6-4)-(7)-⑤
肺胞低換気症候群	D-6-4)-(6)-③
肺胞微石症	D-6-4)-(7)-⑫
肺門	D-6-1)-①
肺葉	D-6-1)-①
培養検査	E-2-2)-③
廃用症候群	E-8-1)-⑩
排卵	D-9-1)-⑧
肺リンパ脈管筋腫症	D-6-4)-(7)-④
白癬	D-3-4)-(7)-②
白内障	D-13-4)-(1)-②
白板症	D-3-4)-(8)-③
麦粒腫	D-13-4)-(1)-⑭
橋本病	D-12-4)-(2)-③
播種性血管内凝固	D-1-4)-(2)-④、D-10-4)-④
播種性血管内凝固症候群	C-4-4)-④
破傷風菌	C-3-1)-(3)-⑥
発がん	C-3-1)-(2)-④
白血球	D-1-1)-⑦
発症予防	C-3-1)-(6)-②
発声	D-14-1)-⑤
発生過程	C-2-4)-②、C-2-4)-⑪、D-7-1)-②
発達	C-5-4)-①、D-10-3)-②、E-7-3)-①、E-7-3)-⑤、E-7-3)-⑩
発達課題	C-5-4)-③
パッチテスト	D-3-2)-②
馬蹄腎	D-8-4)-(7)-④
話し方	C-5-6)-⑥
バラコート中毒	D-6-4)-(7)-⑪
パラメトリック検定	B-1-2)-②
バリアフリー	B-1-6)-②
針筋電図検査	D-2-2)-②
針刺切創	A-6-3)-③、E-2-4)-(5)-④
バルボウイルスB19	C-3-1)-(2)-①
反回神経麻痺	D-2-4)-(5)-④
汎下垂体機能低下症	D-12-4)-(1)-③
半月板	D-4-4)-(1)-②
反射経路	C-2-3)-(2)-⑤
反射性失神	D-2-3)-③、D-5-4)-(10)-②
反射中枢	C-2-3)-(2)-⑤
判定基準	B-2-1)-①、F-2-3)-④
ひ	
ピークフローメトリー	D-6-2)-⑧
皮下気腫	D-6-4)-(7)-⑮
光干渉断層計 (OCT)	D-13-2)-①
脾機能亢進症	D-1-4)-(3)-①
鼻腔	D-14-1)-④、D-14-4)-(1)-⑪、E-3-6)-(11)-②
非結核性抗酸菌	C-3-1)-(3)-⑨
非結核性抗酸菌症	E-2-4)-(2)-⑨
非言語的コミュニケーション	C-5-6)-⑧
肥厚性幽門狭窄症	D-7-4)-(2)-⑧
微弱陣痛	D-10-4)-②
鼻出血	D-14-3)-(1)-①、D-14-4)-(1)-⑤
微小管	C-2-1)-(2)-②
微小変化群	D-8-4)-(2)-③-2
非政府組織	B-1-9)-②
ビタミン	C-2-5)-⑮、C-4-3)-⑤、D-12-1)-⑨、D-12-4)-(8)-①
ビタミンB ₁₂ 欠乏性貧血	D-1-4)-(1)-⑦
ビタミンD	D-8-1)-⑦
ビタミンK欠乏症	D-1-4)-(2)-⑪
非特異的防御機構	C-3-2)-(1)-①

ヒト絨毛性ゴナドトロピン	D-9-2)-(2)-①
ヒトパピローマウイルス	C-3-1)-(2)-①
ヒトバラインフルエンザウイルス	C-3-1)-(2)-②
ヒトメタニューモウイルス	C-3-1)-(2)-②
ヒト免疫不全ウイルス	C-3-1)-(2)-③、E-2-4)-(1)-⑥
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針	B-3-1)-(4)
皮内テスト	D-3-2)-(2)
泌尿生殖器系	C-2-4)-(8)
被ばく	A-6-3)-(1)、E-6-1)-(2)、E-6-2)-(4)
被ばく線量	E-6-2)-(2)
批判的吟味	B-1-3)-(5)
皮膚	C-2-4)-(10)、C-3-3)-(2)-③、D-2-1)-(2)-③、D-3-1)-(1)、D-3-1)-(2)、D-3-1)-(3)、D-3-2)-(2)、D-3-4)-(3)-①、D-3-4)-(7)-②、D-3-4)-(7)-③、D-3-4)-(7)-⑤、D-3-4)-(7)-⑥、D-3-4)-(8)-③、E-3-6)-(2)-②
皮膚炎	D-3-4)-(1)-(2)
皮膚筋炎	E-4-3)-(4)-(2)
被覆材	F-2-9)-(1)-(5)
皮膚血流障害	D-3-4)-(3)-(2)
皮膚線維腫	D-3-4)-(8)-④、E-3-6)-(2)-①
皮膚線維肉腫	E-3-6)-(2)-③
皮膚そう痒症	D-3-4)-(2)-(4)
皮膚描記法	D-3-2)-(1)
飛蚊症	D-13-3)-(1)-①
飛沫感染予防策	E-2-4)-(5)-(2)
肥満症	D-12-3)-(5)
びまん性汎細気管支炎	D-6-4)-(3)-(5)
百日咳	D-6-4)-(2)-(13)
百日咳菌	C-3-1)-(3)-(7)
病院機能評価	B-1-8)-(9)
表現型	C-1-1)-(2)-(2)
標準化死亡比	B-1-4)-(6)
標準予防策	E-2-4)-(5)-(1)
費用対効果	B-1-8)-(14)
標的細胞	D-12-1)-(3)
表皮	D-3-1)-(1)
病理解剖	B-2-1)-(5)、E-9-1)-(6)、F-2-4)-(5)
病理検査	E-3-1)-(8)
病理組織検査	F-2-3)-(14)
ビリオン	C-3-1)-(1)-(2)
微量元素	C-2-5)-(15)、C-4-3)-(5)、D-12-1)-(9)、D-12-4)-(8)-(1)
頻尿	D-9-3)-(2)-(1)
ふ	
不安障害群	D-15-3)-(7)
不安定狭心症	D-5-4)-(2)-(4)
フィードバック調節	C-2-3)-(3)-(1)
風疹	D-3-4)-(7)-(5)、E-2-4)-(1)-(3)
風疹ウイルス	C-3-1)-(2)-(2)
負荷試験	D-12-2)-(4)
不活化ワクチン	C-3-1)-(6)-(3)
不規則抗体検査	F-2-13)-(3)
吹き抜け骨折	D-13-4)-(1)-(13)
副交感神経	D-2-1)-(7)-(1)
副甲状腺<上皮小体>	D-12-1)-(5)
副甲状腺機能亢進症	D-12-4)-(3)-(2)
副甲状腺機能低下症	D-12-4)-(3)-(3)
副作用	A-6-1)-(4)、B-3-1)-(6)、D-5-4)-(9)-(3)、F-2-13)-(9)
福祉・介護	F-2-14)-(3)
副腎	D-12-1)-(6)
副腎不全	D-12-4)-(4)-(3)
胸水・腹水検査	F-2-3)-(20)
複製	C-1-1)-(2)-(4)、C-3-1)-(1)-(3)、C-3-1)-(1)-(4)
輻輳反射	D-13-1)-(4)
副鼻腔炎	D-14-4)-(1)-(6)
腹膜	D-7-1)-(2)

腹膜炎	D-7-4)-(7)-①
腹膜中皮腫	E-3-6)-(6)-⑧
腹膜透析	D-8-4)-(1)-⑥
服薬管理	F-2-9)-(2)-⑥
浮腫	D-3-4)-(2)-①
不随意運動	D-2-3)-(1)-③
不正性器出血	D-9-3)-(3)-①
不整脈	C-4-4)-(②、D-5-4)-(3)-⑤
付属腺	C-2-4)-⑥
不適合輸血	F-2-13)-④
舞踏運動	D-2-3)-(1)-③
ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	D-3-4)-(7)-①
ブドウ球菌属	C-3-1)-(3)-④
ぶどう膜炎	D-13-4)-(1)-⑨
不妊症	D-9-4)-(2)-③
不変性	E-1-1)-④
プライマリケア医	B-1-7)-⑦
プライマリヘルスケア	B-1-4)-⑨
フラストレーション	C-5-2)-①
フランクスターリングの法則	D-5-4)-(5)-①
フリーラジカル	C-2-5)-⑭
プリオン病	E-2-4)-(1)-⑧
ブリックテスト	D-3-2)-②
ブルセラ属細菌	C-3-1)-(3)-⑦
フレイル	B-1-6)-⑦、E-8-1)-④
フローサイトメトリ	F-2-3)-⑭
プロゲステロン	D-9-2)-(2)-①
プロテインC	D-1-4)-(5)-①
プロテインS	D-1-4)-(5)-①
プロラクチン	D-9-2)-(2)-①
文化	A-1-2)-①、C-5-6)-⑪
文化的影響	C-5-6)-⑩
文献検索	B-1-3)-④
分散分析	B-1-2)-④
分子系統樹	C-1-2)-(1)-③
分娩	D-10-01)-①、D-10-01)-②、D-10-3)-①、D-10-3)-④、D-10-3)-⑧
分娩外傷	D-10-4)-②
分娩監視装置	D-10-01)-③
粉瘤	D-3-4)-(8)-④、E-3-6)-(2)-①
へ	
平滑筋	C-2-2)-(1)-⑤
平均寿命	B-1-4)-②
平均余命	B-1-4)-②
閉経	D-9-1)-⑨
平衡覚	D-2-1)-(6)-②、D-14-1)-③
平衡感覚機構	D-14-1)-⑥
平衡機能検査	D-14-2)-①
平衡聴覚器	C-2-4)-⑩
閉塞性細気管支炎	D-6-4)-(3)-⑪
閉塞性動脈硬化症	D-5-4)-(7)-④
へき地医療	A-7-1)-④、B-1-7)-③
ベスト菌	C-3-1)-(3)-⑦
ヘパリン起因性血小板減少症	D-1-4)-(5)-③
ヘム	C-2-5)-⑫
ヘモクロマトーシス	D-12-4)-(9)-①
ヘリコバクター属細菌	C-3-1)-(3)-⑧
Helicobacter pylori感染症	D-7-4)-(2)-②
ヘルスフォーオール	B-1-4)-⑨
ヘルスプロモーション	B-1-4)-⑨
ヘルニア	D-7-4)-(7)-②
ヘルパーT細胞	C-3-2)-(3)-③
ヘルペス	D-3-4)-(7)-⑤、D-3-4)-(7)-⑥
辺縁系	D-2-1)-(4)-③
変形性関節症	D-4-4)-(1)-⑦
弁疾患	C-4-4)-②

変性	C-2-3)-(2)-③、C-3-1)-(1)-⑤、C-4-2)-(①、C-4-2)-(②
扁桃	D-1-1)-(④、D-14-4)-(1)-⑧
扁桃炎	D-6-4)-(2)-②
便秘症	D-7-4)-(3)-⑪
扁平苔癬	D-3-4)-(6)-①
鞭毛虫類	C-3-1)-(4)-①
ほ	
保育	E-7-3)-(③
法医解剖	B-2-1)-(⑤
防御機構	D-6-1)-(⑩
膀胱炎	D-8-4)-(8)-③
膀胱癌	E-3-6)-(7)-③
膀胱憩室	D-8-4)-(8)-⑩
膀胱結石	D-8-4)-(8)-②
膀胱尿管逆流症	D-8-4)-(7)-②
方向用語	C-2-2)-(2)-①
膀胱瘤	D-8-4)-(8)-⑪
孢子虫類	C-3-1)-(4)-①
放射線	E-6-1)-①、E-6-1)-③、E-6-2)-②、E-6-2)-④
放射線感受性	E-6-1)-(④
放射線治療	E-6-1)-⑥、E-6-2)-③
放射線肺炎	D-6-4)-(3)-⑥
放射線被ばく	E-6-2)-①
放射能	E-6-1)-①
放出	C-3-1)-(1)-④
法と倫理	D-15-1)-③
傍分泌	C-2-3)-(1)-②
保健師助産師看護師法	B-1-8)-(⑪
保健指導	C-5-7)-(⑤
保健所	B-1-6)-(⑧、B-1-7)-(⑨
歩行障害	D-2-3)-(2)-①、D-4-3)-①、E-8-1)-③、E-8-1)-⑥
歩行補助具	F-2-14)-(⑦
ポジトロン断層法 (PET)	D-6-2)-①
母子保健	A-7-1)-③、B-1-6)-(⑨、B-1-9)-①、D-10-3)-⑦
補体	C-3-2)-(1)-③
補聴器	D-14-4)-(1)-②
勃起	D-9-1)-⑤
勃起不全	D-9-3)-(1)-①
発作性夜間ヘモグロビン尿症	D-1-4)-(1)-⑤
発疹	E-2-3)-②
発疹熱群リケッチア	C-3-1)-(3)-⑪
ボツリヌス菌	C-3-1)-(3)-⑥
母斑	D-3-4)-(8)-①、D-3-4)-(8)-②
母平均	B-1-1)-③
保有動物	C-3-1)-(4)-②
ポリオウイルス	C-3-1)-(2)-②
ポリソムノグラフィー	D-6-2)-⑦
ポリファーマシー	E-8-1)-⑨、F-2-8)-⑭
ボルフィリア	D-12-4)-(9)-②
ボルフィリン	C-2-5)-⑫
ホルモン	D-8-1)-⑦、D-11-1)-③、D-12-1)-①、D-12-1)-②、D-12-1)-③、D-12-1)-⑤、D-12-1)-⑥、D-12-1)-⑦、D-12-2)-①、D-12-2)-③、D-12-2)-④、E-7-3)-⑦
ホルモン濃度	D-12-2)-②
本態性高血圧症	D-5-4)-(9)-①
本態性血小板血症	D-1-4)-(4)-⑥
本能行動	C-5-2)-①
ポンプ	C-2-1)-(1)-②
翻訳	C-1-1)-(2)-⑤
ま	
マイクロバイオーーム	C-3-1)-(3)-⑫
マイコプラズマ	E-2-4)-(2)-⑩
膜性腎症	D-8-4)-(2)-②-3
膜電位	C-2-1)-(1)-①
麻疹	D-3-4)-(7)-⑤、E-2-4)-(1)-②
麻疹ウイルス	C-3-1)-(2)-②

麻酔薬	F-2-10)-③
末梢血	D-1-2)-①
末梢神経	D-2-1)-(1)-①、F-2-8)-④
末梢神経伝導検査	D-2-2)-②
末梢神経ブロック	F-2-10)-①
マトリクス	C-3-1)-(1)-①
麻薬	E-5-3)-(1)-⑥、E-5-3)-(1)-⑦
麻薬及び向精神薬取締法	B-3-1)-⑤
マラセチア症	D-3-4)-(7)-②
Mallory-Weiss 症候群	D-7-4)-(1)-③
慢性好酸球性白血病	D-1-4)-(4)-⑩
慢性骨髓性白血病	D-1-4)-(4)-②
慢性肝炎	D-7-4)-(6)-②
慢性疼痛	D-4-4)-(1)-⑭、D-15-2)-①、F-2-16)-④
慢性閉塞性肺疾患	D-6-4)-(3)-①
み	
ミオクローヌス	D-2-3)-(1)-③
味覚	D-2-1)-(6)-②、D-14-1)-⑦
味覚検査	D-14-2)-②
ミトコンドリア	C-1-1)-(1)-⑤
ミトコンドリア遺伝	C-1-1)-(2)-①
ミトコンドリア遺伝子	C-4-1)-②
む	
無医地区	B-1-7)-③
無顆粒球症	D-1-4)-(6)-①
無気肺	D-6-4)-(7)-②
無月経	D-9-3)-(4)-①
ムコール	C-3-1)-(3)-⑩
無痛性虚血性心疾患	D-5-4)-(2)-⑤
ムンプス	E-2-4)-(1)-⑤
ムンプスウイルス	C-3-1)-(2)-②
め	
メタ分析（メタアナリシス）	B-1-3)-③
メタボリックシンドローム	C-4-3)-⑥
めまい	D-14-4)-(1)-③
免疫	C-3-2)-(1)-⑥、C-3-2)-(1)-⑨、D-6-1)-⑩、E-3-1)-⑥、E-7-3)-⑤
免疫応答	C-3-2)-(1)-⑧、C-3-2)-(4)-①
免疫学的自己	C-3-2)-(1)-⑩
免疫寛容	C-3-2)-(1)-⑩
免疫グロブリン	C-3-2)-(2)-②、C-3-2)-(2)-③
免疫血清検査	F-2-3)-⑮
免疫性血小板減少性紫斑病	D-1-4)-(2)-②
免疫反応	C-3-2)-(1)-⑤
免疫防御機構	D-3-1)-③
免疫抑制薬	F-2-13)-⑨
メンタルヘルス対策	B-1-5)-⑥、B-1-6)-⑤
も	
毛細血管	D-5-1)-⑧
毛嚢炎	D-3-4)-(7)-①
網膜芽細胞腫	E-3-6)-(10)-①
網膜色素変性症	D-13-4)-(1)-⑥
網膜症	D-13-4)-(1)-④
網膜中心静脈閉塞症	D-13-4)-(1)-⑫
網膜中心動脈閉塞症	D-13-4)-(1)-⑫
網膜剥離	D-13-4)-(1)-⑧
モチリン	D-7-1)-⑫
モニタリング	F-2-10)-⑦
もやもや病	D-2-4)-(1)-⑦
や	
薬剤	A-6-1)-④、C-4-1)-⑥、F-2-8)-⑨、F-2-9)-(2)-⑥
薬剤感受性試験	F-2-3)-⑰
薬剤師	A-5-1)-②
薬剤師法	B-1-8)-⑰
薬剤性過敏症症候群<drug-induced hypersensitivity syndrome>	D-3-4)-(4)-①

薬疹	D-3-4)-(4)-①、D-3-4)-(4)-②
薬剤性肺炎	D-6-4)-(5)-④
薬物	B-3-1)-(5)、C-3-3)-(1)-①、C-3-3)-(1)-②、C-3-3)-(2)-①、C-3-3)-(2)-②、D-3-4)-(4)-②、D-15-3)-(3)、E-5-3)-(1)-⑥、E-5-3)-(1)-⑦、F-2-8)-①、F-2-8)-③、F-2-8)-⑧
薬物アレルギー	E-4-3)-(6)-①、F-2-8)-②
薬物性肝障害	D-7-4)-(5)-⑦
薬物性腸炎	D-7-4)-(3)-⑦
薬物治療	D-5-4)-(3)-⑤、D-12-4)-(5)-⑬
薬物動態	C-3-3)-(2)-③、E-8-1)-(9)、F-2-8)-(9)、F-2-8)-⑩
薬物投与方法	C-3-3)-(2)-③
薬物療法	D-5-4)-(1)-③、D-10-3)-⑧、E-8-1)-(9)、F-2-16)-②
薬理作用	C-3-3)-(1)-②、F-2-8)-④、F-2-8)-⑤、F-2-8)-⑫、F-2-8)-⑬
役割理論	C-5-5)-③
薬機法	B-3-1)-(5)
夜盲	D-13-3)-(1)-①
ゆ	
有意差検定	B-1-2)-①、B-1-2)-③
有害事象	B-3-1)-(6)、F-2-8)-④、F-2-8)-⑤、F-2-8)-⑥、F-2-8)-⑦、F-2-8)-⑫、F-2-8)-⑬、F-2-16)-③
有機溶剤	E-5-3)-(1)-④
有棘細胞癌	E-3-6)-(2)-⑤
有機リン	E-5-3)-(1)-③
有病率	B-1-4)-④
輸液	F-2-9)-(2)-⑦
輸血	F-2-9)-(2)-⑦
輸血検査	F-2-13)-①
輸血副反応	F-2-13)-④
癒着胎盤	D-10-4)-②
ユニバーサルデザイン	B-1-6)-②
よ	
癰	D-3-4)-(7)-①
要介護認定	B-1-8)-④
溶血性尿毒症症候群	D-1-4)-(2)-⑤
葉酸欠乏性貧血	D-1-4)-(1)-⑧
羊水	C-2-4)-⑪
羊水検査	D-10-01)-④
腰椎分離・すべり症	D-4-4)-(1)-⑬
腰背部痛	D-4-4)-(1)-⑭
腰部脊柱管狭窄症	D-4-4)-(1)-⑫
羊膜腔	C-2-4)-⑪
用量反応曲線	C-3-3)-(1)-①
抑制試験	D-12-2)-④
抑制性レセプター	C-3-2)-(3)-①
欲求	C-5-2)-①
予防医学	B-1-4)-⑦
予防接種	A-6-3)-①、B-1-8)-⑳
ら	
らい菌	C-3-1)-(3)-⑨
ライノウイルス	C-3-1)-(2)-②
ライフサイクル	C-5-4)-③
ライフステージ	B-1-5)-⑨
ライム病ボレリア	C-3-1)-(3)-⑪
らせん菌群	C-3-1)-(3)-⑧
ラプラスの法則	D-5-4)-(5)-①
卵子	C-2-4)-①
卵巣機能障害	D-9-4)-(2)-②
卵胞刺激ホルモン	D-9-2)-(2)-①
卵膜	C-2-4)-⑪
り	
リウマチ性多発筋痛症	E-4-3)-(5)-②
利益相反	A-1-3)-②、B-3-1)-②
理学療法	F-2-14)-⑥
理学療法士及び作業療法士法	B-1-8)-⑰
罹患率	B-1-4)-④

リケッチア	E-2-4)-(2)-㉓
リズム性変化	C-2-3)-(3)-②
リソソーム	C-1-1)-(1)-④
リハビリテーション	D-2-4)-(1)-⑧、D-2-4)-(9)-①、D-4-4)-(1)-㉕、E-4-3)-(2)-①、F-2-14)-①、F-2-14)-③
リハビリテーション・チーム	F-2-14)-②
リボソーム	C-1-1)-(1)-③
リボタンパク質	C-2-5)-⑨
流行性耳下腺炎	E-2-4)-(1)-⑤
流産	D-10-4)-①
良性肺腫瘍	E-3-6)-(5)-⑤
良性発作性頭位眩暈症	D-14-4)-(1)-④
両立支援	F-2-16)-⑤
緑内障	D-13-4)-(1)-③
緑膿菌	C-3-1)-(3)-⑦、E-2-1)-④、E-2-4)-(2)-④
リン	D-8-3)-(1)-④
淋菌	C-3-1)-(3)-⑤、E-2-4)-(4)-①
臨床研究中核病院	B-1-7)-⑤
臨床検査	F-2-3)-①、F-2-3)-②、F-2-3)-③、F-2-3)-④、F-2-3)-⑤
臨床検査技師等に関する法律	B-1-8)-⑰
臨床工学技師法	B-1-8)-⑰
臨床放射線技師法	B-1-8)-⑰
リンパ	D-5-1)-⑩
リンパ管	D-5-1)-⑨
リンパ組織	D-1-1)-④
倫理審査委員会	B-3-1)-④
る	
類天疱瘡	D-3-4)-(5)-①
ループス腎炎	D-8-4)-(6)-②
れ	
レジオネラ	E-2-4)-(2)-⑩
レジオネラ属菌	C-3-1)-(3)-⑦
レスポナント条件付け	C-5-2)-①
レトロウイルス	C-3-1)-(2)-③
レニン	D-8-1)-⑦
レプトスピラ属細菌	C-3-1)-(3)-⑪
連合野	D-2-1)-(4)-②
連鎖球菌	E-2-4)-(2)-②
レンサ球菌属	C-3-1)-(3)-④
ろ	
老化機構	E-8-1)-①
労作性狭心症	D-5-4)-(2)-①
労働安全衛生法	B-1-8)-⑧
労働衛生3管理	B-1-6)-⑤
労働基準法	B-1-6)-⑨、B-1-8)-⑧
老年症候群	E-8-1)-③
ロコモティブ・シンドローム	E-8-1)-④
ロタウイルス	C-3-1)-(2)-②
肋骨骨折	D-6-4)-(9)-①
わ	
ワクチン	A-6-3)-①、C-3-1)-(6)-②